

期待される銀行
ご奉仕する

十六銀行

創立 明治10年
本店 岐阜市

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友

名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 3 6 3 9 3

購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

題字は熱田神宮 藤田宮司様

全席自由席
一般 2,500円
学生 1,500円

附 祝 言
後見 武田 邦 邦
欣司 地 韶
安藤 高橋
橋本 道喜
磯道 分林
終了五時頃

主催 梅邦 田 邦 久 後 援 会

昭和五十二年の新春を迎え、本年の催しを待ち望んでおられる方も多い。本年の催しは、各会による多彩な演能が予定されており、一層が、培われた伝統をみかき、一層



昭和五十二年の新春を迎え、本年の催しを待ち望んでおられる方も多い。本年の催しは、各会による多彩な演能が予定されており、一層が、培われた伝統をみかき、一層

真の価値を求めて 能楽界・昭和52年の課題

く迫られている。新しい価値が、単に物質的なものでなく、精神

昭和五十二年を寿ぐ

能楽協会名古屋支部
支部長 藤田六郎兵衛

の練習と後進の育成につとめ、もって斯道の隆昌に努力いたす所存でございます。

演能カレンダー (熱田神宮能楽殿)

[昭和52年1月]

- 3日(月) 能楽協会名古屋支部新年開初式(協会関係者のみ)
- 7日(金) 学 生 能
- 9日(日) 青陽会定期能 (番組③面) (有料)
- 15日(祝) 名古屋清浄会能 (番組③面) (来場歓迎)
- 16日(日) 熱田紳士能 (番組③面) (来場歓迎)
- 23日(日) 観井会・謡楽会新春謡曲大会(番組③面来場歓迎)

[2月]

- 6日(日) 名古屋宝生会定式能 (番組④面) (有料)
- 11日(祝) 邦謡会仕舞統百番会 (番組④面) (来場歓迎)
- 12日(土) 西院高校能鑑賞会
- 13日(日) 観世会定式能 (有料)
- 20日(日) 梅 鷗 会 能 (有料)
- 26日(土) 観世九皇会定期能 (有料)
- 27日(日) 松謡会春の大会 (来場歓迎)

[3月]

- 6日(日) 九皇会春の会 (来場歓迎)
- 11日(金) 四大学学生会大会 (来場歓迎)
- 12日(土) 梅 若 会 会 会 (有料)
- 13日(日) 清 韻 会 会 会 (有料)
- 20日(日) 邦 謡 会 会 会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了解下さい。)

文相に海部俊樹氏

海部氏は愛知県選出議員として、三木内閣官房副長官として活躍、観世流太鼓・長生会(鬼頭八郎師主宰)の名譽会長であり、能楽への理解も深く期待される。

謹賀新年
熱田神宮宮司 篠田康雄
権宮司長 谷晴男

文化財になっていきます。昔から三河のお能といえは、新築の建て直し、能楽の友紙の読者として、幼き日の思い出をまじえ筆をとった次第です。

| | | | | | | |
|----------------|---|--------------------------------|---|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|
| 幽 譚 会 片山博太郎 | 財団法人 研能会 橋香会 梅若三 梅若三 梅若三 梅若三 梅若三 梅若三 | 井上嘉久 梅若六 梅若六 梅若六 梅若六 梅若六 | 鎮仙会 観世之丞 観世之丞 観世之丞 観世之丞 観世之丞 観世之丞 | 名古屋観世会 観世元正 観世元正 観世元正 観世元正 | 鳳鳴会 武田太加志 武田太加志 武田太加志 武田太加志 | 昭観門会 観世元昭 観世元昭 観世元昭 観世元昭 |
|----------------|---|--------------------------------|---|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------|

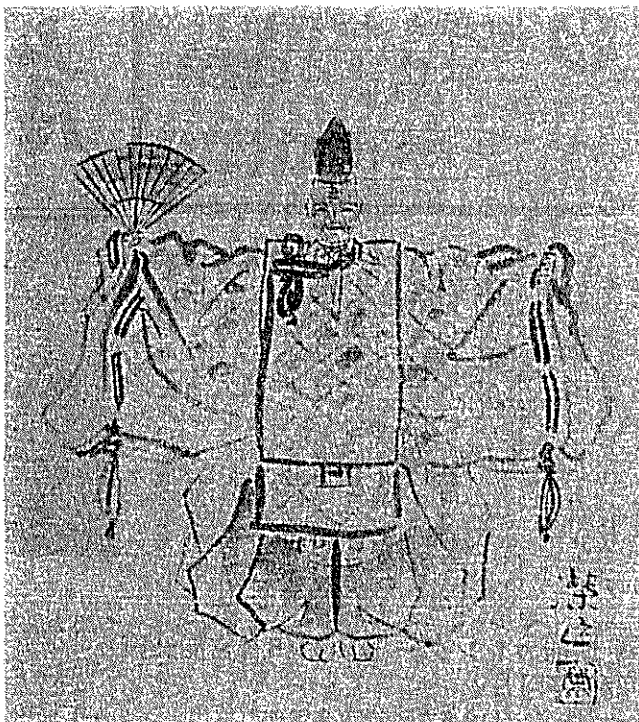
| | | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 |
| 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 |

| | | | | | | |
|------|--------|--------|------|-------|-----|------|
| 橋岡久共 | 名古屋淡交会 | 名古屋橋岡会 | 大西智久 | 片山慶次郎 | 藤井久 | 山本勝一 |
| 橋岡久共 | 名古屋淡交会 | 名古屋橋岡会 | 大西智久 | 片山慶次郎 | 藤井久 | 山本勝一 |

「能楽の友」ますますのご発展をお祈り申し上げます。
佐野直治氏は名古屋守山区

宝生流
宝生流
宝生流
宝生流

外科・七
東し
TE
東山公



能 紀 行

もう一度新しく

絵と文 二 井 栄 逸

一九七七年がさわやかに明け渡った。もう一度新しく、という言葉は毎年元日がめぐり来るたびに自分に言いかけず言葉なのであるが、一向、変りばえのしない自分が自分である。五十回目の元日をひかえて死んだ人、九〇回以上の元日をひかえても元気な人、人間はいくら年をとっても、もう一度あたらしく、という意欲をもやすものである。

ゲーテは、『私は死を考へても極めて平静でいられる。』というのには、われわれの精神は、全く破壊されない性質のものだということを確認しているからである。それは永遠から永遠に働き続けるものだ。まさに太陽にも似ている。われわれの肉眼にだけ沈んでゆくように見えるが、実際は決して没するのではなく、たえず輝きつづけてゆくのだ、と、いう。死は不可知である。死は体験し得ない未知の世界である。先哲が説いたように、死は科学的な一変化であり

ある。その意味では死はないといえる。あるものは他人の死である。自分の死はないのである。そのような死に向って何も思わねばならない。たゞよりよく生きることを考へればよいのである。少しでも自分をいい方に改革してゆこうと考へるのは、元日ほどけじめのつく時はない。足ることを知る。限界を超えぬ。なつてくる理を学ぶ。満足、節約、感謝、の三つのことを確認するの、再び廻り来る切に生き、そして無限の未来に向って魂をやしつづけてゆくことを確認し合うのも元朝なればこそである。

正月は、どの能舞台でも天下泰平国土安穩を祈つて翁が上演される。翁は一種の祭儀と考へてよく演者も昔は、二十一日間、別火(べつか)して斎戒沐浴を行つて勤めたのである。

第二十期第三回
青陽会定期能
五十二年一月九日(日)午前十時半始

52年1月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

(1月)

| | | | | |
|--------|-----|-------|--------|----|
| 9日(日) | 観世流 | 雲林院 | 山階信弘 | ほか |
| 16日(日) | 世生流 | 「巻」 | 野村剛作 | ほか |
| 23日(日) | 宝金剛 | 流「老松」 | 豊嶋弥左衛門 | ほか |
| 30日(日) | 観世流 | 「鳥道舟」 | 観世静夫 | ほか |

NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)

(1月)

| | | | | |
|--------|-----|------|------|----|
| 9日(日) | 宝世流 | 「望月」 | 松本忠雄 | ほか |
| 16日(日) | 観世流 | 「山姥」 | 観世元昭 | ほか |
| 23日(日) | 世生流 | 「朝長」 | 大根秀夫 | ほか |
| 30日(日) | 観世流 | 「求塚」 | 喜多長世 | ほか |

NHK教育TV (午前9時)

15日(祝) 仕舞「実盛」梅若六郎「船弁慶」桜岡道雄
「玉之段」後藤得三「綱之段」梅若万三郎、 仙吟
「景清」近藤乾三など
(曲目変更のときはご了解下さい)

新春謡曲大会
一月二十三日(日)午前九時半始
熱田神宮能楽殿
松本頭一

位にあるように翁の面(おもて)も、数ある能面の中で別格の地位を占める。舞楽面の影響を受けている翁の面と、狂言の黒式だけは切頭になっている。そして、翁の面には豊かな笑いがある。その笑いには、明朗な笑い、素朴な笑い、又、いかにも魔揚な笑いがある。

翁は、般若や小面のように数多くあるが傑作が少ない。作者は、殆ど弥勒(みろく)、日光(にっこう)だけである。

これら、福来等と言われているがこれら名匠の手になったものと信じてられるものは稀である。或る能面師は言う。豊かなほろほろみも大事であるが、翁という大曲を演じられるだけの位を備えていなければ立派な面とはいえない。(スケッチは翁)

熱田神宮能楽殿運営委員会

委員長 熱田神宮権宮司 長谷晴男
委員 熱田神宮大学教授 山本文彦
熱田神宮 総務部 部長 岡地幸雄
熱田神宮 総務部 部長 岡地幸雄
熱田神宮 総務部 部長 岡地幸雄

| | | | |
|---|--------|--------|--------|
| 同 | シテ方 | 観世流 | 殿島修二 |
| 同 | シテ方 | 宝生流 | 内藤泰二 |
| 同 | シテ方 | 高安流 | 高安滋郎 |
| 同 | 笛方 | 藤田流 | 藤田六郎兵衛 |
| 同 | 小鼓方 | 幸清流 | 福井啓次郎 |
| 同 | 大鼓方 | 石井流 | 河村総一郎 |
| 同 | 大鼓方 | 観世流 | 鬼頭八郎 |
| 同 | 狂言方 | 和泉流 | 井上松次郎 |
| 同 | 月見ヶ丘開演 | 株式会社社長 | 高橋半次郎 |
| 同 | 岡谷不動産 | 株式会社顧問 | 桐本陸良 |
| 同 | 茶道 | 松尾流 | 松尾宗吾 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---------------|--|---|---|--------------------------------------|
| <p>賀正</p> <p>財団法人 鎌倉能舞台</p> <p>中森 晶三</p> <p>中森 貫太</p> <p>〒248 鎌倉市長谷三十五番一十三 電話(〇四六七) 五五五七</p> | <p>大江 又三郎</p> <p>京都市東山区本町三番六 電話(〇七五)五六二〇六二番</p> | <p>一謡会 河村 鉦二</p> <p>叶石会 河村 総一郎</p> <p>名古屋市昭和区前山町一丁目二三 (〒466) 電話(七六二) 四八八二</p> | <p>邦謡会 梅田 邦久</p> <p>今清 須部 一政</p> <p>今清 沢美和</p> <p>名古屋市昭和区台町三丁目十六番五 電話(合室) (八四二) 四六三二番</p> | <p>嘉謡会 加藤 総兵衛</p> <p>名古屋市千種区青柳町五ノ一五 電話(七四二) 四六七五番</p> | <p>玉鑿会 南条 秀雄</p> <p>永徳堂西町二〇 京都市左京区</p> | <p>洗心会 奥村 富久子</p> <p>華心会</p> <p>電 075-771-0767</p> | <p>井戸 良造</p> <p>井戸 和男</p> <p>大阪市阿倍野区文の里4-24-17</p> | <p>柴田 初太郎</p> <p>柴田 収武</p> <p>名古屋千種区本山町一三二 電話(七五一) 六六七六番</p> | <p>名古屋修 諷会</p> <p>大垣 浦声会</p> <p>稲古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨之本町五八</p> | <p>竹韻会 杉村 竹翠</p> <p>名古屋市中東区藤ヶ丘八三 電話(七七一) 五〇三九番</p> | <p>田村 正諷会</p> <p>大坂市東住吉区東藤合町一五七 電話(大坂) (七〇五) 二四〇〇番</p> | <p>徳島 正韻会</p> <p>徳島市吉野本町四三番内 電話(徳島) (五二二) 四七四四番</p> | <p>松語会 佐藤 太俊</p> <p>今井 幾三郎</p> <p>今井 清隆</p> | <p>廣田 後援会</p> | <p>壺泉会 泉 嘉夫</p> <p>名古屋市昭和区山里町一〇三 電話(八三二) 三一一八番 西宮市甲陽園目山町一の一七八 電話(八〇七) 九八八〇番 二四五八</p> | <p>久田 親正会 久田 秀雄</p> <p>東京世田谷区三軒茶屋二一〇一三三 電話(〇三) 四三二二六三七番</p> | <p>春鶯会 梅若 善高</p> <p>豊中市新千里南町三丁目18-12 電話(〇六) 八三一七八五番</p> | <p>雄謡会 下田 雄三</p> <p>大阪府東区高麗橋詰町五三</p> |
|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|---|---|---------------|--|---|---|--------------------------------------|

だ。まさに太閤にも似ている。われわれの肉眼にだけ沈んでゆくうにみえるが、実際は決して没するのではなく、たえず輝きつづけてゆくものだから、という。死は不可知である。死は体験し得ない未知の世界である。先哲が説いたように、死は科学的な変化であり、動いたのである。

正月は、どの能舞台でも天下泰平国土安寧を祈って翁が上演される。翁は一種の祭儀と考えてよく演者も昔は、二十一日間、別火(べっか)して斎戒沐浴を行って勤めたのである。

第二十三期第三回

青陽会定期能

五十二年一月九日(日)午前十時半始
熱田 神宮 能楽 殿

生駒美代子
飯富 雅介
柳原富司忠
森本 重一
佐藤 友彦

吉野 天人
飯富 雅介
柳原富司忠
森本 重一
佐藤 友彦

清沢 一政
須部 修二
殿島 修二

俊 寛
高安 滋郎
河村総一郎
鬼頭 季信
山口 亮
井上松次郎

雁 大名
井上礼之助
佐藤 秀雄
井上松次郎

小 鍛冶
西村 敏也
河村総一郎
鬼頭 季信
高安 勝久
福井啓次郎
大野 弘之

〔有料〕
附祝言
主催 青陽会

名古屋清韻会大会

五十二年一月十五日(祭)十時半始
熱田 神宮 能楽 殿

近藤 幸江
小島トミル

碓 間
高安 滋郎
鬼頭喜太郎
鬼頭三男
後藤 文蔵
地謡
川勝 梅寿

昆布 売
佐藤 友彦
井上礼之助
ほか舞臺子、素謡、仕舞、連吟など二十数番
主催 名古屋清韻会
入場歓迎
終演四時半頃の子定
補導 大槻 秀夫

熱田紳士能

昭和五十二年一月十六日(日)午前九時始
熱田 神宮 能楽 殿

鬼頭 京子
西村 敏也
吉田 定男
鬼頭 好信
後藤 孝一郎
藤田 昭彦

枕 慈童
村瀬 郁子
高安 滋郎
福井啓次郎
鬼頭喜太郎
鬼頭三男

羽 衣
高安 滋郎
福井啓次郎
鬼頭喜太郎
鬼頭三男

主催 熱田紳士能

52年1月
NHKラジオ第一
〔1月〕
9日(日) 親世剛世
16日(日) 宝金親
23日(日) 親世剛世
30日(日) 親世剛世
NHK・FM (毎)
〔1月〕
9日(日) 宝世世多
16日(日) 親世剛世
23日(日) 親世剛世
30日(日) 親世剛世
NHK教育TV
15日(祝) 仕舞「與玉之段」後藤三
「泉清」近藤幸三
(曲目変更のときは)

謡楽会

一月二十三日(日)午前九時半始
熱田 神宮 能楽 殿

神 歌
竹下 伝吉
村本 晃
塚本 義明
相模 純二
谷 幹一
小林富美代
武田 衛
長谷川徳次
堀 中
寺石 雅子
立石 善晴

高 北砂
相模 純二
伊藤 淳吉
東 北
谷 幹一
竹下 稲子
菅 雅子

百 正
武田 衛
堀 中
經 正
小林富美代
堀 中
萬 正
堀 中

吉野 天人
小牧 大助
河村総一郎
鬼頭喜太郎
藤田 昭彦
頼 政
今村 香
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎

船 弁慶
池田 菊雄
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎

卒都婆小町
竹下 稲子
河村総一郎
藤田 昭彦
羽 衣
大塚 幸二
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎
福井啓次郎

班 女
早川 豊子
塚田 貞子
伊藤 淳吉
弱法師
岡田 浩二
林 留三

玄 象
上野 典子
河村総一郎
鬼頭喜太郎
船 弁慶
大井 光明
河村総一郎
鬼頭喜太郎
福井啓次郎
藤田 昭彦

安 宅
鈴木 信男
武田 志房
藤 戸
立石 善晴
山口 源一
塚本 義明

山 姥
小川 新次
山 姥
小川 新次
山 姥
小川 新次

〔御来場歓迎〕
終了五時子定
主催 武田謡楽井会

名古屋修 諷 会
東京都杉並区宮前町四一九一四
松青会 泉 泰 孝

名古屋清光会
岡 田 光 絃
名古屋市中区栄三三三二一〇

雪雪会 後 藤 契 雲
名古屋市中区栄三三三二一〇

猶惠会 熊 沢 惠 美 子
名古屋市中区猪高町猪子石高根
15-68 日車マンション四〇四

重陽会 菊 池 重 郷
大山市大山宇相生五九一六
電話(〇五六八)④四五〇二番

松和会 中 村 和 男
各務原市那加桜町2-11
電話(〇五八三)②二七九四番

緑名会 田 中 武
尾張旭市城山町三ツ池六一九八
電話(〇五六二)③三三〇四番

幸誦会 近 藤 幸 江
岡崎市鴨田本町十一番地ノ三
電話(〇五六四)④二五二九

近 藤 乾 乾 三
東京都豊島区東鴨田五二二三八

野 口 祿 久
東京都港区西麻布四一八二二八
電話(〇三)四〇九一〇六一〇番

名古屋巽 辰 巳 孝
佐 野 正 治
金沢市泉野町四丁目十二十四

大垣浦声会
稲古場 大垣市竹島町善念寺
住所 京都市左京区下鴨芝本町五八

内 藤 泰 二
神戸市東灘区田中町一13-26
本山アーバンライフ 四〇二号

緑 宝 会
名古屋市中区鳴海町池上16-10
〒458 加 藤 勝 利
電話(八九六)三四二八番

竹 腰 勝 一
東京都杉並区成田東4-35-20

吉 田 俊 彦
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話(三八六)二六四一

金 剛 永 謹
東京都豊島区東鴨田五二二三八

金 剛 巖
尾張旭市城山町三ツ池六一九八
電話(〇五六二)③三三〇四番

中部金剛会
岡崎市鴨田本町十一番地ノ三
電話(〇五六四)④二五二九

豊嶋弥左衛門
京都市東山区知恩院山内林下町四五五
電話(〇七五)五六一一五四〇八

豊嶋三千春
京都市東山区知恩院山内林下町四五五
電話(〇七五)五六一一五四〇八

金剛流豊星会
京都市東山区知恩院山内林下町四五五
電話(〇七五)五六一一五四〇八

徳島正韻会
徳島市吉野本町四 三谷内
電話徳島(五二)四七四四番

廣田後援会
廣田 隆 幸 稔

廣田 隆 幸 稔

菊扇会(名古屋・京都)
廣 田 泰 三
廣 田 泰 三

金 春 欣 三
東京都杉並区成田東4-35-20

本 田 光 洋
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話(三八六)二六四一

林 鉄 郎

八 声 会
伊勢市宮町一14-17
電話(〇五九)③三三〇四番

麦 の 会
久 田 徹 二
衣 斐 正 宜
長 田 驍

麦 の 会
久 田 徹 二
衣 斐 正 宜
長 田 驍

麦 の 会
久 田 徹 二
衣 斐 正 宜
長 田 驍

名古屋宝生会定式能

二月六日(日)十二時半始
熱田神宮 能楽殿

能夜討曾我 本間 英孝 衣斐 正宜
内藤 泰二 高安 勝久 寛 勉一 寛 三男
政 西村 敏山 飯富 雅介 後藤 孝一郎

能頼 塚 高安 滋郎 河村 総一郎 鬼頭 喜太郎
飯富 啓次郎 藤田 六郎兵衛
主権 名古屋宝生会
事務所 名古屋市昭和区山里町一三五
内藤 泰二 方
電話 〇五二(八三三)三四四九

邦謡会仕舞続百番会

二月十一日(祝)午前十時始
熱田神宮 能楽殿

藍染川 早川 順子 七騎 落 田島 とも
東 北キリ石井千代子 放下 僧ヶ松本 直子
現在七面 シェリーベル 蕙恵

大 典 大井 和子 花 月ヶ横山恵美子
六 浦キリ 奥村 妙子 吉野 静ヶ岡田英佐子
代 主 尾関 明 合 浦 奥村 正治
当 麻 古矢 豊 小 督キリ立松 秀和
飛 雲 安藤 勝朗 卷 正キリ大谷 知子
九 世 戸 森 たか子 緒ヶ七井 沙巳子
和 布 川 西川 嘉代子 柏 龍 宮川 千尋
竹 生 島 今井 本明 雷 盛キリ小鷲 秀郎
錦 山 鏡 岩田 竜蔵 電 岸井 一夫

志 賀 敏子 桜 川ヶ下 孝子
二人 静キリ 長谷部良江 松 野 寺キリ鈴木 峰子
小 鍛 冶キリ須田 豊子 田 村キリ推葉富美子
東 方 朔 野村夜詩江 山本 都子 近藤とさ子
殺 生 石 丹羽 久子 通 盛 坂野 寿夫
淡 磨 源 氏 岡田 弘 鐘 通 盛 坂野 寿夫
須 磨 源 氏 岡田 弘 鐘 通 盛 坂野 寿夫

三 笑 久保八重子 生田 敦盛ヶ岩橋 時子
社 若ヶ我 蓮子 益 之 段 横井 敬子

一・六の稽古
私がともかくも
これまでやれたの
は、何と云っても
一・六の稽古のお
蔭です。

菊 慈 童 野田 博子
藤 土 知 珠 三村 律子
橋 井 慶 藤野 貞子
富士太鼓 福垣 守
善 界 磯谷 行雄
小 抽 曾 我 黒田加寿子
岩崎 雪代
小 堀 七 山 本 じ ず 子
堀 口 乙 子
谷 行 溝 口 乙 子
滝 田 正 子
采 女 女 々 牧 野 あ い 子
女 々 々 上 田 洋 子
舎 利 上 田 洋 子
放 生 川 妹 尾 久
雲 林 院 院 院 院 院 院
野 守 守 守 守 守 守
俊 成 忠 度 高 野 千 勢 子
遊 行 柳 柳 柳 柳 柳 柳
歌 古 古 古 古 古 古
東 岸 居 士 古 古 古 古 古 古
半 部 部 部 部 部 部
熊 坂 坂 坂 坂 坂 坂
江 之 島 坂 坂 坂 坂 坂
五 之 段 坂 坂 坂 坂 坂
船 井 慶 福 田 賢 美
老 松 関 谷 董
江 口 口 口 口 口 口
藤 戸 中 村 玲 子
梅 戸 中 村 玲 子
芭 蕉 藤 井 淑 子
小林 富美子

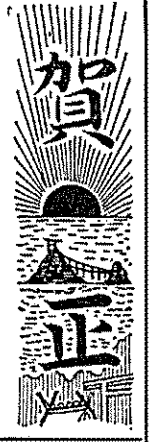
葛 城 夕 佐 藤 幸 子
車 之 段 榎 谷 敏 子
爽 盛 盛 盛 盛 盛 盛
山 姥 夕 七 所 道 雄
班 女 々 々 中 川 光 子
身 延 延 延 延 延 延
源 氏 供 養 和 田 泰 子
水 無 月 枝 奥 村 雁 子
忠 度 戸 谷 克 巳
雨 月 月 月 月 月 月
粘 前 平 野 幸 子
通 小 町 沢 和 子
弱 法 師 丸 井 寿 子
梅 ヶ 枝 枝 枝 枝 枝 枝
頼 政 宮 崎 静 男
清 経 経 経 経 経 経
土 車 加 藤 井 知 子
幸 都 婆 小 町 唐 渡 千 代
花 籠 野 村 静 子
求 塚 北 筋 国 子

附 祝 言
主 権 梅 邦 田 謡 邦 久 会
小 鼓 大 西 智 久
太 鼓 大 西 智 久
御 能 「俊 寛」 (シテ 茂 山 千 五 郎
ツレ 茂 山 三 郎、茂 山 正 義、ウキ
山 本 孝、笛 殿 島 修 二、小 鼓 山
本 真 義、大 鼓 大 槻 秀 夫) 御 能
「望 月」 (シテ 大 倉 長 十 郎、ツレ
三 島 太 郎、子 方 大 倉 源 次 郎、ワキ
茂 山 千 之 丞、笛 上 田 照 也、小 鼓
上 野 朝 太 郎、大 鼓 山 本 勝 一、太 鼓
・浦 田 保 利、間 泉 泰 孝)
御 能 雅 子 「高 砂」 (シテ 野 口 浩
和、笛 泉 泰 孝、小 鼓 山 中 義 浩、
大 鼓 南 条 秀 雄、太 鼓 大 槻 文 蔵)
御 能 狂 言 「附 子」 (太 鼓 冠 者 久
田 舜 一 郎) 「悪 太 郎」 (田 村 勇
里 井 順 次 郎、非 戸 良 彦)

大 概 清 韻 会
で 「乱 能」 開 催
旧 暦 二 月 二 日、能 三 番
大 概 清 韻 会 は、旧 暦 二
月 二 日、大 阪 市 東 区 上
本 町 一 大 概 能 楽 堂 で
「乱 能」 を 開 催 し た。
この 乱 能 の 案 内 は、古 式 に 則 り
会 員 券 は 「門 鑑」 舞 台 は 「上 野 御
殿」 その 日 時 は 「明 和 内 匠 師 走 下
之 五 日 巳 上 刻」と 表 現、ま た
「御 能 組」 「御 舞 雅 子」 「御 狂 言」
で 「華 行」 大 概 清 韻 会 と な っ て い
る。主 な 演 能 曲 名 と 役 は 次 の と お
り。
御 能 「小 鼓 治 治」 (シテ 藤 井 雅 幸
御 能 狂 言 「玉 玉」 (シテ 中 川
盛 夫、小 鼓 天 西 隆 心 等)

謹 賀 新 年
楽 謡 庵 舞 台
名 古 屋 市 昭 和 区 流 川 町 四 七 一 八 三
電 話 (八 三 三) 七 〇 〇 一 番

一・六の稽古
私がともかくも
これまでやれたの
は、何と云っても
一・六の稽古のお
蔭です。



中部金春会

名古屋市中区老松町一ノ二八
電話(二四一)三二四二番

前田茂穂
米本平一

喜多実

二井栄逸

喜多流謡曲研精会
貫周福岡周斎

和谷亀二郎

岡村保道

喜多流山本才

小の会

幸宣佳

高安勝滋久郎
〒467 名古屋市中区老松町二ノ六四
電話(八三三)〇三六四番

西村欽也
〒467 名古屋市中区老松町二ノ四五
電話(八三三)五九一九番

森好茂
東京都渋谷区代々木四一三八一
電話(〇三三)四七九五番

宝生弥一
東京都練馬区小竹町一ノ五〇
電話(〇三三)四七九五番

豊嶋十郎
〒二七一 松戸市下矢切五五
電話(〇四七三)一九八二

高安流白水会
和泉太郎
〒142 東京都品川区三葉二八八一二
電話(七八六)四〇九二番

谷田宗二朗
〒603 京都市北区衣笠街道町31一七
電話(四六三)四八七五番

久保田千三郎
〒164 名古屋市東区東山一ノ一五
電話(〇七九七)二一三二八四

高安同志会
飯富良人
〒164 名古屋市東区東山一ノ二九
電話(〇七九七)二一三二八四

山崎俊輔
大牟田市馬場町五七

龍吟会
藤田六郎兵衛
藤田昭彦

飯島佐之六
〒920 金沢市香林坊2一8一8

杉市太郎
森田光春
寺井政数
〒154 東京都世田谷区世田谷四一三二五
電話(四二〇)六六七六番

呉竹会
寛三男
名古屋市中村区荒輪井町2一15
電話(四一一)九三〇一

幸祥光
〒158 東京都世田谷区等々力五三〇一三
電話(〇三三)七〇四一六九三

幸正影
〒141 東京都品川区西五反田八一〇一八
電話(〇三三)四九二一四八六四番

幸圓次郎
〒164 東京都中野区中央四一四七一
電話(三三八)九四一三番

幸義太郎
東京都中野区丸山二一四
電話(三三七)五六七二番

幸井俊一
吹田市江の木町一六ノ一ノ七〇二
電話(〇三三)三六八八五五番

大倉長十郎
源次郎
櫻月会
野村万蔵
野村狂言の会
野村 志 一 郎

野村万蔵
東京都豊島区南長崎六一五一四
電話(〇三三)九五一四八七三

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

野村志一郎

能楽先人の訓え

「観世華雲談」

随分つらかったのです。稽古は、堪能でしたが、その頃の謡本の組の順序で内の一の最初の「高砂」「田村」「江口」「班女」「鶴岡」と一日五番やりますが、シテは順番で、兄二人(先代万三郎、実)は毎回あたりまして、残りの三番を梅若新太郎、梅若勇次郎、広田豊作、そ

私がともかくもこれまででやったのは、何と云っても一、六の稽古のお蔭です。蔵前(梅若家)で梅若の父(先代実)に宅の父、清之叔父(観世清之)などが集って、明治十七年頃から一日と六の日に稽古を始めました。私もいつとなか加えてもらったのですが、六時にはもう始まりますので、宅の鳥越からは歩いて三十分位かかりました。稽古中では四時からは稽古して、暗い中を歩いて五時半にはもう蔵前へついて待っていました。稽古は、これはもう一遍やってみよう、私にもやれない、というのでその通りやりましたが、もう駄目なんです。二度目は勇次郎の「東北」になってしまつて、よかつたのは偶然うまくいったことがわかつたのですが、梅若の父は突によく見ていてくれました。

「あそこはよかつた」といってほめてくれることもありましたが、これはまあはげみにさせるつもりだったのでしよう。他の家でも、稽古は勿論熱心にせられましたが、この梅若の一、六の稽古程つづいたものはありませんでした。梅若の父は生来の電気ギライで、住居は仕方なしに電燈でしたが、舞台は置きランプを四つおいていたのも懐かしい思い出があります。

須磨源氏 岡田 弘
竜 虎 早川 俊光
三 笑 久保八重子
社 若クセ曾我 澄子 小沢 郁子
生田敦盛クセ岩橋 時子
笠之段 横井 敬子

之五巨匠之上」と表現。また「御能組」「御舞囃子」「御狂言」で「奉行」大観清韻会となつてい。主な演能曲名と役は次のとおり。里井順次郎、井戸良造) 御能組(御舞囃子) (シテ中川)

謹賀新年
楽 謡 庵 舞 台
名古屋市昭和区滝川町四七七八三
電話 (八三三) 七〇〇一
謹賀新年
栄 能 楽 舞 台
名古屋市中区栄五十四一四二二
電話 (二六二) 一八三番

市民の劇場(第十五回) 能楽鑑賞会

五十二年二月十四日(月)午後六時開演
於 岐阜市民会館大ホール

三 兼 班 阿 野
輪 平 女 漕 守
岡田 朗詠 橋岡 久共 青木祥二郎 片山慶次郎 梅田 邦久

井 片山博太郎
筒 西村 欽也
物着 後見 奥 善助 青木祥二郎 地謡 武田 邦弘

笠 藤田 昭彦
橋本 一英 小島 邦久 小野 次郎

附祝言

終了予定九時

全自由席 一般一〇〇〇円
高校生以下五〇〇円
お問い合わせは岐阜市民会館市民の劇場係
電話(〇五八三) 八一一番

岐阜市 岐阜教育委員会

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--------------------------|--|-------------------|---------------------------|--------------------------|-----------|-----------|---------|-------|---|-----------------------------|--|---------------------------------------|------------------------------|--|-------------------------|--|---|--|--------------------------------------|---|
| 山本 敬一郎 大阪府泉南郡阪南町貝掛 一〇二ノ九一南海回地西三ノ九 | 安 福 春 雄 東京都杉並区天沼一七七一〇 | 谷 口 正 喜 京都市上京区中立売室町西入 室町スカイハイツ六〇 | 桂 会 岐阜市松屋町 後藤方 | 住 駒 陽 介 電話(〇七六二) 〇五二四〇 | 住 駒 明 弘 東京都練馬区東大泉町二九五 | 柳 原 富 司 忠 | 福 井 啓 次 郎 | 福 井 良 久 | 幸 友 会 | 小 の 会 〒838-01 福岡県小郡市小郡一四〇三 電話(〇五三三) 〇二八〇七 | 喜多流 山 本 才 三重県度会郡玉城町田丸三五五 | 龍 吟 会 藤田 六郎 兵衛 藤田 昭 彦 飯 島 佐 之 六 〒920 金沢市善林坊2-8-8 | 大 倉 長 十 郎 源 次 郎 吹田市江の木町一六ノ二ノ七〇三 | 善 竹 忠 一 郎 神戸市東灘区御影町郡家大蔵二二 | 茂 山 忠 三 郎 〒606 京都市左京区北白川大蔵町47-1 電話(〇七五) 七〇二二〇一 | 名 古 屋 和 泉 会 狂言 共 同 社 | 狂言 やる まい 会 野 村 又 三 郎 〒466 名古屋市中区南山西町12-7 電話(八三三) 八〇七一 | 朝日文化センター 雛 子 教 室 笛 笥 三 男 小 鼓 後 藤 孝 一 郎 | 演能写真 ウシマド写真工房 〒602 京都市上京区北野上七軒 電話(〇五三) 一三四一 | 熱田神宮能楽殿 仙 田 美 千 子 電話(六七) 三九二二番 | ◎年賀広告について 年賀広告の掲載は紙面の都合にて願不同 と致しましたのでご理解賜りますようお願い 申し上げます。(編集部) |
|---|--------------------------|--|-------------------|---------------------------|--------------------------|-----------|-----------|---------|-------|---|-----------------------------|--|---------------------------------------|------------------------------|--|-------------------------|--|---|--|--------------------------------------|---|

中部能楽界 ゆく年くる年 能楽の友社同人座談会



「能楽の友社同人座談会」(スナック)

能楽の友が創刊されたのが昭和四十二年一月で、丁度この新年号で満十年を迎えることになりました。その間、名古屋をはじめ中部地方の能楽界の広範的な役割を「番組新聞」ではありましたが、その面において担って来たわけですが、熱田神宮はじめ能楽界のいろいろな方のご支援で百廿一冊を刊し、全国のご愛読を頂いていることをまず紙上をもって厚くお礼申し上げます。恒例により五十一年の能楽界と五十一年の展望を主要な点で語って頂けたら幸いです。

A 昭和五十年は熱田神宮能楽殿二十周年記念能という大きな催しがありました。五十一年はそういう節目はなかった。協会としては新能も十一回目を迎えて晴天に恵まれて無事に行なわれ、ひきつづいて大衆能、それに歳末助け合い義捐能などそれぞれ意義のある催しが行なわれました。

——それに熱田祭奉納能と……

C 名古屋の能楽界も年々とも盛んになっておりまた充実してきましたね。

B 観世九草の定期能は五十一年は三回でしたが、五十二年はもう一回ふやして四回催される予定ですね。初回は二月、さらに五月、七月、九月に催される。

——祝賀能も数多く行なわれました。

D 五月の観世流流友大会は柴田初太郎師の米寿祝賀記念でした。し杉村竹翠師の喜寿祝賀大会また名古屋淡交会七十周年記念能など

E 狂言では「朝日狂言会」が第十八回「狂言和泉会」が第十六回「やまのまい会公演」も十八回を数え回を重ねてきた。

A 追善能では四月の藤田流流祖三百五十年、先代五十年追善能は「石橋」で東西から諸師が来演、きわめて盛況でした。また宝生流十七世宗家宝生九郎三回追善能で「安宅」「半番」「海人」の上演も記録されるべきでしょう。

さらに中部金剛会による大塚一、二師の追善能が秋に催され金剛流の次代をつぐ方たちの健闘が期待された。

また狂言和泉会は佐藤卯三郎師追善を秋十一月に催された。

B 金剛も若手が入り出てきました。金剛も若手が入り出てきました。内容の充実を期待したいところで、注目をされるものとして……

F 第十一回「新能」は本場に良いお天気に恵まれました。満月のあゆみをつづる記念パンフレットが発行されたことも意義がありました。

——五十二年の演能について注目されるものとして……

E この二月に岐阜市で観世元正宗家が来演される能楽鑑賞会は家元が「英上」梓之出、片山柳太郎師の「井筒」物着の能二番も岐阜市主催で話題の一つです。(番組⑥面参照)

能楽の友社
区吹上本町2-20
号464)
1) 7984
吉屋 36393
1年 500円
1年 800円
50円

能楽協会名古屋支部主催、愛知
午前十一時開演、金春流舞臺子

12月5日能4番を上演
義捐能盛會

一名古屋観世定式能(二月十三日)のあくる日ですね。

C ことしは故郷井五郎師の追善会がありますね。

A 五月二十九日(日)に福井初太郎師三十三回忌・九世福井五郎二十三年追善能が催され観世喜之師の「翁」観世武雄師の能「安宅」小書流流して福井久良師(故郷井五郎師の子息)が流流しを打たれる。宝生宗家の舞臺子「杜若」などがあり最後に宝生流の辰巳孝師の能「道成寺」で故郷井五郎師の孫の良治さんが道成寺を抜かれることになっていきます。

「翁」の頭取は幸四郎師が勤められる予定です。

B おめでたいことでは、ことし三月十二日に梅若六郎さんの古稀祝賀能が予定され、能「松風」小書見留を六郎師が所演、そのあと山本勝一師と梅若景英師で「狸々乱」和合三段ノ舞の小書つきで演ぜられる。梅若家一門で名古屋で演能されるということも期待されます。

E 記念会としては六月に宝生会(有賀徳子師)の二十五周年記念会が予定されている。

——中部の能楽界の動向を総じてみると、内から盛り上がるものが出てきたということがよく感じられますね。

B そうですね、こんどの梅若六郎師の古稀祝賀会でも地元から田中武さんが班女の素麗に名を連ねてみえますし頼もしいですね。

C 若手といえは、囃子方においても大きな成長がみられますね。まだまだ荒いところはあるありますが……

B いや若い方が荒いということとは、大きく太くなるために大切ともいえます。丁度松の木のようには、太く、ずっしりという感じが大切で、若くて整いすぎているというよりは、削られ、耐えて太く育っていくのではないのでしょうか……

——幅広いファンをもつ新能はことし第十二回を迎えるわけですが……

A 土蜘蛛のとき、「汝王地に住みながら」と指をさすところが指の指ですが、この指を「呪詛の指」というのですがその指はシテのどこをさすかといえは、シテの眼をさすということも指を中に隠して一本の指でシテの眼をさす。その心持がなければならぬのですが、井上菊次郎さんがこのワキをやられてから、「この指は呪詛の指ですよ」と意見される。そのくらいお互いにしつかり稽古をうけておられるのです。それになければ本場の乱能というか、それが乱能に大切なことだと思いますね。

C 面白い、ということだけではできない。むしろ容易ならざることです。

F しかし昭和五十二年の新しい観点を考えても……

A そういってお話もでているので考えられてもよいですね。

——乱は治に通ずるとはまさしく、ことしの世情にもいさそうです。能楽界にとっても展望ある年として大いに期待したいですね。

(五十二年十二月十六日「きんぎょ」にて)

「能楽の友社同人」柴田初太郎、高安滋郎、殿島修二、杉村竹翠、内藤泰二、野村又三郎、二井栄逸、第三男、加野昭三郎、なお顧問、熱田神宮権司長谷晴男氏

わるだけできちんと上演するのが本来のものです。

F それだけにやはり修練というかみっちり稽古せねばならない。

G 私もいつか「田村」のワキをやらして頂きたいが、ふだんは漢然と足をふんでるだけで、にきまるとなんでもない足の運びのところで間はずすのです。

A 土蜘蛛のとき、「汝王地に住みながら」と指をさすところが指の指ですが、この指を「呪詛の指」というのですがその指はシテのどこをさすかといえは、シテの眼をさすということも指を中に隠して一本の指でシテの眼をさす。その心持がなければならぬのですが、井上菊次郎さんがこのワキをやられてから、「この指は呪詛の指ですよ」と意見される。そのくらいお互いにしつかり稽古をうけておられるのです。それになければ本場の乱能というか、それが乱能に大切なことだと思いますね。

C 面白い、ということだけではできない。むしろ容易ならざることです。

F しかし昭和五十二年の新しい観点を考えても……

A そういってお話もでているので考えられてもよいですね。

——乱は治に通ずるとはまさしく、ことしの世情にもいさそうです。能楽界にとっても展望ある年として大いに期待したいですね。

(五十二年十二月十六日「きんぎょ」にて)

「能楽の友社同人」柴田初太郎、高安滋郎、殿島修二、杉村竹翠、内藤泰二、野村又三郎、二井栄逸、第三男、加野昭三郎、なお顧問、熱田神宮権司長谷晴男氏

あなたに心をこめておくりする……

富士道の婚礼道具

III 家具の富士道

本社 名古屋市中区栄3丁目35番18号
TEL 代表 (262) 5547
本ショールーム 愛知県西加茂郡三好町 TEL (05613) 2-1178
工場

新しい視力の見直し—オプトメドリー—

明けておめでとう ございます

新しい視力の世界を拓く、玉水屋のサービスをご利用下さい。

定休火曜日 営業 10時~7時

大カネの 玉水屋
なごや・栄交差点北西角 ☎961-1826代

第二十三期第三回
青陽会定期能
五十二年一月九日(日)午前十時半始
熱田神宮能楽殿
五十一年一月十五日(祭)十時半始
熱田神宮能楽殿

割烹・小料理

城

- 熱田神宮能楽殿喫茶部
- 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
- 喫茶・グリル(愛労軒地下ビル) 電話 731-1128

民芸食事処

まんだら

名古屋市中区浅間町3番地
TEL 524-0168

西みやか

TEL 531-5507・6666

楽しいお買い物はマツザカヤ



能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中区吹上本町2-20

(郵便番号 464)

電話 (731) 7984

振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 500円

郵送の場合 1年 800円

一 部 50円

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[2月]

- 11日(祝) 邦謡会仕舞続百番会 (来場歓迎)
- 12日(土) 西陵高校能鑑賞会
- 13日(日) 観世会定式能 (番組①面) (有料)
- 20日(日) 梅鑑会定期能 (番組①面) (有料)
- 26日(土) 観世九草会定期能 (番組②面) (有料)
- 27日(日) 松謡会春の大会 (番組②面) (来場歓迎)

[3月]

- 6日(日) 九草会春の会 (番組②面) (来場歓迎)
- 11日(金) 四大学学生大会 (来場歓迎)
- 12日(土) 梅若六郎師古稀祝賀能 (番組③面) (有料)
- 13日(日) 清韻会能 (番組③面) (有料)
- 20日(日) 邦謡会能 (番組④面) (有料)

[4月]

- 3日(日) 龍吟会 (来場歓迎)
- 10日(日) 観世会定式能 (有料)
- 17日(日) 中部金剛会 (有料)
- 23日(土) 猿蓑会 (来場歓迎)
- 24日(日) 久田観正会 (来場歓迎)
- 29日(祭) 幸友会春の会 (来場歓迎)

(演能変更の節はご了承下さい。)

熱田神宮能楽殿の二月の演能は六日の宝生会定式能をトップに、名古屋観世会定式能(十三日)、梅鑑会定期能(二十日)さらに観世九草会定式能(二十六日)と恒例の定期能がつぎ、二十七日(日)は、松謡会春季大会が開催される。

名古屋観世会の定式能は、ことしも五回演能が予定されているが二月はその初回。宗家が「羽衣」和合之舞、観世元昭師が「天鼓」弄鼓之舞を上演。狂言は「松麩子」で和泉保之宗家と井上松次郎師が演ずる。

恒例の梅鑑会定期能(二十日)は、「雲林院」(岡田朗詠)「熊野」(梅若盛義、ソレ岡田晃一)「鉄輪」(熊沢恵美子)。優雅、幽玄、凄愴の能三番の番組は曲柄に相応のみどころを期待できよう。

二十六日の名古屋観世九草会定例能は、春にふさわしく「春相」(吉田妙)と「雲林院」(塚本秀)

進んで、季節の能組。九草会定式能は、これまで年三回の催しを、ことしから年四回になり、今回はその初回。

二月第四日曜日の二十七日は、観世流佐藤太俊師の松謡会春季大会。素謡「藤戸」「葵上」「二人静」「松風」など十番、舞囃子十番、仕舞、連吟十五番。午前九時始。

また、二月十四日(月)は、岐阜市民会館で「岐阜市能楽鑑賞会」能「井筒」(片山博太郎)、「笑上」(観世元正)の上演。

三月の演能は、六日(日)名古屋観世九草会が「戦後発祥三十周年記念春季大会」として、物故会員への謝恩供養追善の意味をもふくめて素謡「俊寛」「殿」はじめ舞囃子、独吟、仕舞二十番。法要番外舞囃子として観世喜之師が「百萬」(車之段)を演ずる。

九草会大会は戦後三十年六十回目の催しである。

十二日は、芸術院会員梅若六郎

師の古稀祝賀記念能で、能「松風」「小書見留」梅若六郎師、「狸々乱」小書見留と三段之舞を山本勝一、梅若英両師で公演、素謡「鉢木」(シテ山崎英太郎)。

十三日(日)の大観清韻会能は「三輪」白式神神楽(大観秀夫)「狸々乱」双之舞(泉嘉夫、近藤幸江)の能二番、殿島修二師が小鼓後藤孝一郎師で一調「勸進帳」、素謡「阿彌陀」(梅若盛義、大観文蔵)で充実した番組。

さらに三月二十日は邦謡会能で「屋島」(梅田邦久)、「熊野」(武田邦弘)、「鞍馬天狗」小書白頭(片山慶次郎)の能三番、力のこもった熱演が大いに注目されよう。

二十七日は、中日五流能が中日劇場で催される。中日五流能は今回が二十二回目、各流の名手による五流の重要文化財能楽として中部地方だけでなく全国から大きな関心が高められている。

梅若六郎師古稀祝賀能

2、3月の中部能楽界

邦謡会仕舞続百番会

二月十一日(祝) 午前十時始
熱田神宮能楽殿

観世会定式能(初回)

二月十三日(日) 十二時半始
熱田神宮能楽殿

(来場歓迎)

主催 邦謡会
梅田邦久

天

観世元昭
高安 滋郎
河村総一郎
福井啓次郎

後見 小島一英
野村四郎
地謡 加藤兵衛
塚本秀雄

後藤 武田宗和
片山博太郎
梅田邦久

羽

観世元正
福王 輝幸
大倉長十郎
鬼頭喜太郎
藤山六郎兵衛

後見 武田邦弘
片山博太郎
地謡 佐藤太俊
小島一英

関野村田
野村四郎
藤井徳三

松

和泉保之
井上松次郎
井上礼之助

休息十分

天

観世元昭
高安 滋郎
河村総一郎
福井啓次郎

後見 小島一英
野村四郎
地謡 加藤兵衛
塚本秀雄

後藤 武田宗和
片山博太郎
梅田邦久

附祝言

終了四時半頃

主催名古屋観世会

雲林院

二月二十日(日) 午前十一時始
熱田神宮能楽殿

雲

岡田朗詠
高安 滋郎
飯富 雅介
柳原富司忠
藤田 昭彦

後見 殿島修二
井戸 良造
地謡 森勝子
前川芳周
井上 芳周

梅若 大観賢次郎
若尾 修高
生香

雲

後見 殿島修二
井戸 良造
地謡 森勝子
前川芳周
井上 芳周

梅若 大観賢次郎
若尾 修高
生香

熊

岡田晃一
梅若盛義
西村 欽也
飯富 勝久
河村総一郎
後藤 孝一郎

後見 梅若修一
前川 芳周
地謡 小田文三
池内光重
大出賢次郎

井上 久田秀雄
井上 芳周
井上 生香
井上 香

鉄

熊沢恵美子
高安 勝久
飯富 雅介
吉田 定男
福井啓次郎

後見 殿島修二
井戸 良造
地謡 小田文三
森勝子
前川芳周
井上 芳周

梅若 大観賢次郎
若尾 修高
生香

附祝言

お申込みは出演楽師又は熱田神宮能楽殿(671) 2912番

会員券 A席(正面・面)自由席 三,000円 B席(側面・階上)自由席 二,000円

設備充実
メカ調整
は視力測定
ピックアップ
の充実を心が
■ビス一本に
メカネ店ま
責任感とた
■徹底した
メカネをい

二月二十日(日) 午前十一時始
熱田神宮能楽殿

●駐車場完備

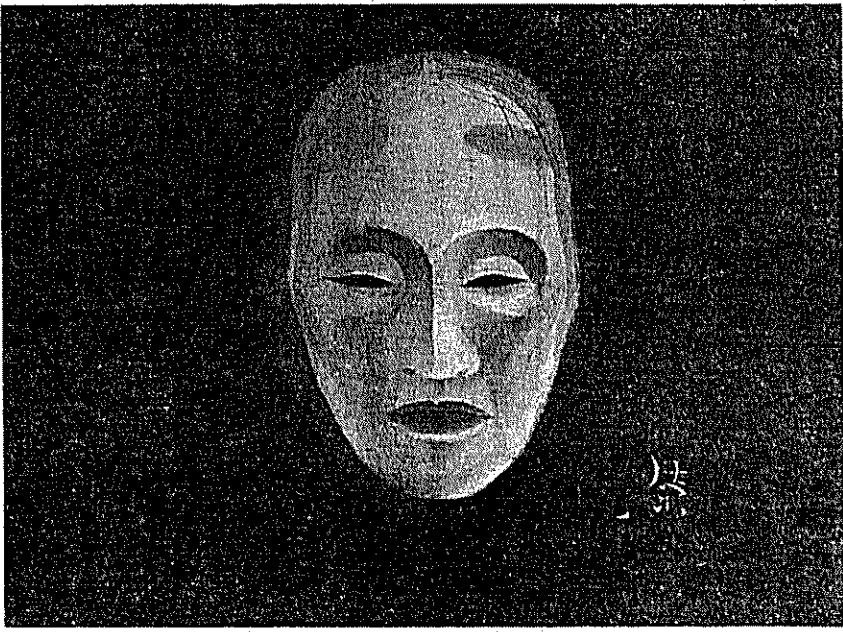
能紀行

老女

逸 栄 井 二 文 と 絵

をドライブして見たら、その日は風がなく、冬の間は、いろいろな山の斜面のように静まっていた。...

平安初期の女流歌人で、天性の美貌の持主であったといわれる小町は、又、多くの男性との恋愛関係もあつたらしく、美貌ゆえに起る数奇な運命は一連の小町物語として、数々の能が完成していった。



【訂正】前号「能紀行」の文中「満足、節制、感謝」とあるのは「満足、節制、感謝」の誤りでした。お詫言ひして訂正します。(編集部)

県・市に義捐金贈る

歳末助け 能楽協会名古屋支部

昭和52年度能楽協会名古屋支部の演能

社団法人能楽協会名古屋支部(藤田六郎兵衛支部長)は、旧冬十二月五日、熱田神社能楽殿で恒例の「歳末助け合義捐金募集能」を開演...

- 名古屋支部の演能
昭和52年度能楽協会名古屋支部の演能
二年度演能予定は次の通りである。
熱田神社能楽殿 六月五日(日)
熱田神社能楽殿 八月六日(土)
(熱田神社宮内待合)

2月・3月放送予定

Table with columns for dates (e.g., 2月13日, 20日, 27日) and program names/performers (e.g., 多春生, 流流, 求自然).

名古屋観世九峯会定期能(初回)

Performance schedule table for Goyamae Kyūryū Kai. Includes dates (二月二十六日), times (午後二時始), and lists of actors and roles.

松誦会春の大会

Performance schedule for Ryūkyū Kai Spring Meeting. Includes date (二月二十七日), time (午前九時始), and lists of actors and roles.

戦後発祥三十周年記念謝恩供養追善名古屋観世九峯会春季大会

Performance schedule for the 30th anniversary memorial service. Includes date (三月六日), time (午前十時開演), and lists of actors and roles.

寒稽古

今は余りやまやま、せんのものは皆、積古にしたものす。よくしたもので、今...

会員券三千円

協会名古屋支部では、この収支決算の結果、三十三万三千百円の義捐金を、このほど愛知県に十六万六千五百五十円、名古屋市に十六万六千五百五十円をそれぞれ寄託した。

名古屋支部の歳末助け合い義捐金は、今年も八回目を迎える。各支部の歳末助け合い義捐金募集案内は、本誌の別冊「義捐金募集案内」に掲載されている。

Table with columns for dates and names, including NHKラジオ第一 and NHK教育TV schedules.

能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」

今は余りやしません。私どもの年代のものは皆寒稽古をしたもので、よくしたもので大抵仲間があるものです。

「この文句では、型では——」と理屈づくは、自分か基が出来ていないのに理屈だけで駄目です。

羽衣の面

若い女の「面」は、一寸見ただけでは皆同じように見えますが、皆それぞれ違っておりまして、その使い途により始めて生きるのであります。

狂言「因幡笠」(茂山千作、茂山忠三郎) 狂言「花月」(観世静夫) はか仕舞。

サンケイ観世能

サンケイ観世能は、二月二十七日(日)大阪サンケイホールで開催される。



「羽衣」 鬼頭貴代子さん 和合之舞 (51・12・12 風韻会能)



「養老」 富士道周明氏 水波之伝 (51・12・12 風韻会能)



「百萬」 子方 佐藤アヤ子さん 法楽之舞 (51・12・12 風韻会能)

演能の記録

Large table listing names and roles for various performances, including 'Meikichi Senji' and 'Kiyonori'.

Table listing names and roles for 'Kiyonori' and other performances, including 'Kiyonori' and 'Kiyonori'.

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋市中区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

杜 有賀 謙子
若 西村 欽也 鏡 鏡一 鬼頭 八郎
恋之舞 福井啓次郎 藤田六郎兵衛
事務所 下鴨 名古屋市中区元町二丁目一七
名古屋市南区元町二丁目一七
(加藤保彦)

◆演能カレンダー◆
(熱田神宮能楽殿)

[3月]
12日(土) 梅若六郎師古稀祝賀能 (番組①面) (有料)
13日(日) 清 韻 会 能 (番組①面) (有料)
20日(日) 邦 韻 会 能 (番組②面) (有料)

[4月]
3日(日) 竜 吟 会 (来場歓迎)
10日(日) 観世会定式能 (番組②面) (有料)
17日(日) 中部金剛会定期能 (番組③面) (有料)
23日(土) 猶 願 会 (来場歓迎)
24日(日) 久田観正会 (来場歓迎)
29日(祭) 幸友会春の会 (来場歓迎)

[5月]
1日(日) 大 蔵 狂 言 会 (来場歓迎)
3日(祝) 観世・流友会 (来場歓迎)
5日(祝) 名古屋興会大会 (来場歓迎)
8日(日) 青 陽 会 定 期 能 (有料)
14日(土) 観世九車会定期能 (有料)
15日(日) 吉田義正氏喜寿祝賀 鳳鳴会大会 (来場歓迎)
(番組③面)
21日(土) 狂言やるまい会 (有料)
22日(日) 名古屋観能会大会 (来場歓迎)
28日(土) 福井初太郎三十三回忌 福井五郎二十三回忌・追善大会 (来場歓迎)
29日(日) 福井初太郎三十三回忌 福井五郎二十三回忌・追善能 (有料)

(演能変更の際はご了解下さい。)

佐藤友彦氏が受賞
名古屋芸術奨励賞

名古屋市の芸術文化の向上を目的として設けられている名古屋芸術奨励賞は、名古屋市の文化向上を目的に昨年からは、名古屋を主な活動舞台にして音楽、演劇、舞踊、美術、文芸の分野で活躍している人に贈られるもので、今回は狂言佐藤友彦氏、舞台美術の内山千吉氏(四七)パイオリンの近藤富美子さん(三五)それにオペラ二期会名古屋支部が受賞、個人には二十万円、団体には四十万円が贈られる。

友彦氏は三十四才、和泉流狂言方、七才で初舞台、現在、能楽協会会員、狂言共同社同人。

四十三年に「名古屋大舞台」を創設、研究と指導で若い人たちの関心を高め、四十七年に「名古屋狂言小劇場」を発足させ、活発な普及活動が高く評価されている。



「道成寺」
「安宅」
5月29日 福井追善能

観世・流友大会
3月 名古屋観世の各師社中による観世流・流友大会は、名古屋観世の発展により回を重ね、これは第五回を迎え、きたる五月三日(祝)に開催される。

当日は午前九時開演、各会から申し込みは、素謡、止舞、連吟などが予定され、劇好交流の機会正して期待されている。

この福井追善能にあたり小鼓方福井良治氏は「道成寺」また福井良久氏は「安宅」を抜き、地元小鼓方の今後の充実が大いに期待されている。

熱田神宮能楽殿での「道成寺」の上演は、六年ぶり、関西地方の宝生流の重鎮として辰己孝師の自然した演技とともに、大曲にいとむ福井良治氏の登壇門である。

ワキ西村欽也、笛藤田昭彦、大鼓河村総一郎、太鼓鬼頭喜太郎、間野村又三郎、左藤秀雄、追見宝生流、地頭野口泰三

高 砂 石井 素子 福井啓次郎 鏡 三男
馬 武田 宗和 福井啓次郎 鬼頭 喜太郎
武田 太加 志房 藤田 昭彦
地頭 小川 一英 坂井 音重
野村 千冬 野村 四郎

梅若六郎先生 記念能
古稀祝賀
三月十二日(土)午後一時始
熱田神宮能楽殿

主催 名古屋 梅若 会
後援 中日新聞

連絡場所
名古屋市中区流川町三十二
近 藤 鉦 治
電話(〇五二)四一三三九三七
尾張旭市城山町三ツ池六一九八
田 中 武
電話(〇五六)五三三三〇四

錫 木 田中 武 高橋 甫治 松山 隆雄
能 組 西村 泰男 山崎 英太郎
梅 山崎 英太郎 高橋 甫治
松 山崎 英太郎 高橋 甫治
老 河村 証二 加藤 兵衛 水原 秀雄
胡 蝶 水原 秀雄
菊 童 水原 秀雄
井上基太郎 梅若 六郎 河村 証二 藤田 六郎兵衛
見 留 高安 滋郎 福井 啓次郎

猿 井上松次郎 井上礼之助
野村又三郎 野村 信行
休息十五分

狸 後見 梅若 節夫 地頭 西村 泰男
山本 勝一 田 柏 中 武 昇 巧 高橋 甫治
和合三段ノ舞 西村 欽也 後藤 孝一郎 鬼頭 喜太郎

3月・4月放送予定

NHKラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)
[3月]
13日(日) 観世流「桜川」藤波重満ほか
20日(日) 観世流「実盛」観世喜之ほか
27日(日) 宝 生 流「海人」松本忠宏ほか

[4月]
3日(日) 狂言和泉流「富士松」和田喜太郎
大観世流「舟渡」善竹圭五郎
10日(日) 大観世流「忠度」木原康夫ほか
17日(日) 宝 生 流「百老」今井泰男ほか
24日(日) 観世流「養老」梅若万三郎ほか

NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)
[3月]
13日(日) 喜多流「芦刈」粟谷菊生ほか
20日(日) 宝 生 流「百老」今井泰男ほか
27日(日) 狂言和泉流「富士松」和田喜太郎
大観世流「舟渡」善竹圭五郎

[4月]
3日(日) 観世流「弱法師」関根祥六ほか
10日(日) 宝 生 流「草子洗」野村蘭作ほか
17日(日) 喜多流「歌占」粟谷新太郎ほか
24日(日) 観世流「干手」山階信弘ほか

NHK教育TV 午前9時~10時30分
喜多流能「望月」友枝喜久夫ほか

住 戸 松 取 名 實
三月十三日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿

弱法師 梅若 盛義 大槻 文蔵
養下 今村 嘉男
三島 憲
放 老 能 組
藤田 村 水原 元三
鞍馬天狗 杉村 竹翠 泉 泰孝
大槻 秀夫 高安 滋郎 福井 啓次郎 藤田 六郎兵衛
白式神楽 間 佐藤 秀雄
後見 梅若 盛義 水田 邦久 山本 正人
梅田 邦久 地頭 前田 克彦 藤谷 政二
野村又三郎 井上松次郎 泉 文蔵 泉 文蔵 泉 文蔵
萩 大名 野村又三郎 井上松次郎 泉 文蔵 泉 文蔵 泉 文蔵
勸進帳 梅田 邦久 梅田 邦久 梅田 邦久
雲 林 院 梅田 邦久 梅田 邦久 梅田 邦久
籠 太 鼓 梅田 邦久 梅田 邦久 梅田 邦久
山 姥 梅田 邦久 梅田 邦久 梅田 邦久
近藤 幸江 泉 文蔵 泉 文蔵 泉 文蔵
泉 文蔵 泉 文蔵 泉 文蔵 泉 文蔵
双之舞 西村 欽也 吉田 定男 鬼頭 喜太郎
後見 殿島 修二 地頭 今村 嘉男 鬼頭 喜太郎
大槻 秀夫 川 崎 島 恒寿 水田 邦久 泉 文蔵
後藤 孝一郎 赤松 嘉友 水田 邦久 泉 文蔵
三島 憲 泉 文蔵 泉 文蔵 泉 文蔵

欧風料
とんか

演能の記録



「砧」 小島トミルさん (52・1・15 名古屋清浄会大会)

五月公演は豊島弥左衛門師の「景清」大阪能楽観賞会 大阪能楽観賞会(大阪市北区曾根崎新地三十一〇、三島ビル)では、三月公演として三月八日、大阪能楽会館で能「自然居士」(シテ観世寿夫)「狂言「通用」(茂山千作ほか)を催した。

九月十三日(火)喜多流能「花籠」舞入(後藤得三)十一月 曲目未定 湊川神社能楽殿竣工五周年記念祝賀能 湊川神社能楽殿の竣工五周年を記念する祝賀能が三月二十七日(日)湊川神社能楽殿で催され、観世宗家が来演する。

能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」切

京劇の梅蘭芳さんらが来日された時、朝日新聞社が一行を招待され水道橋(水道橋能楽堂)で能をお見せすることになり「天鼓」を前シテが私、後シテを橋岡久太郎さんとつとめました。

京劇の華々しい公演みて、うらやましく感じたのは、あれだけ立派な事を國家が援助してやってくれるという点でした。お国柄とはいえ、能が外国に行くと言えは自腹を切って行かねばならない我々を省みて情なく感じました。

今、能楽師には、自分の稽古さえおろそかにするようなものもいますが、一体その人たちはどんな気持ちでいるのでしょうか。能は立派な芸術だから、とうねばれる前に、もっとよく勉強をすることです。

別人が舞うこと 狂言を聞かなくて助かる、という人もありますが、間狂言が入るとはただ単に、狂言を無視してはいけないというだけで、狂言の内容もよくわかりませんし、又この間に気分をすっきりかえてしまおうためです。

昭和三十六年、大倉流宗家に内弟子として入門、四十六年五月独立し、活躍しているが、このたび「松月会」として、三月十二日、大阪能楽会館(大阪市北区道本町十二)で発会記念大会を開催する。

四月十七日(日)午前十一時始 熱田神社能楽殿 五月十五日(日)午前九時始 熱田神社能楽殿 主催名古屋屋観世会 終了四時四十分頃

Table listing names and roles for various performances. Columns include names like 大持、胡蝶、頼光, roles like 東田、康文, and performance details. Includes sections for 附祝言 and 後援会.

東大寺大仏殿勸進能

「昭和の大修理」で「安宅」など上演

4月23日 奈良県文化会館

奈良・東大寺の大仏殿は、明治年間の大修理以後七十年を経て、諸所に雨漏りが激しくなり、瓦のふき替えを主体に修理に着手して、この大修理は、関連事業費をふくめ六十億円、工事期間も六年という大規模なものとなっている。

この大修理は国家的な見地から助成があるとはいえ、心ある人々の多大の協力がなされて、この大修理の能楽師界では、この大修理にあたり「大仏殿勸進能」として、四月二十三日(土)奈良県文化会館大ホールで勸進能が催される。

主催は大仏奉賛会、後援東大寺朝日新聞社。能組は、一部が正午から、二部は午後五時開演。

能組は別項のとおりで、第一部「金春流能」(翁)、「高砂」(観世流能)、「田村」(大流流能)、「福の神」(寝音曲)、「第二部は、観世流能」(羽衣)、「金春流能」(安宅)、「金剛流能」(石橋)、「大流流能」(二十九八)。

大仏殿勸進能

昭和五十二年四月二十三日(土) 正午始
奈良県文化会館大ホール
(近鉄奈良駅より東へ徒歩3分)

| | | | |
|-------|-----------|--------|----------|
| 翁 | 木村 哲也 | 金春 欣三 | 千歳 茂山忠三郎 |
| 高砂 | 森 明蔵 | 清水 利宜 | 河村 総一郎 |
| 福の神 | 高坂 康広 | 大倉 長十郎 | 大倉 源次郎 |
| 田村 | 木村 正雄 | 伊藤 肇 | 森田 順人 |
| 寝音曲 | 茂山 千作 | 早川 敬 | 藤田 喜彦 |
| 二部 | 藤田 喜彦 | 杉 市和 | 道郎 |
| 入場料 | 一部・二部それぞれ | 五〇〇円 | 三〇〇円 |
| 学生・二部 | 二〇〇円 | | |

相つぐ定期能

3月12日 梅若六郎師古稀祝賀能

区吹上本町2-20 号464
D 7984
古屋 36393
1年 500円
1年 800円
50円

邦語会仕舞統百番会
二月十一日(祝) 午前十時始
熱田 神宮能楽殿

度も兵火で焼失。都度広く、多くの人びとから金銭資材の寄進や労働奉仕などの助縁により再建、千二百二十余年の法灯を今日に伝えてまいりました。

さてみなさまにおかれましては、すでに新聞・テレビなどでご承知いただいておりますように、明治年間の大仏殿大修理以後、七十年の歳月を経たいま、諸処雨漏りが激しくなっております。このまま放置いたしますと大事に至るおそれ、専門家の調査結果から雨漏りの原因となつております瓦のふき替えを主体に「大仏殿勸進能」をすすめることになりました。

中日五流能

3月27日 中日劇場
第二十二回中日五流能は三月二十七日、名古屋・中日劇場で、シテ方、ワキ方、囃子方、狂言方など全国の名手により重要無形文化財能楽として文化庁後援のもとに催される。

「能の知恵」 中森晶三著
「原民のための能を知る会」(原民能)、「鎌倉薪能」など、能楽を今日のものへと意欲的な活動と公演をすすめている観世流師範・中森晶三氏が執筆する能シリーズの一環として著し、玉川大学出版部からこのほど発行された。既刊「能のすすめ」(本誌51年7月号紹介)、「能のみどころ」(本誌52年2月号紹介)が鑑賞の手びきとすればこの「能の知恵」は、能作者であり思想家である観阿弥、世阿弥の理論とその内面を掘り下げて現代との関わり、芸術としての能の内的な深さを今日に活用する解説的な手びきとでもいえる。

出版紹介

「能の知恵」

「原民のための能を知る会」(原民能)、「鎌倉薪能」など、能楽を今日のものへと意欲的な活動と公演をすすめている観世流師範・中森晶三氏が執筆する能シリーズの一環として著し、玉川大学出版部からこのほど発行された。既刊「能のすすめ」(本誌51年7月号紹介)、「能のみどころ」(本誌52年2月号紹介)が鑑賞の手びきとすればこの「能の知恵」は、能作者であり思想家である観阿弥、世阿弥の理論とその内面を掘り下げて現代との関わり、芸術としての能の内的な深さを今日に活用する解説的な手びきとでもいえる。

目次は①「花伝書」といふ本②「その内容と紹介」③「花・その一・年来稍古条々」④「花・その二・物理学条々」⑤「問答条々」⑥「神儀」(能の神話伝説)⑦「奥儀」⑧「花修」⑨「花の正体」⑩「口伝」⑪「至花道」⑫「花鏡」⑬「九位」⑭「あながき」となつて冒頭、花伝書について次のように著者は述べている。
「花伝書」正しくは「風姿花」
(加野生)

竹韻会春季素謡会

竹韻会(杉村竹翠師)は、三月六日、昭和区、加納築園庵で春季素謡会を開催。「姑」「花雀」「夷盛」「江口」「班女」「頼政」「夷上」「弱法師」「老松」「東北」「野宮」「熊野」「班女」、仕舞など十五番で盛会であった。

故高野瀬透師追善会

観世流師範・故高野瀬透師一周忌の追善会が二月二十七日、東区飯田町・円勝寺で催された。正午から住職の読経で法要を執り行ない、午後一時から、此会主催、舞台で新年初詣会を開催。舞臺子

メガネの日進堂

正しいメガネでしあわせを……

●生きた設備を誇る日進堂
メガネ調整設備は、正しいメガネ・快適なメガネづくりの根本です。日進堂は視力測定・メガネ調整用の諸設備はもちろんのこと、必要ときには数分でピクアップできる…お客様一人一人の視力記録システムなど常に生きた設備の充実を心がけています。

●ピス一本にも全神経を集中する日進堂
メガネ店の技術をささえるもの—それは、お客様の信頼におこたえる責任感とまごころです。正しいメガネを安心してご使用いただくために、日進堂は、たとえピス一本にも全神経を傾倒しています。

●徹底した日進堂のアフターサービス
メガネをいつも正しく、最良の状態でご使用いただけるよう努めることもメガネ店のつとめです。日進堂は可能な限りの修理サービス、レンズ・フレームの清掃サービスを無料で付いております。いつでもお気軽にお立ち寄り下さい。

定休日 毎週水曜日

●駐車場完備

名古屋市西区上島町57(円頓寺本町)
451 TEL (571) 6181-3

檜書店

観世流・金剛流
宗家本流元

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話 (291) 2488-9
振替東京 3-355-2
電話 (231) 199-0
振替京都 113

城

割烹・小料理

●熱田神宮能楽殿茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛労研地下ビル)
電話 731-1128



能 楽 の 友

題字は熱田神宮 藤田宮司筆

発行 能 楽 の 友 社
名古屋市中千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一 部 50円

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[4月]

| | | |
|--------|-----------|--------------|
| 17日(日) | 中部金剛会定期能 | 番組①面(有料) |
| 23日(土) | 猪風会大会 | (番組①面)(来場歓迎) |
| 24日(日) | 久田観正会春季大会 | (番組①面)(来場歓迎) |
| 29日(祭) | 幸友会春の会 | (来場歓迎) |

[5月]

| | | |
|--------|---------------------------|--------------|
| 1日(日) | 大蔵狂言会 | (来場歓迎) |
| 3日(祝) | 観世・流友会 | (番組②面)(来場歓迎) |
| 5日(祝) | 名古屋舞会大会 | (番組③面)(来場歓迎) |
| 8日(日) | 青陽会定期能 | (番組④面)(有料) |
| 14日(土) | 観世九皇会定期能 | (番組④面)(有料) |
| 15日(日) | 吉田義正氏喜寿祝賀 囃鳴会大会 | (来場歓迎) |
| 21日(土) | 狂言やるまい会 | (有料) |
| 22日(日) | 名古屋観舞会大会 | (来場歓迎) |
| 28日(土) | 福井初太郎三十三回忌 福井五郎三十三回忌・追善大会 | (来場歓迎) |
| 29日(日) | 福井初太郎三十三回忌 福井五郎三十三回忌・追善能 | (有料) |

[6月]

| | | |
|--------|-------------|--------|
| 4日(土) | 一謡会・叶石会大会 | (来場歓迎) |
| 5日(日) | 熱田祭奉納能 | (来場歓迎) |
| 12日(日) | 名古屋観世会定式能 | (有料) |
| 19日(日) | 名古屋宝生会定式能 | (有料) |
| 26日(日) | 菰水会二十五周年記念会 | (来場歓迎) |

(演能変更の際はご了承下さい。)

狂言小劇場が再開

大声会、狂言共同社主催

名古屋狂言小劇場は、より多くの人に狂言を親しんでもらうため昭和四十七年二月、初めて名古屋市東新町の名演会館小劇場で定期の狂言会として出発、とりあえず十回公演を目標として公演活動を行なってきたが、愛好者の暖かい励ましと関係者の努力により、昭和五十年六月第十回記念公演を終えた。この間の上演曲目は延べ三十三番、観客動員数延べ千五百名、能楽堂を離れて小ホールでの狂言会として定着した意義はきわめて大きいものがある。

5月3日 観世・流友大会

名古屋観世会の各編範社中による観世流・流友大会は、ことし第五回をむかえ、さたる五月三日(金)午前九時半始で熱田神宮能楽殿で催される。

出演は、邦謡会、清光会、清観

51年度芸術選奨

高橋進、山本則直両氏が受賞

文芸、芸能など芸術の各分野で昨年中に優れた業績をあげた人たちに贈られる五十一年度の芸術選奨文部大臣賞と同新人賞の受賞が三月二日、文化庁から発表された。

古典芸術部門は、文部大臣賞がシテ方宝生流・高橋進氏、新人賞が狂言方大蔵流・山本則直氏に授けられた。

授賞理由は次のとおり。

高橋進(七三)「卒都婆小町」(芸術祭能、水道橋能楽堂、十月)のシテをつとめ、老女の位、狂言の迫力、残の色香に近來まれな格調を示し、また求家(近藤乾三の会、六月)「藤栄」(宝生流)のシテを演じ、亡父山本東次郎譲りの骨太な資質に輝きも加え、その確実な芸風は将来を期待させ

能楽協会名古屋支部

四月十七日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

中部金剛会定期能

四月十七日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿

| | | | | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 大 刀持 東田康文 | 胡 蝶 井川康子 | 頼 光 坪井光男 | 土 蜘蛛 高安勝久 | 文 山 独吟 井上礼之助 | 羽 衣 高安滋郎 | 田 村 西村欽也 | 鶴 亀 高安勝久 | カメ ツル 木村美智子 |
| 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 | 後見 宇高通成 |
| 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 | 主演 豊嶋三千春 |
| 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 |

| | | |
|-------------|----------------|-------------|
| 久田観正会春季大会 | 四月二十四日(日)午前九時始 | 熱田神宮能楽殿 |
| 附祝言 | 梅若盛義 | 吉田定男 |
| 主演 | 梅若盛義 | 吉田定男 |
| 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 | 中 部 日 新 剛 会 |

小 錦 治 西村 飯富 雅介 後藤孝一郎 森本 重一 大野 弘之 幸司 今井 清隆 竹市 康文 水谷 泰三 豊嶋三千春 吉川 周子 康治 水谷 泰三

本 店 熱田区神戸町三四 電話(67)868618
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(68)5598(代表)

蓬 菜 軒 中 桃

能紀行

奥の細道

絵と文 二 井栄逸

表紙が上野市で開かれるというので出かけて見た。会場には、私の絵を表装した伊勢の杉山表具店や、松阪の友蘭堂の作品も出品されていて嬉しかった。能というモチーフを生かすには、やはり、特殊な技術が必要なのである。両者共、それ／＼能の特殊を生かした得た表装で好ましく思われた。私の分身が、このように各地にふえてゆくのは、ほんとうに嬉しい。



岐阜護国神社で新能

4月12日 奉納舞囃子会

岐阜護国神社は、四月十二日例大祭を挙げるが、奉納行事として舞囃子が催される。

夜桜のもとに舞台を設けてかがり火に映える幽玄な観能は岐阜県では初の催しである。午後五時開始（中川良一、堀江一雄、小鼓後藤孝一郎、高井敏雄、加藤芳康、笛笠三男）

小鼓方・福井家

福井追善能にちなんで

幸清流小鼓・福井初太郎師三十三回忌、福井五郎師二十三回忌にちなむ福井追善能は、きたる五月二十九日、熱田神宮能楽殿で観世流能「安宅」宝生流能「道成寺」を公演、幸清流小鼓十四世

業の花も咲いている。もうすっかり春である。久しぶりに忙中閑を楽しむと、伊賀焼の窯元をたずねて見た。

尾芭蕉の俳境が円熟の域に達した頃の紀行文で、日本文学史上紀行文の最高傑作とされている。旅に病んで夢は枯野をかげめぐる、と辞世の句にあるように、人生を旅とみた芭蕉は、この、奥の細道の旅に全生命をかけたのであろう。

奥の細道は松尾芭蕉の俳境が円熟の域に達した頃の紀行文で、日本文学史上紀行文の最高傑作とされている。旅に病んで夢は枯野をかげめぐる、と辞世の句にあるように、人生を旅とみた芭蕉は、この、奥の細道の旅に全生命をかけたのであろう。

4月・5月放送予定

NHKラジオ第一放送（毎週日曜午前10時15分）

Table with columns for dates (4月, 5月) and program titles like '宝観', '生世', '流流', '百發', '万老', '今井梅若', '泰三郎', '男三郎', 'かか'.

NHK・FM（毎週日曜午前7時15分）

Table with columns for dates (4月, 5月) and program titles like '喜観', '多世', '流流', '歌手', '占手', '新太郎', '谷山信弘', 'かか'.

NHK教育TV 4月29日（祝）午前9時

宝生流能「小鼓我」宝生英雄

Table listing names and roles for the '小鼓方・福井家' section, including '岩田信代', '野崎満彦', '川崎すう', '地謡', '梅村平義', '小島トミ子', '杉村道雄', '稲垣道雄', '鈴木守一', '佐藤太俊'.

〔御来場歓迎〕 主催 観世・流友会 後援 名古屋観世会

Table listing names and roles for the '観世・流友会' section, including '後見 辰巳孝幸', '石黒孝幸', '竹生島', '福川寿一', '後成忠彦', '吉田俊彦'.

Large table listing names and roles for various sections like '船井慶', '求塚', '鉄輪', '善知鳥', '頼政', '難波', '独鼓', '仕舞', '独吟', '藤屋', '班女', '羽衣', '女郎花', '屋島', '舞囃子'.

観世・流友会(第五回)大会 五月三日(祭)九時半始 熱田神宮能楽殿. Includes a list of performers and roles for the event.

り火に映える幽玄な能は岐阜県では初の値である。午後五時始...

小鼓方・福井家

幸清流小鼓・福井初太郎師三十三回忌、福井五郎師二十三回忌...

幸清流小鼓の家柄福井家の遠祖は、室町時代、丹波国多紀郡福井...

豊春会春の能 4月24日 金剛能楽堂 豊春会春の能は四月二十四日(日)金剛能楽堂で催される。

京都 能「巴」(豊嶋弥左衛門、岡治郎右衛門、笹森田光春、小鼓...

幸祥光氏逝去 幸祥光氏は三月六日、心不全のため東京都世田谷区等々力五の自宅で逝去...

Table with columns for dates (4月, 5月) and program names (NHKラジオ第一放送, NHK-FM, NHK教育TV). Lists various radio and TV programs.

Main table listing names and roles for various events. Columns include names like 山崎, 安達, 俊寛, 善知鳥, 半藤, 握, and their respective roles or affiliations.

Table listing names and roles for the '名古屋巽会大会' (Nagoya Sengai Taikai) event.

名古屋巽会大会

Table listing names and roles for the '名古屋巽会大会' (Nagoya Sengai Taikai) event, including names like 須磨源氏, 松虫, 杜若, etc.

Table listing names and roles for the '第二十一期青陽会能' (21st Kiyohai Noh) event.

第二十一期青陽会能

Table listing names and roles for the '第二十一期青陽会能' (21st Kiyohai Noh) event, including names like 丸, 通小町, 花月, etc.

楽の友社
地区吹上本町2-20
番号 464
731) 7 9 8 4
名古屋 3 6 3 9 3
1年 500円
1年 800円
50円

寺宅
半追善能

Table listing names and roles for the 'Nagoya Kyogen Seikwa Kaigi (2nd)' event. Includes sections for '附祝言' (Remarks), '一角仙人' (Ichikyo Senjin), '地蔵舞' (Jizō Maori), '花笹之段' (Hanabasa no Dan), '百' (Hyaku), and '吉田義正氏 鳳鳴会大会' (Yoshida Yoshimasa Hōmeikai Taikai).

Table listing names and roles for the 'Sagami Mountain' (半能山) event. Includes sections for '道成寺' (Michidōji-dera), '姥' (Haha), '舟弁慶' (Funabikyo), '巻' (Maki), '弱法師' (Jyaku Hōshi), '融' (Yū), '石恋重' (Ishi Koi Shige), '求景高' (Motokei Takashi), and '神歌' (Shinkaga).

塚本秀雄師範 古稀祝賀大会
四日市観世九草会
親世流師範、塚本秀雄師範の古稀を祝賀して、四日市観世九草会では、五月五日(祭)、四日市市商工会議所四階大ホール舞台で祝賀大会を開催する。当日は午前八時半から、素謡十番、連吟、仕舞など五十余番、名古屋観世九草会会員も参加する。

住友のアルミ・伸銅品
戸松冶金株式会社
取締役社長 戸松利作
名古屋市中区瑞穂区二野町9番16号
電話 (881) 8 1 1 1 (代表)

宝生流全曲旅の友
宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。
合本(全一冊) 定価¥27,000 (送料別)
天・地・人(三冊) 定価¥30,000 (送料別)
天の巻(翁・あ〜こ) 地の巻(さ〜と) 人の巻(な〜ろ・蘭曲)
わんや書店

欧風料理 とんかつ
名古屋市千種区大久手町4-11 TEL.731-3680

謡曲本専門販売
株式会社 東文堂書店
名古屋市中区栄3-28-26 (松坂屋1丁南)
電話 (052) 241-1059

梅若六郎先生 記念能
古稀祝賀
三月十二日(土)千歳一寺治

放養下僧老能
熱田神宮能楽殿
三月十三日(日)十二時半始
今村嘉勇 三島 敏

発行 能楽の友社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一部 50円

能楽の友

お茶の間と直結! NOWな30分! 18:00~18:30



演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[5月]

- 14日(土) 観世九皇会定期能 (有料)
- 15日(日) 吉田義正氏喜寿祝賀 鳳鳴会大会 (来場歓迎)
- 21日(土) 狂言やるまい会 (番組①面) (有料)
- 22日(日) 名古屋観能会大会 (番組②面) (来場歓迎)
- 28日(土) 福井初太郎三十三回忌 (番組③面) (来場歓迎)
福井五郎二十三回忌・追善大会
- 29日(日) 福井初太郎三十三回忌 (有料)
福井五郎二十三回忌・追善能 (番組④面)

[6月]

- 4日(土) 一福会・叶石会大会 (番組⑤面) (来場歓迎)
- 5日(日) 熱田祭奉納能 (番組⑥面) (来場歓迎)
- 12日(日) 名古屋観世会定式能 (番組⑦面) (有料)
- 19日(日) 名古屋宝生会定式能 (有料)
- 26日(日) 菫水会二十五周年記念会 (来場歓迎)

[7月]

- 10日(日) 朝日狂言会 (有料)
- 16日(土) 麦の会 (有料)
- 23日(土) 観世九皇会定期能 (有料)
- 31日(日) 名古屋観世会夏の素謡会 (有料)

(演能変更の際はご了承下さい。)

6月5日 熱田祭奉納能

能「鶴亀」「胡蝶」「小鍛冶」上演

支部長に高安滋郎氏

能楽協会名古屋支部

能楽協会名古屋支部では、このほど支部総会を開催し、五十二年度の支部事業を審議するとともに、新役員を次のとおり決定した。
支部長 高安 滋郎
副支部長 内藤 泰二
同 井上松次郎
同 鬼頭喜太郎
任務分担は、六月五日の支部役員会で選任される予定。

金剛流 豊嶋弥左衛門氏

重要無形文化財指定(人間国宝)に

文化財保護審議会は、さる三月二十五日、重要無形文化財の指定および保持者の認定について答申。新たに各個指定、総合指定等が認定された。
能楽界では、金剛流・豊嶋弥左衛門氏が重要無形文化財個人指定保持者(人間国宝)に認定された。これにより、現在能楽界の個人指定保持者は近藤乾三、松本謙三、野村万蔵、楠本豊次、安福春雄、後藤得三、桜間道雄、藤田大五郎、幸宜佳、茂山千作、豊嶋弥左衛門の十一名である。

山本定期会六月公演

山本定期会は、六月四日(土)山本能楽堂大阪市東区徳井町一(一〇)で定期会を催す。

熊「通流」(シテ河村慎二)
熊「百萬」(法楽之舞)シテ山本真義
熊「夜討置我」(シテ松浦信一郎)

四日市観世九皇会
5月5日(日)

師 野村万之丞
狂言 能村 英五郎
後見 本間 英孝
高橋 右任
地謡 佐々木 俊彦
大田 文一郎
田中 雅章
正田 文一郎
友次 久
友次 久
友次 久

望月 西村 欽也
後見 山田 俊久
後見 山田 俊久
地謡 吉原 一美
千原 修
京盛 一美
服部 孝直
吉倉 孝介
金原 孝介
玉島 孝介
川村 孝介
博 孝介

名古屋観世九皇会定例能(第二回)

五月十四日(土)午後二時始
熱田神宮能楽殿

小袖曾我

母 五木田武計
五郎 観世 武雄
十郎 観世 喜之
間 佐藤 秀雄
鬼 瓦 (おらが) 野村又三郎 佐藤 友彦
狂 佐藤 秀雄
間 野村又三郎 佐藤 友彦

若

有留 渡子
若 西村 欽也
事務所 千原 名古屋市南区元垣町一(一)一七
(加藤 保彦方)
電話〇五二三四五九番

吉田義正氏 鳳鳴会大会

五月十五日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿

高砂

吉田 義正
桑山 陽繁
野々山 正和
三川 慈平
早川 茂一郎

恋重

山本 恵子
高安 滋郎
後藤 幸一郎
松井 弘
野々山 正彦
武田 志房
松木 千冬

御来場歓迎

後見 武田 宗和
後見 武田 宗和
地謡 中川 孝二
後見 武田 宗和
地謡 中川 孝二
後見 武田 宗和
地謡 中川 孝二

あなたに心をこめ
富士道
五月二十一日(土)午後一時三十分始
熱田神宮能楽殿

狂言組
大名 野村万之丞
太郎冠者 野村 信行
野村 信行
野村 信行

蚊か 相撲
太郎冠者 野村 信行
石田 幸雄
野村 万作

清水座頭
座頭 野村 万作
太郎冠者 野村 信行
茂山千之丞

空 腕
太郎冠者 野村 信行
茂山千之丞

腰 祈
祖父 野村又三郎
井上松次郎
井上礼之助

一般自由席 二千円
学生階上席 千円

主催 やるまい会
事務所 名古屋千種区南山西町
野村方
電話(八三三)八〇七一

5月・6月放送予定

●NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

[5月]
15日(日) 宝生流「草子洗」野口禄久ほか
22日(日) 金剛流「羽衣」金剛 殿ほか
29日(日) 観世流「采女」橋岡久馬ほか

[6月]
5日(日) 喜多流「歌占」栗谷新太郎ほか
12日(日) 親世流「調法師」関根祥六ほか
19日(日) 宝生流「蟻通」近藤 礼ほか
26日(日) 観世流「天鼓」山本真義・山本勝一

●NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)

[5月]
15日(日) 親世流「隅田川」梅若六郎ほか
22日(日) 親世流「隅田川」梅若六郎ほか
26日(日) 喜多流「野守」喜多節世ほか

[6月]
5日(日) 親世流「忠度」木原康夫ほか
12日(日) 宝生流「満仲」高橋 進ほか
19日(日) 親世流「女郎花」観世喜之ほか
26日(日) 観世流「羽衣」金剛 殿ほか

●NHK教育TV 5月23日(月)午後9時
金春流能「莫上」桜間道雄 「米市」三宅藤九郎
仕舞「船井慶」桜間道雄

能紀行

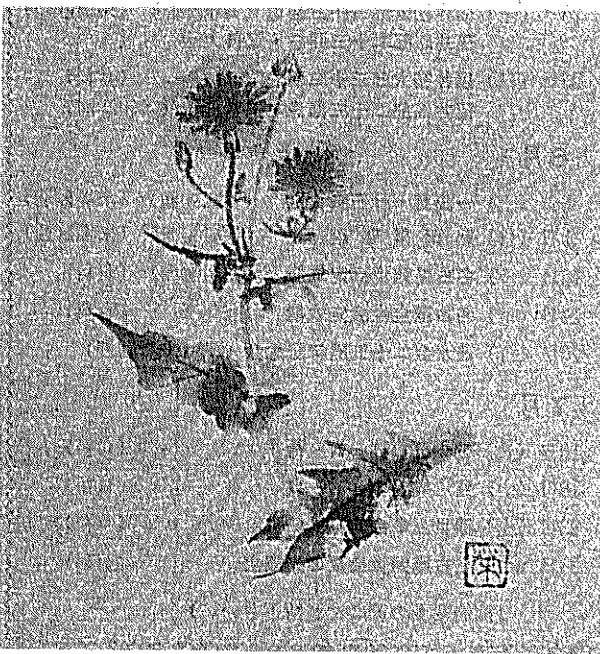
のげしの咲く頃

絵と文 二井 栄 逸

八十八夜前後は緑が一番美しい頃である。立春の日から八十八日目の日、この日以後は、稲の心配がないので、苗代の、もみまきや、茶摘み等、農事開始の作業が行われる目安の日になっている。

新暦の五月三日。街にも、村にも、緑の風が爽やかに吹く。街路樹達も、それぞれに持ち前の若く美しい葉をばい初夏の風にたがせているし、山の中を走る電車にのると、車内まで緑にはえてまぶしくなる。松や杉が整然と植林された山々も美しいけれど、やはり今の季節では色々な樹々の入りまじった雑木の山が鮮やかで好きだ。

八十八夜が近づく、誰も気づかない内に小川の堤や、道ばたにのげしが咲き出してくる。いたるところに自生するので、誰もかえりない花ではあるが、初夏の風顔をただよわす花の一つである。花は野生のまゝがよい。この頃は改良された人工的な花がふえてきたが、美しくなるのはよいけれど、昔、或るところで、のげしと、鉄線花を配した唐織（からおり）を見てもらった事があったが、其の色あいが素晴らしいので、今も頭のすみに残っている、それからたしか一昨年か、大阪の舞台で半端の能を見たことがある。流儀は観世さんだったと記憶している。薄青い地色に、青をおうぶりに配した長袖、大口は薄い萌黄だったことを覚えている。なるほど夕顔にはこのような装束も面白くない、と、思ったことである。昨



日、のげしの写生をしながらふつと、あの時の薄青い長袖一面に、のげしを金の線描でかいて見たいな、と、思った。

岡山美術館所蔵の能装束の中に雷文唐織文柄箱（らいもんづなび）くすもんすりばく、という箱がある。現在では箱は、金箔か銀箔かを掛り出すだけであるが、この箱は雷文つなぎを、平絹の上に金箔で雷文を掛り出し、其の上上半身に葛の花の縫を加えた品のあるものである。

能「狸々」などを上演

平和町新庁舎竣工祝賀能

愛知県中島郡平和町は、濃尾平野のなかで、織維・農業の町として発展しているが、このほど鉄筋コンクリート三階建（建築面積二〇七九平方メートル）の新庁舎が完成、これを記念して四月二十二日午前十時から竣工祝賀式典が盛大に催され、山田正重町長、水谷町議会議長、米倉として海部文相（代理）らが祝辞を述べた。

| 名古屋観衛会大会 | | | |
|----------------|--------|--------|-----------|
| 五月二十二日（日）午前十時始 | | | |
| 熱田神宮 能楽殿 | 番 組 | 鶴 龜 | 加藤長兵衛 田中武 |
| 教 盛クセ | 下村のみ子 | 田中 咲子 | 豊住 雅子 |
| 右 近 | 水野 恵子 | 吉田 定男 | 藤山 昭彦 |
| 松 風 | 吉田 定男 | 福井啓次郎 | 藤山 昭彦 |
| 大江 山 | 藤山 昭彦 | 吉田 定男 | 藤山 昭彦 |
| 舞 舞 子 | 吉田 定男 | 福井啓次郎 | 藤山 昭彦 |
| 放 下 僧 | 伊藤 秀子 | 吉田 定男 | 藤山 昭彦 |
| 班 女 | 山田 伸子 | 吉田 定男 | 藤山 昭彦 |
| 須磨源氏 | 上野野ひな子 | 吉田 定男 | 藤山 昭彦 |
| 吉 野 静クセ | 藤井 敏枝 | 水野たづ子 | 時柳よし子 |
| 網 之 段 | 太田 和子 | 藤井 敏枝 | 時柳よし子 |
| 小 堀クセ | 藤井 敏枝 | 水野たづ子 | 時柳よし子 |
| 夕 雀 山 | 藤井 敏枝 | 水野たづ子 | 時柳よし子 |
| 花 籠 | 市川 康三 | 北村 時夫 | 千崎 隆一 |
| 筒 三宅川公香 | 河村総一郎 | 藤山 昭彦 | |
| 東 北クセ | 青柳イヅエ | 山中 節子 | 藤山 昭彦 |
| 卷 富士太鼓 | 山中 節子 | 藤山 昭彦 | |
| 富 之 段 | 藤山 昭彦 | 吉田 定男 | |
| 菊 童 | 吉田 定男 | 福井啓次郎 | |
| 松 山 | 吉田 定男 | 福井啓次郎 | |
| 善 知 鳥 | 加藤 歌子 | 藤山 昭彦 | |
| 定 家 | 川久保彰礼 | 河村総一郎 | |
| 大原御寺 | 三宅 重光 | 加藤 昭彦 | |
| 雛 波 | 山本 和子 | 吉田 定男 | |
| 花 月 | 山本 和子 | 吉田 定男 | |
| 七 落 | 高木 町子 | 河村総一郎 | |
| 夜討曾我 | 野口 禄久 | 後藤 孝一郎 | |
| 鶯 丸 | 柴田初太郎 | 加賀 敏彦 | |
| 鶴 飼キリ | 梅田 邦久 | 加賀 敏彦 | |

| 追善幸友会（第二日） | | | |
|-----------------|------------|-----------------|----------|
| 五月二十八日（土）午前十時半始 | | | |
| 熱田神宮 能楽殿 | 番 組 | 山 姥 | 山本 勝一 |
| 唐 船 | 川瀬と上子 | 吉田 定男 | 鬼頭喜太郎 |
| 西 王 母 | 中川 芳子 | 吉田 定男 | 鬼頭喜太郎 |
| 自然居士 | 鈴木きく子 | 河村総一郎 | 鬼頭喜太郎 |
| 雨 兼 | 番外仕舞 | 山本 昭之 | 山本 真義 |
| 附祝言 | 主 催 | 名 古 屋 観 衛 会 | 後 援 |
| 〔御来場歓迎〕 | 主 催 | 名 古 屋 観 衛 会 | 後 援 |
| 八世 福井初太郎 | 追善幸友会（第二日） | 五月二十八日（土）午前十時半始 | 熱田神宮 能楽殿 |
| 九世 福井五郎 | | | |
| 一 雛 | 丸 | 岡田 朗詠 | 奥田 敏子 |
| 一 調 花 | 籠 | 鈴木 一雄 | 石井 新子 |
| 能（宝生）前田 幸子 | 高安 滋郎 | 寛 並一 | 鬼頭 好信 |
| 杜 若 | 久武 綾子 | 寛 三男 | |
| 〔御来聴歓迎〕 | 主 催 | 福井社中 | 後 援 |
| 八世 福井初太郎 | 追善能 | 五月二十九日（日）十二時半始 | 熱田神宮 能楽殿 |
| 九世 福井五郎 | | | |
| 観世 幸之 | 観世 武雄 | 幸 正昭 | 藤田 六郎兵衛 |
| 幸 正昭 | 幸 正昭 | 藤田 六郎兵衛 | |
| 海 士 | 観世 幸夫 | 吉田 定男 | 助川 龍夫 |
| 六月四日（土）午前十時半始 | 熱田神宮 能楽殿 | | |
| 安 達 原 寛 | 竹内 茂 | 長谷川 実 | 高良てる子 |

「恋重荷」の役 見が大変厄介なものだといわれます。本筋（揚幕のこと）から御見取り良し

「のうのうと呼びかけがあって、ワキの 露出して歩く」

楽の友社
種区吹上本町2-20
番号 464)
731) 7984
名古屋 36393
1年 500円
1年 800円
50円

5月3日 観世・流友大会
素謡・仕舞など30番
名古屋観世会の各師範社による観世流・流友大会は、この第五回をむかえ、さたる五月三日(金)午後九時半、熱田神宮能楽殿で開かれます。

Table listing names and roles for the '熱田神宮大祭奉納能' (Nagatsuta Shrine Grand Festival Offering Noh). Roles include 観 (Observer), 舞 (Dancer), 仕 (Attendant), 問 (Question), 能 (Noh). Names listed include 中村和男, 加藤保彦, 加藤兵衛, 高安勝久, 柳原英二, 藤田昭彦, 梅田邦久, 須部市, 田中武, 河村純二, 青木敏彦, 久田秀雄, 稲生芳雄, 塚本秀雄, 高橋村一翠, 高橋村一翠, 高橋村一翠.

名古屋観世会定式能(第三回) 六月十二日(日)十二時半始
熱田神宮能楽殿
弱法師の杖 垂井勉
俊徳丸は橋掛を一足一足静かに歩みを進んでゆく。黒頭の下にぞいた白背の面に、水衣着流しの立派な造形となつて、いつまでも私の心に浮彫りにされている。この弱法師の杖について、ある能楽師がこんなことを私の友達に教えたことがある。「弱法師の杖は盲人の杖と違ってはいけません。そのわけを聞くと、「盲人はわれわれの考えているほど、杖にすがってとぼとぼと歩いているではありませんよ。」といったふうである。

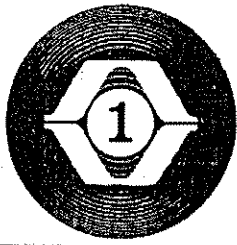
水無月被 橋岡久共
龍太鼓 梅若景英 地謡 殿田修二
善知鳥 井上嘉久 佐藤友彦
伊文字 井上松次郎 大野弘之 大野弘之
善界 西村欽也 後藤孝一郎 藤田昭彦
梅田邦久 観世武雄 大野弘之 後藤孝一郎 藤田昭彦
附祝言 後見 久田敏二 地謡 長谷川武和 井上久秀
梅若景英 後藤孝一郎 藤田昭彦 塚本秀雄
主権名 古屋観世会 終了四時十五分頃

観世流謡曲本 ちくさ正文館 ちくさ駅前 電話(74)1137
観世流・金剛流 宗家本発行元 檜書店
千101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9
千604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 撥替東京 3-3552
電話(231)1990 撥替京都 113

中華料理 桃源亭 御宴会・御集會・御商談等には是非御座敷を御利用下さい
中區栄三丁目29(松坂屋南) 電話 241-2938・6081
支店 名鉄百貨店9階 のれん茶屋
民芸食事処 まんだら 名古屋市西区浅間町3番地 TEL. 524-0168
西みやか TEL. 531-5507・6666

中部金剛会定期能 四月十七日(日)午前十一時始
熱田神宮能楽殿
四月二十三日(土)午前十時始
熱田神宮能楽殿

料理 蓬菜軒
あつぱん
本店 熱田区神戸町三四 電話(67)8686
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(637)5598(代表)



現代をみつめる眼
東海テレビ

能楽の友

題字は熱田神宮 藤田宮司筆

発行 能楽の友社
名古屋市千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
一部 50円

附祝言

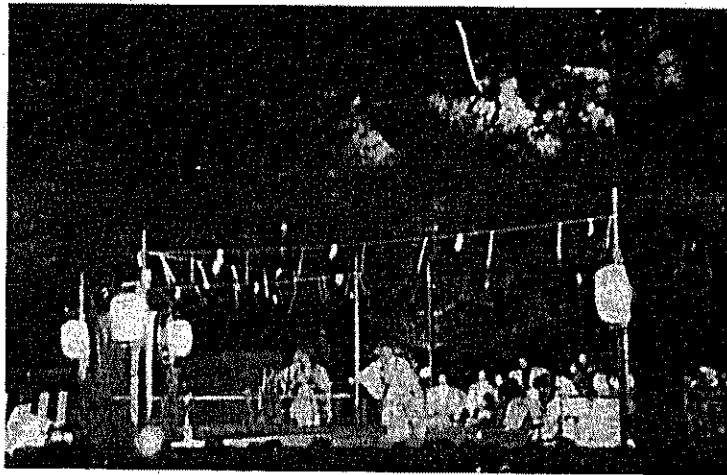
二日目 八月七日(日) 午後五時半始

能組

舞(宝生流)

12回 名古屋新能

8月7日(日) 2日間上演



「名古屋新能」は、ことし第十二回を迎えるが、本年から二日間となり、きたる八月六日(土)七日(日)の二日にわたって熱田神宮神楽殿・特設舞台で催される。

名古屋新能は、中京の夏をいどる納涼能楽の夕べとして恒例の行事になり毎年八月の第一土曜日に開催、入場者は毎回千五百人を越え、熱田神宮境内の緑蔭にくりひろげられる「野外能」として親しまれてきている。今年の新能が二日間にはなるといわれるのは、新能観賞者の増大という大きな理由で、写真第11回新能「狸々乱」双之舞。

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

[6月]

- 12日(日) 名古屋観世会定式能 (番組①面) (有料)
- 19日(日) 名古屋宝生会定式能 (番組①面) (有料)
- 26日(日) 菰水会二十五周年記念会 (番組②面) (米場歓迎)

[7月]

- 10日(日) 朝日狂言会 (番組②面) (有料)
- 16日(土) 麦の会 (番組③面) (有料)
- 23日(土) 観世九奉会定期能 (番組③面) (有料)
- 31日(日) 名古屋観世会夏の楽謡会 (番組③面) (有料)

[8月]

- 6日(土) 第12回名古屋新能(第1日) (有料)
会場 熱田神宮境内特設舞台
- 7日(日) 名古屋官庁楽団大会 (米場歓迎)
- 7日(日) 第12回名古屋新能(第2日) (有料)
会場 熱田神宮境内特設舞台
- 28日(日) 長田駿後援会

(演能変更の節はご了承下さい。)

人として五郎師掛へいば尽力された故村木嘉助氏を追悼する。午前十時半始。
番囃子「葵上」はじめ囃子二十番、一調「笠之段」ほか連演など。米場歓迎

〔暑中見舞い広告について〕
暑中見舞いご芳名廣告のお申し込みを頂いておりますが、紙面の都合にて七月号、八月号にわたって掲載させて頂きますので何卒ご理解

福井啓次郎
福井良久
福井良治
柳原富司
野村狂言の会
野村村
野村村
野村村

名古屋観世会定式能(第三回)

六月十二日(日) 十二時半始
熱田神宮能楽殿

唐船 山本勝一
山口亮
鬼頭好信
三男

弱法師

梅若六郎

高安 滋郎
河村総一郎
藤田六郎兵衛

休息十分

水無月被 橋岡久共
龍太鼓 梅若良英
善知鳥 井上嘉久

伊文字 井上松次郎

佐藤孝一
大野弘之助

善界

梅田邦久
観世武雄

西村欽也
後藤孝一郎
藤田昭彦

後見 久田徹二
梅若良英
地謡 青木和男
長谷川武弘
契雲 塚本久秀
秀雄 久共

附祝言

主催 名古屋観世会
終了四時十五分頃

名古屋宝生会定式能

六月十九日(日) 午後零時半始
熱田神宮能楽殿

講義「地拍子の実際」
(曲名 鶴調)
辰巳孝先生

杜 倉本雅
竹内澄子

仕舞

敦 盛キリ 吉田俊彦
小 督 竹腰勝一
加 花ヶセ 内藤泰二
茂 辰巳孝

景清

後見 戸田和雅

高安 滋郎
寛 敏一
藤田六郎兵衛

文蔵 佐藤秀雄
井上礼之助

鉄輪

野口景久

西村欽也
高安 勝久
柳原富司
藤田昭彦

後見 内藤泰二
吉田俊彦
鬼頭嘉男
地謡 高田文男
佐藤真利
藤田昭彦
馬場富孝
藤田昭彦

附祝言

主催 名古屋宝生会
名古屋千種区山里町一三五
内藤泰二 電話八三二一
後援 中日新聞

〒602 京都市上京区北野上七軒
電話(五)一三四一

能紀行

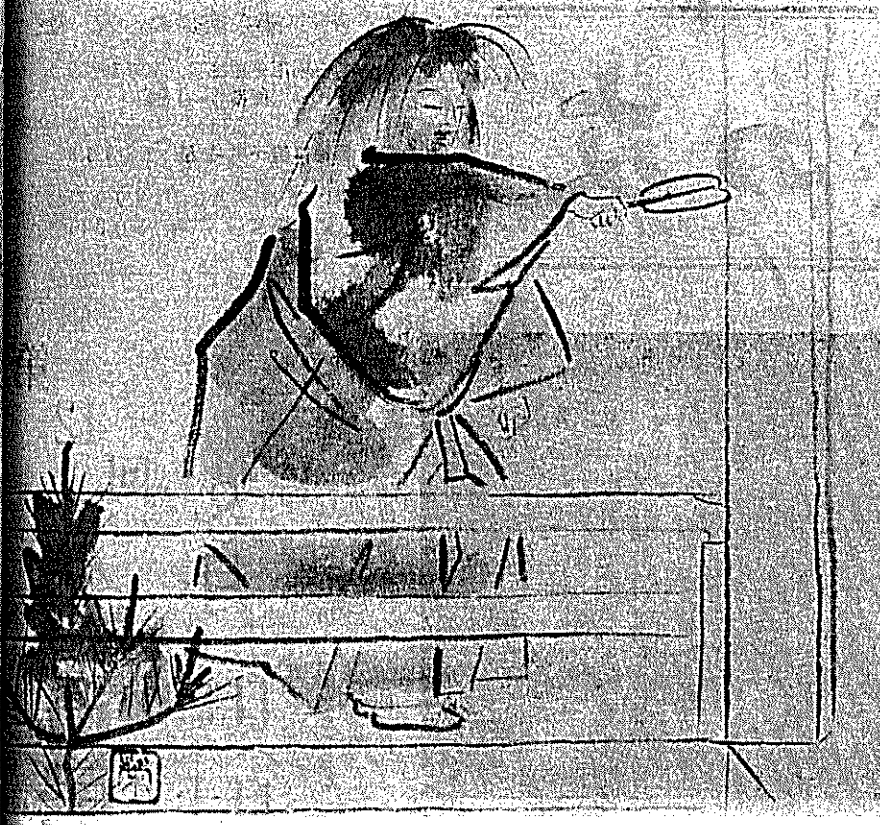
五月の旅から

絵と文 二井栄逸

こないだ山陰地方を旅しました。絨緞の上をするするとすべるように走りまわります。

こころあたりは赤松と雑木が多く、その中に萌黄の竹林が散在し山脈があちこちに薄紫の花房を下げていました。それは丁度、無色唐織（いろなしからおり）を打ちかけたように美しかったのです。

それに、私にとっては幻の花である海神の桐の花が時折車外を走り去るのでした。私は、目を皿のようにして桐の花を見つづけるのですが、車を止め、スケッチをする暇もありません。やはり絵かきの旅は気まぐれ、風吹くまゝの一人旅がよいのです。



私の家は幕府時代は小島町に地所をいたいでいたが、私は鳥越で生れたのです。（父鏡之丞紅雲）

は弓町の親世宗家

鬼退治の勲命を受け、源頼光連は筑紫山崎の山伏といつわり、酒呑童子の住家に一夜の宿を乞います。

明け暮れ酒を愛する童子は、極めて無邪気に身の上を語り、自ら語ったり舞ったりして酒興を添えるのです。

古書を見ると、大江山の山賊の統領、酒呑童子は、越後の国、浦原郡中村の百姓の子と生れ、母の胎中に十六日月、生れた時はすでに五つ六つの子供のように大きく、十七、八才になると、牛や馬を飼って食ひ、酒は七、八斗を呑んだと書いてありますが、能に登場する酒呑童子は愛すべき童形姿で、何となく、おうようで、せこましい人間社会を見下しているようです。勿論、後シテは鬼に化身するのですが、能の中心はやはり愛すべき童形の前半にあると思います。

この前シテは童子をわけ、厚板の著附に半切、唐織を断折（つばお）りにつけ、黒頭（くろがしら）を戴いて唐圓扇を持つといういでたち。四、五年前の中日五流能で喜多長世師が大江山を舞われましたが、其の時は、実先生の命で大咽食をおつかいになった事を覚

昭和52年度青少年芸術劇場

文化庁主催の「青少年芸術劇場」の昭和五十二年度の演能は宝生流により、七月二十六日鳥取県境港市を皮切りに、八月一日までに松江、岡山、広島、福岡県瀬高、佐賀の六会場で開催される。

能「小鍛冶」狂言「泉」「瓜盛人」。宝生流シテ方渡辺三郎、武田喜永、狂言は大藏流。大鼓方として中部から河村総一郎師が出動する。

と子供心にも、覚えなくちゃいけないと思つたものです。

そんなたよりない時分ですから、子方で作物の内に入つても、中入でシテが引込むと同時に、引廻しでくるむようにしてだいて切戸に引こしてくれ、舞がすんでから又入ることにして、と。

| 茲水会 二十五周年記念大会 | |
|----------------|--|
| 六月二十六日(日)午前九時始 | |
| 熱田神宮能楽殿 | |
| 神歌 | 森岡 徹雄 鈴木 高広 |
| 竹生島 | 宇佐美 操 白滝 史子 小川 美津子 |
| 葵上 | 水野あや子 川瀬 裕子 原 正彦 |
| 千手 | 省路あり 大野 幸 鬼頭さだ子 竹中 道子 |
| 高砂 | 水野あや子 河村総一郎 河原富司忠 寛 鉦一 後藤孝一郎 鬼頭 季信 |
| 草子洗小町 | 神保多美子 寛 鉦一 後藤孝一郎 鬼頭 季信 |
| 百方 | 白滝 史子 鬼頭 季信 |
| 田村 | 後シテ 深見 一枝 後シテ 深見 賀子 西村 欽也 河村総一郎 河原富司忠 寛 三男 |
| 鶴亀 | 丸 内藤うめ子 吉田 定男 福井啓次郎 河村総一郎 河原富司忠 鬼頭 季信 |
| 羽衣 | 余倉 早苗 高安 勝久 寛 鉦一 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛 助川 竜夫 |
| 成り上り | 野村又三郎 井上礼之助 井上松次郎 |
| 砧 | 荒川智恵子 白石 淑子 森岡 徹雄 橋本 とも 後藤 新藏 鈴木 胡蝶 |

第19回朝日狂言会

七月十日(日)午後一時半始

熱田神宮能楽殿

付祝言 主権 茲水有賀 茲水有賀 茲水有賀

〔御来聴歓迎〕

名古屋市昭和区菜園町八五 電話(三三)八三三三

船井慶 吉田 定男 鬼頭喜太郎 藤田 昭彦

玄象 石川 糸代 吉田 定男 鬼頭喜太郎 寛 三男

雲雀山 越後さみ子 寛 鉦一 後藤孝一郎 寛 三男

御挨拶 観世 喜之 有賀 滋子

海方高橋 寧 佐藤千代子 後シテ 森川みどり

後シテ 深見 賀子 野村又三郎 加藤 徹雄 河原 富司忠 小島 秀雄 高橋 隆一 観世 武雄 弘田 裕一 佐々木 勝輝

〔終了予定六時半頃〕

佐渡狐 佐藤 秀雄 井上 祐一 大藏 基嗣 大藏 基嗣

附子 大藏 基嗣 井上 祐一 大藏 基嗣

鎌腹 大藏 基嗣 井上 祐一 大藏 基嗣

神舞 藤田六郎兵衛 後藤孝一郎 鬼頭喜太郎

閻罪人 井上礼之助 井上松次郎

朝日新聞社 狂言共同社

七月二十三日(土)午後二時始

熱田神宮能楽殿

高木美智子 高安 澄郎 吉田 定男 鬼頭 季信

「本日の能について」

五日 三子

経 正

能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」

私の家は常陸守代は小島町に地所をいたたいていましたが、私は鳥越で生れたのです。

父(観世宗家)は弓町の観世宗家の内にいたこともありますが、これは六百坪程の家で御維新のとき取上げられるのを百五十坪だけ買取りました。家元は將軍家ともは駿府にうつりました。

梅若の父(先代実)は「どうしても端を捨てては出ない、東京に残ってつづける」といいますので

父も共に残ることになったのです。この頃は何しろみな御扶持がなくなっているのが毎日が大変でしたが、梅若の父は、厨子一本あれば人様の家の前に立っても恥は続けた決心をしていました。

そんな時ですから、皆散り散りになって馴れぬ面売をせられる方や、僅かの給料で役所へ勤める方もあり、親類をたよって百姓になった方も聞いておられます。宝生九郎さん(先代)ほどの方でも一時は能をあきらめていられたというありさまでした。

「観世宗家」の御世宗家の内にいたこともありますが、これは六百坪程の家で御維新のとき取上げられるのを百五十坪だけ買取りました。家元は將軍家ともは駿府にうつりました。

梅若の父(先代実)は「どうしても端を捨てては出ない、東京に残ってつづける」といいますので

父も共に残ることになったのです。この頃は何しろみな御扶持がなくなっているのが毎日が大変でしたが、梅若の父は、厨子一本あれば人様の家の前に立っても恥は続けた決心をしていました。

そんな時ですから、皆散り散りになって馴れぬ面売をせられる方や、僅かの給料で役所へ勤める方もあり、親類をたよって百姓になった方も聞いておられます。宝生九郎さん(先代)ほどの方でも一時は能をあきらめていられたというありさまでした。

「観世宗家」の御世宗家の内にいたこともありますが、これは六百坪程の家で御維新のとき取上げられるのを百五十坪だけ買取りました。家元は將軍家ともは駿府にうつりました。

梅若の父(先代実)は「どうしても端を捨てては出ない、東京に残ってつづける」といいますので

父も共に残ることになったのです。この頃は何しろみな御扶持がなくなっているのが毎日が大変でしたが、梅若の父は、厨子一本あれば人様の家の前に立っても恥は続けた決心をしていました。

そんな時ですから、皆散り散りになって馴れぬ面売をせられる方や、僅かの給料で役所へ勤める方もあり、親類をたよって百姓になった方も聞いておられます。宝生九郎さん(先代)ほどの方でも一時は能をあきらめていられたというありさまでした。

「観世宗家」の御世宗家の内にいたこともありますが、これは六百坪程の家で御維新のとき取上げられるのを百五十坪だけ買取りました。家元は將軍家ともは駿府にうつりました。

梅若の父(先代実)は「どうしても端を捨てては出ない、東京に残ってつづける」といいますので

父も共に残ることになったのです。この頃は何しろみな御扶持がなくなっているのが毎日が大変でしたが、梅若の父は、厨子一本あれば人様の家の前に立っても恥は続けた決心をしていました。

そんな時ですから、皆散り散りになって馴れぬ面売をせられる方や、僅かの給料で役所へ勤める方もあり、親類をたよって百姓になった方も聞いておられます。宝生九郎さん(先代)ほどの方でも一時は能をあきらめていられたというありさまでした。

「観世宗家」の御世宗家の内にいたこともありますが、これは六百坪程の家で御維新のとき取上げられるのを百五十坪だけ買取りました。家元は將軍家ともは駿府にうつりました。

梅若の父(先代実)は「どうしても端を捨てては出ない、東京に残ってつづける」といいますので

父も共に残ることになったのです。この頃は何しろみな御扶持がなくなっているのが毎日が大変でしたが、梅若の父は、厨子一本あれば人様の家の前に立っても恥は続けた決心をしていました。

そんな時ですから、皆散り散りになって馴れぬ面売をせられる方や、僅かの給料で役所へ勤める方もあり、親類をたよって百姓になった方も聞いておられます。宝生九郎さん(先代)ほどの方でも一時は能をあきらめていられたというありさまでした。

喜多流能「半部」

妻の会 7月16日公演

毎年、意欲的な公演を行なっている「妻の会」は、きたる七月十六日、熱田神宮能楽殿で、本年度の公演を催す。

番組は、喜多流能「半部」(シテ長田(観)と観世流能「安達原」(シテ久田(観)の能二番、狂言「二九十八」仕舞、独吟などで、喜多流の重鎮大島久見、観世流上田照也の諸師が来演、「遊行柳」「笠之段」の仕舞のほか能の地謡をつとめる。

「妻の会」は、昭和四十五年発

有賀滋子師茲水会

25周年記念大会

足以来七年、流儀を問はず能楽を奨める会として期待され、今回の公演に当たって、精選の成果とその意欲を顕著して頂きたいとぞ願っている。(番組①面掲載)

観世流女流師範・有賀滋子師主宰の「茲水会」は、ことし発足二十五周年をむかえ、六月二十六日(日)熱田神宮能楽殿で記念大会を開催する。

番組は能「田村」(前シテ深見一枝さん、後シテ深見賀子さん)「羽衣」(シテ奈倉早苗さん)「船弁慶」(前シテ佐藤千代子

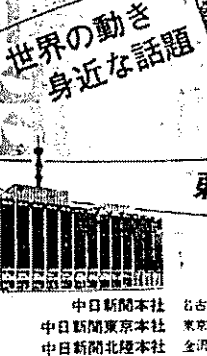
出版紹介

法政大学能楽研究所刊
「能楽研究」(第三号)

野上記念・法政大学能楽研究所発行の「能楽研究」第三号がこのほど発刊された。

目次は次のとおり

・大和猿蓑の「長」の性格の変遷 (中)



世界の動き 身近な話題

中日新聞本社
中日新聞東京本社
中日新聞北陸本社

「本日の能について」

七月十六日(土)午後零時半始

熱田神宮能楽殿

西田三好

能組

鶴之段 二井栄逸

長田 義

西村 欽也

吉田 定男

山口 亮

藤田六郎兵衛

間 佐藤 友彦

後見 前田 光子

松島 恵子

地謡 久岡 克美

藤田 直輝

中嶋 功

大島 久見

二井 栄逸

仕舞 舞

女 郎 花 久田 秀雄

笠之段 上田 照也

遊行柳 大島 久見

狂言 井上松次郎

井上礼之助

二九十八

安達原 高安 滋郎

鬼頭 英二

後藤 孝一郎

森本 重一

大野 弘之

後見 前野 郁子

久田 秀雄

地謡 今村 嘉男

清沢 一政

高橋 麻一

山田 義高

松 風 野村 四郎

観世 静夫

河合雄一郎

野村 四郎

観世 静夫

藤井 久雄

三井寺 坂宮 静夫

観世 静夫

武田 邦弘

仕舞 藤井 久雄

観世 静夫

武田 邦弘

正 尊 藤井 久雄

野村 四郎

清 經 梅田 邦久

久田 秀雄

松 風 野村 四郎

観世 静夫

河合雄一郎

野村 四郎

観世 静夫

藤井 久雄

三井寺 坂宮 静夫

観世 静夫

武田 邦弘

仕舞 藤井 久雄

観世 静夫

武田 邦弘

正 尊 藤井 久雄

野村 四郎

三井寺 坂宮 静夫

観世 静夫

武田 邦弘

仕舞 藤井 久雄

観世 静夫

武田 邦弘

正 尊 藤井 久雄

野村 四郎

正 尊 藤井 久雄

野村 四郎

附祝言 主催 名古屋観世会

前席券 二,〇〇〇円 (自由席) 当日券 二,五〇〇円

七月二十三日(土)午後二時始

熱田神宮能楽殿

高木美智子

高安 滋郎

吉田 定男

福井 良久

鬼頭 季信

賀 茂 佐々木勝輝

敦 盛 小林 喜久

水無月 観世 喜之

龍 虎 高橋 隆一

太刀 狂 佐藤 友彦

井上礼之助

佐藤 秀雄

三笑 寛 敏一

鬼頭 喜太郎

藤原 高吉

藤田 昭彦

事務所 名古屋南区元福町一丁目一七

(加藤保彦方)

電話 八〇五二〇 三六五九番

観世会夏の素謡会

七月三十一日(日)十二時半始

熱田神宮能楽殿

高松 院 砂

天 鼓 服部 沙枝

有賀 滋子

熊沢 美子

佐藤 大俊

梅田 邦久

久田 秀雄

河村 証二

小島 一英

杉村 竹翠

観世 修二

野村 四郎

観世 静夫

藤井 久雄

野村 四郎

観世 静夫

武田 邦弘

仕舞 藤井 久雄

観世 静夫

武田 邦弘

正 尊 藤井 久雄

野村 四郎

楽の友社
種区吹上本町2-10
番号 464
731) 7984
名古屋 36393
1年 500円
1年 800円
50円

会と催し



四日市観世九車会・塚本秀雄師古稀祝賀大会
5月5日四日市商工会議所ホール

| 十二月 | 十一月 | 十月 | 九月 | 月 |
|--------------------------|---------------------|----------------------|-------------------|-----|
| 二十五日 (日) 楽師会乱能 (有料) | 二十三日 (日) 和泉狂言会 (有料) | 二十三日 (日) 談文会秋の会 (有料) | 二十五日 (日) 幸福会 (有料) | 日 曜 |
| 十八日 (日) 青少年のための芸術劇場 (有料) | 二十日 (日) 邦謡会 (有料) | 二十九日 (日) 一福会叶石会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| 十一日 (日) 宝生会定式能 (有料) | 十九日 (日) 和泉狂言会 (有料) | 三十日 (日) 中部金剛会 (有料) | 二十三日 (日) 幸福会 (有料) | 日 曜 |
| 四日 (日) 歳末助け合い義捐能 (有料) | 二十三日 (日) 和泉狂言会 (有料) | 三日 (日) 幸友会秋の会 (有料) | 二十五日 (日) 幸福会 (有料) | 日 曜 |
| | 二十七日 (日) 竹韻会 (有料) | 五日 (日) 嘉福会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 六日 (日) 風韻会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 十二日 (日) 梅若盛後援会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 十三日 (日) 観世会定式能 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 十九日 (日) 和泉会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 二十日 (日) 邦謡会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 二十九日 (日) 一福会叶石会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |
| | | 三十日 (日) 中部金剛会 (有料) | 二十三日 (日) 興竹会 (有料) | 日 曜 |

52年9月~12月
熱田神宮能楽殿 催能予定
(昭和52年6月10日現在)

奉納能
「胡蝶」
上演

各種の祭典が催されるが、能楽協会の古くより、恒例により、当日午前十一時から奉納能を熱田神宮能楽殿で開催する。能組は、観世流能「鶴亀」(シテ加藤兵衛)宝生流能「胡蝶」

景
トモ 渡辺容之助
シテ 佐野山於
宝生 英雄
高安 渡郎
飯島佐之六
住駒 陽介
野口 浩和
後見 本間 英孝
高橋 右任
地謡 飯島 修一
大西 隆二
田宮 義男
金森 孝介
尾川 小太郎
山田 太佐久

第十五回記念 北陸中日能予定番組
九月十八日(日) 正午開演
金沢市石引四一七ノ一
石川 厚生年金会館

各地だより
山本定期能、52年
下半年演能予定
大阪 二年度下半期の演能日程
なりびに曲目は次のとおりである。

野宮 山本 真義
宇治田正子
前ツレ 千崎 隆一
天友 森本 詞郎
和布刈 山本 勝一
源氏供養 松浦信一郎
山本 順之
同定期能の問合せは山本定期能
楽会(〒5440)大阪東区徳井
町一〇二〇、電話〇六(九四三三)
九四五四

名古屋観世九車会定例能(第二回)
五月十四日(土)午後二時始
熱田神宮能楽殿

望
ツレ 味方 三郎
熊 坂 能
後見 山田太佐久
後彦 俊彦
地謡 吉原 修一
京盛 一美
千草 直次
千原 小太郎
野口 浩和
三島 浩太郎

栗林貞一氏逝去
能楽研究者・栗林貞一氏は、五月十四日老衰のため逝去、八十四歳。氏は、元朝日新聞大阪本社校閲部長。能楽に関する執筆活動をつづけ、「能楽名所旧跡(正・続)」(絵巻店刊)をはじめ「能を見る人」に「能謡新風」「能楽の話」などの著書があり、能の普及に努めた。また豊橋弥左衛門師に金剛流を学び、金剛流師範であった。

6月・7月放送予定

| 放送日 | 放送時間 | 放送内容 |
|----------|--------|-------|
| 6月12日(日) | 10時15分 | 「流」世生 |
| 6月19日(日) | 10時15分 | 「流」世生 |
| 6月26日(日) | 10時15分 | 「流」世生 |
| 7月10日(日) | 10時15分 | 「流」世生 |
| 7月17日(日) | 10時15分 | 「流」世生 |
| 7月24日(日) | 10時15分 | 「流」世生 |

あなたに心をこめておくりする……
富士道の婚礼道具
家具の富士道
五月二十一日(土)午後一時三十分始
狂言組 熱田神宮能楽殿

宗家・宝生英雄先生編著
宝生流曲地拍子謡本
五番綴・全36巻
厳密な検討を加えて更に詳しい解説を付しました
わんや書店

割烹・小料理 城
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
電話 241-0248
●喫茶・グリル(愛知府地下ビル)
電話 731-1128

名古屋鉄道株式会社

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友
 名古屋千種区吹上本町2-20
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7 9 8 4
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 500円
 郵送の場合 1年 800円
 一 部 50円

題字は熱田神宮 篠田官司筆

能「土蜘蛛」(前シテ、野宮能入、後シテ上田大介、胡・藤谷音、トモ笠田雅弘、頼・上田公威)
 (第二日)
 能「吉野天」(前シテ下川勝、後シテ藤谷政二、天人・森秀夫) 宝生流能「鶴飼」(シテ辰己孝)

9月に豊田公演

能「土蜘蛛」狂言「武悪」

昭和52年度
 愛知県芸術祭 能・狂言の会
 能楽協会豊田公演
 九月十七日(土)午後五時半開演
 豊田市文化芸術センター
 (豊田市小坂町二一〇〇)

能楽について
 狂言について
 狂言「武悪」
 番 組
 内藤 泰二
 佐藤 友彦
 井上松次郎
 野村又三郎
 井上礼之助

能楽協会名古屋支部(高安渡郎支部長)は、本年度から愛知県芸術祭に参加することになり、また九月十七日、豊田市文化芸術センターで「昭和五十二年愛知県芸術祭能・狂言の会」として初公演が行なわれる。
 主催は愛知県教育委員会、豊田市教育委員会。
 番組は宝生流能「土蜘蛛」と狂言「武悪」の二番、入場無料、多数の来場が期待される。
 愛知県芸術祭の催しは、愛知県教育委員会の主催により、舞踊、音楽、民芸など県民文化の向上と芸術の振興育成をめざし毎年各地の文化施設を利用して開催されてきたが、このほど県教委から能楽協会に呼びかけがあり、打合せ会がもたれ能楽協会として公演に参加することになったもので、県芸術祭に「能・狂言」の部門が正式に設けられたことは意義あることである。なお能楽協会名古屋支部では井上松次郎氏が県教委との連絡にあたっての。

附 祝 言

能 土 蜘蛛
 鬼頭 嘉男
 竹内 正宜
 内藤 泰二
 高安 渡郎
 佐藤 雅介
 吉田 定男
 後藤 孝一郎
 光頭 喜太郎
 藤田 昭彦
 後見 戸田 和
 玉井 博 結
 地 謡
 江崎 秀雄
 伊藤 郁夫
 藤 勝 一
 竹 吉 辰
 勝 一 彦

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- [7月]
 16日(土) 麦の会 (番組③面) (有料)
 23日(土) 観世九阜会定期能 (番組③面) (有料)
 31日(日) 名古屋観世会夏の茶謡会 (番組③面) (有料)
- [8月]
 6日(土) 第12回名古屋新能(第1日) (有料)
 会場 熱田神宮境内特設舞台(番組④面)
 7日(日) 名古屋官庁楽団大会 (米場歓迎)
 7日(日) 第12回名古屋新能(第2日) (有料)
 会場 熱田神宮境内特設舞台(番組④面)
 28日(日) 長田 駿 後援会 (米場歓迎)
- [9月]
 11日(日) 観世会定式能 (有料)
 15日(祭) 豊 聖 会 (米場歓迎)
 17日(土) 観世九阜会定期能 (有料)
 18日(日) 和泉狂言会 (米場歓迎)
 23日(祭) 呉 竹 会
 25日(日) 幸 謡 会 (有料)
- ※ 9月22日(日) 大衆能(愛知文化講堂)
 (演能変更の節はご了解下さい。)

石和薪能

第五回石和薪能は、きたる八月十九日(金)、山梨県・石和町鶴岡山遠妙寺で行なわれる。
 主催 石和町教育委員会、後援 姫路城三の九広場で開催。

姫路薪能

姫路薪能は八月六日午後六時から姫路城三の九広場で開催。
 主催 姫路市(観世能夫)

能「望月」(シテ南条秀雄、ツレ泉泰孝、子方・竹綱康人、ワキ森茂好、笛・一噌庸二、小鼓・大倉長十郎、大鼓・安福建雄、太鼓・小寺佐七、間・山本則直、後見・遠藤六郎、北浪照雄、地謡・梅若方紀夫、梅若修一、阿部信之、(任舞) 塚々(木下重清)八島)

(独脚) 竹生島(木下重清、飯田茂夫) 鉢木(加藤英子、浜口幸成) 網之段(寺西よし子、浜口幸成) 葉上(福吉愛、賀川きよ) 花(横井鈴江、浜口幸成) 経政(村田正、二井千鶴子)

生きた設備を調メカ調整設備は視力測定・メカピックアップでピスの充実を心かかっています。責任感とたまたまのミスは、徹底した日メカを

正一眼鏡
 駐 車 場 完 備

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| <p>観世元正 東京都渋谷区恵比寿南 一―二十一―十四</p> | <p>大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文藏 大阪市東区上町二番地</p> | <p>鳳鳴会 武田太加志 名古屋市中区東一丁目一九 吉田 義 正 方</p> | <p>山本観衛会 山本勝一 〒662 西宮市南郷町五―二二</p> | <p>藤井徳久 完楽徳久 治人三雄 神戸市東灘区熊内町二―一―二〇 電話(三三)五―四四番</p> | <p>大西信久 大西智久 大阪能楽会館</p> | <p>名古屋橋岡会 名古屋市中区九段町五ノ三五 山田紀子方</p> | <p>梅田邦久会 須部 邦 久 清沢 美 和 今 沢 美 和</p> | <p>久田親正会 久 田 秀 雄 久田親正会 電話(三三)五―四四番</p> | <p>玉鑿会 永徳堂西町二〇 洗心会 南条秀雄 華心会 奥村富久子 京都市左京区 電話 075-771-0767</p> | <p>壺泉会 泉 嘉 夫 名古屋市中区和区山里町一〇三 電話八三二―三―一八五 西宮市甲陽園目山町一の一七八 電話八〇七九八V②二四五八</p> | <p>毎日婦人文化センター 風韻会 殿 島 修 二</p> | <p>財団法人 鎌倉能舞台 中 森 晶 三 中 森 貫 太</p> | <p>上 田 照 也 〒248 鎌倉市長谷三―五―十三 電話(〇四六七)⑤五五五七</p> |
|---|--|---|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|--|

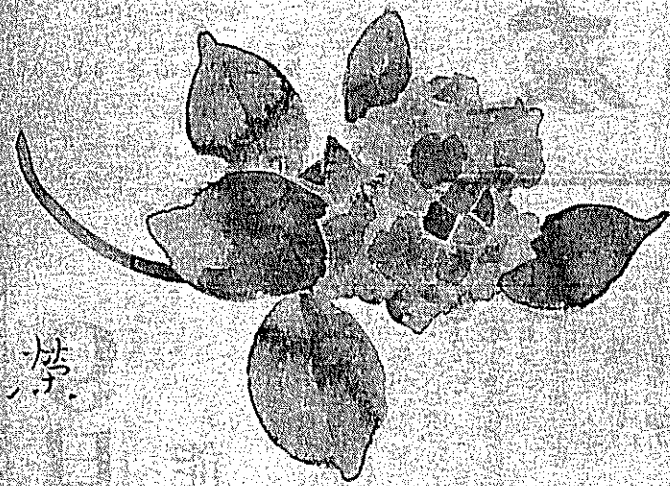
能紀行

露ながら

絵と文 二 井栄逸

さみだれが降る。元来、私は雨の音が好きなので、雨室で仕事をすゝむ時等、ひねもす雨の音をきいていたい方である。でも、稽古や舞台のある時は、カサリと晴れた日でない限り、と、雨を排斥する身勝手さで、自分を叱つたりする。さみだれの庭には、又、それに相応した野草や、花木が、いきいきと緑をこぼす。庭に二枚の白い葉をヒラリと見せて、露にふるえる半夏生。夏を過ぎ、半夏生（はんげしよ）になる頃、頂上に白い葉をつけるのでこの名前がある。別名狐の提灯といわれる程に、赤紫の葉を下げるはたる袋中。でも一入さわやかさを添えるのがあじさいである。

やわらかい凹凸のある丸い花のかたまりに、青、白、薄紫、薄紅と陰影をちらつかせながら、夏美人を飾う。同じ仲間にも、ハイドランジア（西洋のあじさい）の白い葉をヒラリと見せて、露にふるえる半夏生。夏を過ぎ、半夏生（はんげしよ）になる頃、頂上に白い葉をつけるのでこの名前がある。別名狐の提灯といわれる程に、赤紫の葉を下げるはたる袋中。でも一入さわやかさを添えるのがあじさいである。



麦の会

七月十六日（土）午後零時半始
熱田 神宮 能楽殿

三笑

七月十六日（土）午後零時半始
熱田 神宮 能楽殿

一九七三年、宝生流の能楽団がインドで公演した時の批評の一つに次のようなのがあった。

この古典芸術は、どこものとも違う独特のスタイルと性格を持っていて、その主な長所は美的な豊かさ、マイムとオペラとダンスと劇とのユニークな融合によって演じられる超自然的なテーマである。ペースは緩慢で、時にはがまんできない程である。マイムも音楽も舞も、（我々批評家も含め）心得のない者にとっては難解である。しかしながら、その豊かな衣装の華麗さと、意味深長な表情の面白さと、役者のスタイルが呼応して、観る者を動かさずにはいない効果がある。——と、いうのである。

又、ベント・オルトラ、という教授は、次のようなことを言った。能楽はわたくしの目に自然がその美しさをわめておおいに、暖室の中でおおいに、幾世にも花のように、幾世にも

わたる文化によって深みを増した生の躍動に輝いて見えた。

遠く古えに花開いた能楽は、いくつかの時代をくりぬけながら、ある約束にしたがって様式美を完成してきた芸術品であるといえる。ここが不似合だからか、これを私は、歴史的洗練と呼ぶのである。このことは、能のすべてにいうことが出来るのではないだろうか。

シト／＼と降りつづける雨の中に、夏美人は薄紅色の中に背いかけりを見せながら哀愁をただよわせる。露ながらの風情は、あじさいにまさるものはない。五年ばかり前であつたらうか、たしか、観世喜之さんの社中の会で、お素人の巴の能にお使いになった唐織の地が、ほのぼのとあじさい色であつたことも忘れられないことの一つである。

木曾上松で松明能
7月26日 木曾宝生会主催

木曾宝生会、上松町観光協会の主催で、七月二十六日、上松・玉林院で第一回松明能（たいまつのう）が催される。

この催しは宝生流衣笠正育、玉井博祐両師らの努力で実現したもの。

第一回木曾松明能
七月二十六日（火）午後五時半始
木曾上松町 玉林院

解説 辻間法人宝生会理事 佐藤 芳郎

| | | | |
|-----|---------|------|--------|
| 能 巴 | 高安 滋郎 | 鏡 鏡一 | 藤田 昭彦 |
| 間 | 後見 倉本 雅 | 地謡 | 馬塚 富四夫 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |
| | 佐藤 秀雄 | 地謡 | 廣島 克孝 |



梅 猶 会
梅 若 盛 義

井 戸 良 造
井 戸 和 男

春 鶯 会 梅 若 善 高
豊中市新千里南町三丁目18-12
電話(06)831-7854

雄 源 会 下 田 雄 三
大阪市東区高麗橋詰町五三

名 古 屋 修 諷 会
梅 若 修 一

竹 韻 会
杉 村 竹 翠

一 語 会 河 村 鉦 二
叶 石 会 河 村 総 一 郎

金 剛 巖

松 謙 会 佐 藤 太 俊
名古屋市中区上三丁目三七一〇二
電話(七七二)四七四六

嘉 福 会 加 藤 總 兵 衛
名古屋市中区西春日町五ノ二五
電話(七四二)四六七五番

福 福 会 里 井 順 次 郎
堺市浜寺公園三ノ二八

笙 月 会 中 川 清
長浜市地福寺町八ノ二九
電話(〇六三)〇六三〇番

田 村 正 諷 会
田 村 正 諷 会
大阪府東区南船場一丁目一五七
電話(七〇五)二四〇〇番

德 島 正 韻 会
德 島 正 韻 会
徳島市吉野本町四 三谷内
電話(徳島)五二四七四四番

水 雲 会 水 藤 元 三

竹 翠 会 若 松 宏 守
〒662 西宮市平松町四一九
電話(〇七九)二二一〇六〇一

松 音 会 泉 泰 孝
東京都杉並区宮前町四一九一四

笛 雪 会 後 藤 契 雲
名古屋市中区栄三三三三〇

猶 惠 会 熊 沢 恵 美 子
名古屋市中区猪高町猪子石高根
15-68 日車マンション四〇四

重 陽 会 菊 池 重 郷
大山市大山字相生五九一六
電話(〇五六八)〇四五〇番

松 和 会 中 村 和 男
東京都中野区上高田二ノ二五ノ二
電話(三八六)二六四一

緑 名 会 田 中 武
〒488 尾張旭市城山町三ツ池六一九八
電話(〇五六二)五〇三三〇四番

幸 福 会 近 藤 幸 江
岡崎市鴨田町十一番地ノ三
電話(〇五六四)〇二五二九

清 風 会 今 村 嘉 勇
岩倉市東新町下境団地52-40

近 藤 乾 三
東京都豊島区東鴨五二二三八

野 口 緑 久
東京都港区西麻布四一八二二八
電話(〇三)四〇九一〇六一〇番

名 古 屋 巽 辰 巳 孝 会

佐 野 正 治
〒921 金沢市泉野町四丁目二十一十四

佐 野 由 於
東京都文京区湯島二二三一〇
宝生英雄方

竹 腰 勝 一

吉 田 俊 彦

倉 本 雅
神戸市東灘区田中町一13-26
本山アーバンライフ 四〇一号

緑 宝 会
名古屋市中区鳴海町池上16-10
加藤 勝 利

和 谷 亀 二 郎
伊勢市中島2-26-12

麦の会

七月十六日(土)午後零時半始
熱田 神宮 能楽殿

「本日の能について」
西田 三好
二井 栄逸

能半 部 西村 欽也 吉田 定男 藤田六郎長衛
間 佐藤 友彦 山口 亮

後見 前田 光子 加藤 豊 田 陽二
松島 恵子 中嶋 直功 二井 栄逸

仕舞 笠之段 上田 照也 大島 久見
遊行 柳 大島 久見 井上礼之助

狂言 二九十八 井上松次郎 井上礼之助
久田 徹二 鬼頭 安二 鬼頭 好信

能安 達原 高安 滋郎 飯富 雅介 後藤 孝一郎 森本 重一
間 大野 弘之 今村 嘉勇 泉 島 修二
後見 前野 郁子 地謡 須崎 一市 山田 義高

付祝言 主催 麦の会
喜多流 長田 田 徹二
親世流 久田 徹二

名古屋観世九皇会 定例能(第三回)

七月二十三日(土)午後二時始
熱田 神宮 能楽殿

高木美智子 能 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 季信
正 狂言 佐藤 友彦 井上礼之助

太刀 奪 佐藤 友彦 井上礼之助
賀 茂 佐々木勝輝
敦 盛キリ 小林 喜久

水無月 袂 親世 喜久
龍 虎 高橋 徹一

三笑

七月三十一日(日)十二時半始
熱田 神宮 能楽殿

観世会夏の素謡会
事務所 下笠 名古屋南区元垣町一丁目一七
(加藤保彦方) 電話(〇五二) 三三六九番

清 経 佐藤 太俊 久田 秀雄
松 風 野村 四郎 藤井 久雄
三井 寺 河合雄一郎 武田 邦弘

正 尊 子方 高橋 孝 立衆 塚本 秀雄 如和 後藤 孝一郎 藤井 久雄

附祝言 主催 名古屋観世会
前席券 二,〇〇〇円(全席) 当日券 二,五〇〇円

7月・8月放送予定

●NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)
〔7月〕
17日(日) 金 春 流「巴」金春欣三ほか
24日(日) 親 世 流「七 騎 落」片山博太郎ほか
31日(日) 親 世 流「天 鼓」山本真義ほか
〔8月〕
7日(日) 親 世 流「玄 象」坂井音次郎ほか
14日(日) 「高校野球放送」中止の場合狂言二題
21日(日) 宝 生 流「氷 室」金井 章ほか
28日(日) 親 世 流「夕 顔」上田照也ほか
●NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)
〔7月〕
17日(日) 喜 多 流「杜 若」喜多長世ほか
24日(日) 親 世 流「天 鼓」山本真義ほか
31日(日) 親 世 流「玄 象」坂井音次郎ほか
〔8月〕
7日(日) 宝 生 流「熊 坂」野村蘭作ほか
14日(日) 幸 祥 光さんをしのぶ・一調、勸進帳ほか
21日(日) 親 世 流「班 女」関根祥六ほか
28日(日) 親 世 流「七 騎 落」片山博太郎ほか

【おこわり】連載の「観世華雲雲談」は紙面の都合により次号に掲載します。

一謡会 河村 鉦二
叶石会 河村 総一郎

金 剛 永 謹
金 剛 永 謹

金剛流 豊星会
豊嶋 弥左衛門
豊嶋 三千春

中部金剛会
前田 茂穂
米本 平一

喜多流謡曲研精会
貫周 福岡 周斎

廣田 後援会
廣田 陸一
幸 稔

菊扇会(名古屋・京都)
廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

重陽会 菊池 重郷
大山市大山字相生五九一六
電話(〇五六八) 〇四五〇二番

林 鉄郎
松和会 中村 和男
電話(三八六) 二六四一

八声会
金春流 中村 富次
伊勢市宮町一丁目一七
電話(三九〇) 三三三三

中部金春会
名古屋市中区老松町一ノ二八
電話(二四一) 三二四二番

喜多流謡曲研精会
川崎市多摩区生田一八九〇
電話(〇四七三) 一九八二

廣田 陸一
幸 稔

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

廣田 泰三
廣田 泰三

緑宝会
名古屋市中島2-26-12
伊勢市中島2-26-12

岡村 保道
三重県度会郡玉城町田丸三三五

喜多流山本 才
名古屋市中区山崎町二丁目二二
電話(七八二) 二一九二番

高安 勝久郎
名古屋市中区瑞穂区玉水町二ノ六四
電話(八三三) 〇三六四番

西村 欽也
名古屋市中区瑞穂区二所町二ノ四五
電話(八三三) 五九一九番

宝生 弥一
東京都練馬区小竹町一ノ五〇
電話(〇三九五五) 四七九五番

豊嶋 十郎
電話(〇四七三) 一九八二

高安流白水会
和泉 太郎

和泉 太郎
東京都品川区三葉二一八一二
電話(七八六) 四〇九二番

谷田 宗二朗
東京都北区衣笠街道町31-7
電話(四五三) 六六五(四五三) 六六三

杉市 太郎
杉市 太郎

寺井 政数
東京都世田谷区世田谷四一三一二五
電話(四二〇) 六六七六番

第十二回 名古屋新能

初日 八月六日(土) 午後五時半始

会場 熱田神宮神楽殿前

山 村クセ 眼部 紗枝 地謡 前野 高木 美智子 吉田 高木 美智子 熊澤 美智子 熊澤 美智子

西王母 長田 暎 河村 良久 地謡 鬼頭 喜太郎 加藤 三男 加藤 三男 加藤 三男

小袖曾我 豊島三千春 佐藤 秀雄 後藤 孝一郎 鬼頭 季信 後藤 孝一郎 鬼頭 季信

火入式 熱田神宮権司 長谷 晴男 御挨拶 名古屋市長 本山 政雄

口真似 野村又三郎 井上 松次郎 狂言(和泉流) 佐藤 友彦

船弁慶 飯富 雅介 西村 敦也 高安 勝久 井上 礼之助 吉田 定男 福井 啓次郎 藤田 昭彦

附祝言 二日目 八月七日(日) 午後五時半始

能の友社 種区吹上本町2-20 番号 464 731) 7 9 8 4 名古屋 3 6 3 9 3

12回 名古屋新能 8月6日(土) 21時開演

竜 田 佐藤 太後 鬼頭 英二 山口 亮 藤田 昭彦 水藤 元三 加藤 修二 加藤 修二

山 姥キリ 前田 茂徳 地謡 林 鉄郎 河村 正三 河村 正三

蟹山伏 井上松次郎 大野 弘之 井上 礼之助

張 良 高安 滋郎 河村 純一郎 助川 竜夫 河村 純一郎 助川 竜夫

附祝言 主催 能楽協会名古屋支部 後援 名古屋市中 部能楽師会

会と催し 岐阜幸友会追善会 7月16日岐阜市民会館

栄能楽堂 毎日婦人文化センター講義 室(殿島修二)は、七月十四日

暑中見舞い広告について 暑中見舞いご芳名廣告のお申し込みを頂いておりますが、紙面の都合にて七月、八月号にわたって掲載させていただきますので何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。



龍吟会 藤田 六郎兵衛 藤田 昭彦

呉竹会 寛 三男

鬼頭 季信

幸 圓次郎 幸 義太郎

小の会 幸 宣佳

幸友会 福井 啓次郎 福井 良久 福井 良治

演能案内 名古屋観世会定式能(第三回) 六月十二日(日) 十二時半始

桂 会 岐阜市松屋町 後藤方

住 駒 幸英介 住 駒 明弘

飯島 佐之六 寛 鉦一

吉田 定男 長生会 鬼頭 八喜太郎 好喜太郎

前川 光隆 前川 光長

助川 竜夫 山口 義郎 山口 亮

野村 萬蔵

演能写真 ウシマド写真工房

大蔵 狂言会 大蔵 彌太郎 大蔵 基義

善竹 忠一郎

名古屋和泉会 狂言共同社

狂言やるまい会 野村又三郎

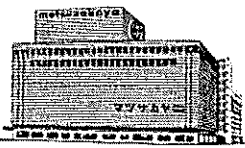
朝日文化センター 雛子教室 笛 寛三男 小鼓 後藤孝一郎

演能写真 ウシマド写真工房

熱田神宮能楽殿

名古屋宝生会定式能 六月十九日(日) 午後零時半始 熱田神宮能楽殿

楽しいお買い物はマツザカヤ

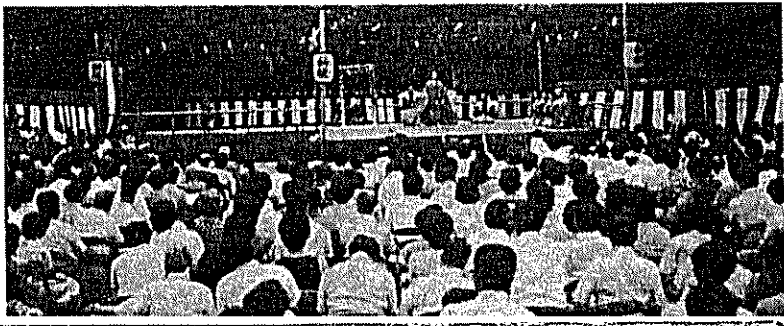


能 楽 の 友

題字は熱田神宮 穂田宮司筆

発行 能 楽 の 友 社
 名古屋千種区吹上本町2-20
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7 9 8 4
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 500円
 郵送の場合 1年 800円
 一 部 50円

天候に恵まれ、折柄の酷暑にうた
 る市民にとっては絶好の納涼能と
 でもいった形で、二夜とも大盛況
 のうちに終了したことはおめでた
 い。この成功に自奮をもって主催
 者側では来年以降も二日制をつづ
 けてほしいものだ。



第十二回名古屋新能は、八月六、
 七日の両日にわたり、熱田神宮神
 楽殿前特設舞台で開催された。
 初日は、午後五時半、観世流仕
 舞「田村」ではじまり、金剛流能
 「小仙曾我」につづいて熱田神宮
 長谷晴男権宮司から能楽協会名古屋
 支部高安支部長、内藤副支部長
 に聖火が渡され、おごそかに火入

第12回名古屋新能

両日とも好天に恵まれ盛会

世流能「葵上」(シテ久田徹二、
 ツレ高橋暎二) 狂言「附子」(佐
 藤友彦、大野弘之、井上礼之助)
 宝生流舞獅子「融」金剛流舞獅子
 「岩船」金春流仕舞「松風」など
 五流の出演。午後五時半始。
 (番組⑤面掲載)

9月22日 市民会館で

第1回大牙能

とを、なるほどと思知らされた。
 というのは皮肉ではなく、実感を
 正直に告白しただけである。ウチ
 7片手に気配で庶民的な野外能、
 風雅な夏の風物詩、その上にこう
 した思わぬ勉強までさせていただ
 いて、まことに楽しく有難い新能

輪を重ねられたことをお祝いする
 古典鑑賞は現代の人々にとって大
 切なことであり、一緒にこの新能
 を鑑賞しましょう」とあいさつ。
 狂言「口真似」につづいて優麗、
 凄絶の変化をみせる「船弁慶」で
 第一日を終了。

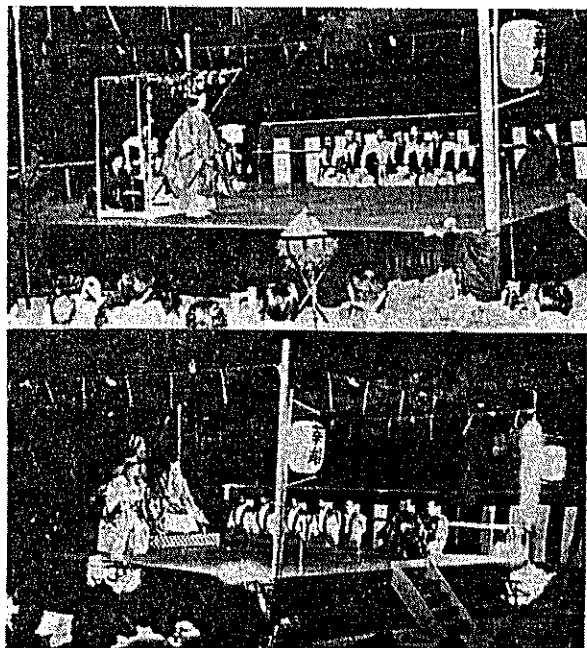
型七日は、宝生流能「半部」に
 続き火入式が行なわれ、狂言「蟹
 山伏」ののち勇壮な気迫と動感の
 ある能「張良」が演じられ、両日
 とも好天に恵まれ、初の二日間演
 能は二千人を超える観客を堪能さ
 せて終演した。

〔写真〕④会場をうめる観客⑤
 能「半部」⑥能「張良」

NHKラジオ第一放
 (9月)
 11日(日) 宝生流世
 18日(日) 観世流世
 25日(日) 観世流世
 (10月)
 2日(日) 喜多美多
 9日(日) 観世流世
 16日(日) 観世流世
 23日(日) 宝生流世
 30日(日) 宝生流世

NHK教育テレビ
 9月15日(祝) 午前
 観世流能「頼政」
 9月23日(祝) 午前
 宝生流能「紅葉狩」
 (放送予定につき
 ありますのでご)

外科・せ
東山
 TE
 東山公園
 電話(〇三)3701-4609



暑中御伺い申し上げます
 法人 名古屋能楽会
 熱田神宮能楽殿
 暑中御伺い申し上げます
 熱田神宮 宮司 篠田康雄
 権宮司 長谷晴男

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------------------------|-------------------------|-------------------------------------|---------------------|-------------|---|---|---|---------|--------------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|---|--------------------------|---------------------|---|--|--|------------------|
| 武田 詠楽会 武田 小 兵 衛 武田 欣 司 武田 邦 弘 東京都練馬区中村南一ノ二九ノ二 | 幽 花 会 片 山 慶 次 郎 〒603 京都市北区小山下花ノ木町二一 電話 四九二一五三〇三番 | 名 古 屋 淡 交 会 橋 岡 久 共 | 中日文化センター特別教室 観 世 元 昭 | 梅 若 万 三 郎 梅 若 万 紀 夫 梅 若 万 佐 晴 | 財団法人 研 能 会 橋 香 会 | 名 古 屋 観 世 会 | 柴 田 初 太 郎 名古屋千種区本山町一三二 電話(七五二)六六七六番 | 大 垣 浦 声 会 稲古場 大垣市竹島町善念寺 住所 京都市左京区下鴨芝本町五八 浦 田 保 利 | 誠 交 会 興 善 助 東京都世田谷区三軒茶屋二一〇三二 電話(〇三)四三二二六三七番 | 宝 生 英 雄 | 金剛流華月会 今 井 幾 三 郎 今 井 清 隆 | 金 春 欣 三 東京都杉並区成田東4-35-20 | 喜 多 実 東京都練馬区中村南一ノ二九ノ二 | 櫻 月 会 大 倉 長 十 郎 源 正 之 助 吹田市江の木町一六ノ一七〇二 電話(〇六)三八一五六六番 | 谷 口 喜 代 三 京都市右京区桂町五四一二六 谷 口 正 喜 京都市上京区中立売室町西入 室町スカイハイツ六一〇 | 安 福 春 雄 東京都杉並区天沼一七七一〇 | 狂言 和 泉 会 和 泉 保 之 | 茂 山 千 五 郎 茂 山 千 作 京都市上京区中筋通り石薬師上ル | 久 保 田 千 三 郎 丹波市川町五ノ一五 電話(〇七九七)二二三二八四 | 高安同志会 飯 富 良 人 熊本市黒髪二丁目六ノ二九 山 崎 俊 輔 大牟田市馬場町五七 | 亀 井 俊 一 保 忠 雄 |
|---|---|------------------------|-------------------------|-------------------------------------|---------------------|-------------|---|---|---|---------|--------------------------------|-----------------------------|--------------------------|--|---|--------------------------|---------------------|---|--|--|------------------|

能紀行

京がのこ

絵と文 二井栄逸

平安・鎌倉時代の貴族達の住宅はほとんどが寝殿造りであったようです。中央に南面して寝殿を建て、その左右と背後には対置を設け、寝殿と対置は渡殿（わたどの）でつなぎ、寝殿の南、中庭をへだてて中島をきついた池をつくり、その池に臨んで釣殿（つりどの）を設けたという豪華なものです。

この釣殿は、後世、能舞臺の様式を展開させました。橋掛（はしがり）もわたどのの様式をとり、屋根をつくりまわす。橋掛は、一寸見ると舞臺に向って後座（あとざ）と、舞臺と鏡板の間の幅三間、奥行一間半の部分、床の板が舞臺と直角なので横板ともいいます。から真横に出ているように見えますが、実際は二十五度位奥の方へ振っています。橋掛の大きさは、芝居の花道と違って幅が七尺五寸、長さが九間、その間に二本の柱を立てるのが定法で、舞臺の延長として重要な役目を果たすスペースなのです。

橋掛の前には三本の松を植え込みますが、現在では建物の関係上大鉢に植えて置く場合もあります。劇場等では男松の若松を板でとめる場合もあります。この三本の松を、舞臺に近い方から、一の松、二の松、三の松と呼んでおられます。この松は、舞臺の装飾をかね、演技の際の位置をきめる為の目標となる大切なものです。

又、一の松のことを要の松、二の松のことを袖擦の松、三の松を掛の松ともいっています。なお、見所（見物席のこと）と反対側の板附の側、すなわち向う側にも二本の若松を植えました。現在ではほとんど省略されています。

橋掛の長さも、建物の関係で、現在では縮めることも延長することも許されていますが、横板は演技上、シテが両手を掲げて支障のない五尺以上でなければならぬ

ことになっていきます。橋掛から舞臺に入るところにある柱を、シテ柱といいますが、これも演者の舞と深い関係があります。曲の冒頭に記念の扇を配してからずつと扇を中心に美しい文章を綴り、最後を扇で結んだ能が班女でありますが、この能にもシテ柱のそばに立って愛き人をしのぶ型どころがあります。

頼めて来ぬ夜は積れども
開手に立ち尽して
そなたの空よと眺むれば
班女は、シテ柱に立ちつくして夕暮の雲に寝る人の面影をしのびますが、数多い狂女能の中で最も濃艶な能は、四番目能でありながら、三番目に多く組まれるのは、序の舞物なるが故ばかりではなく、遊女の身でありながら、契りをかわした男の実意を忘れず、男も又、昔の女を尋ねる旅

情のあわれさに、むしろ清純なものを感ぜさせるためでもあります。×××××

会と催し

喜多長世師が来演

長田驍後援会能

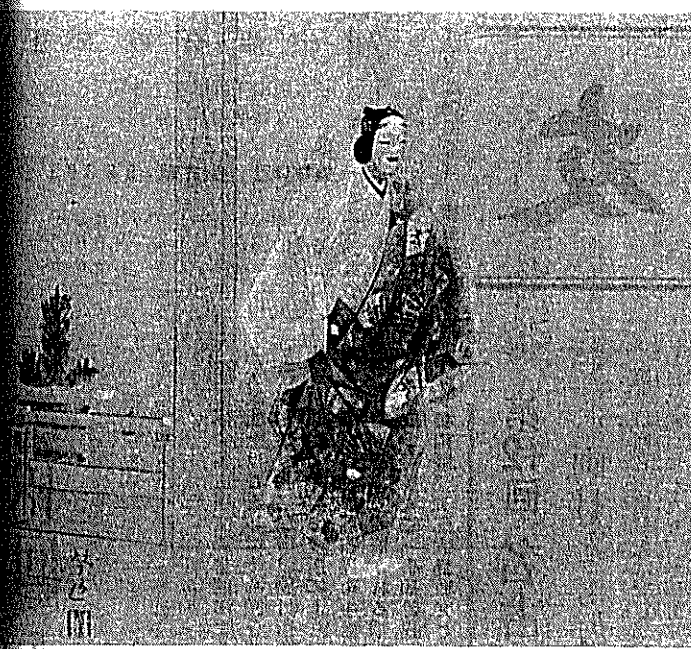
8月28日熱田能楽殿

喜多流・長田驍後援会能がきたる八月二十八日（日）熱田神宮能楽殿で、能二番立で催される。

長田驍師は喜多流職分として中部能楽師界の能能に意欲的な演能で期待されているが、今回の後援会能は、喜多流若宗家・長世師はじめ、長老大島久見氏の後嗣政允また喜多実門下として、長田驍師の兄弟弟子友枝昭世の諸師が来演する「頼政」（シテ喜多長世）「葵上」（シテ長田驍）「舞臺子」（雲林院）（大島政允）狂言「入間川」（井上松次郎、大野弘之、井上礼之助）を上演。

喜多実門下の俊英をそらえた演能はきわめて刮目すべきものがある。

入場無料、米観劇、午後一時始



訓え

この「望月」の型は親世にも「古式」といってあったのです。先代の家元と私が相談して今はしないことになっています。

子供は一寸えらかったものです。稽古は小前からで、何しろ文字がよめないう年ですから口うつしで半段でも、一枚でも教わるのです。あくる日は、又それをやる。その内に文字がよめるようになってきました。

仕舞は七つ位から「熊野」の「立ちいで

観世流謡曲本
ちくち正文館
ちくち駅前
電話1137

演能案内

長田驍後援会能

八月二十八日（日）午後一時始

熱田神宮能楽殿

能 組

独吟 嵐山 二井栄逸
喜多 長世
能 政 高安 滋郎 吉田定男 藤田昭彦
間 佐藤 秀雄 福井啓次郎

狂言 入間川 井上松次郎 大野弘之助
舞臺子 雲林院 大島政允 吉田定男 助川竜夫
高林白牛口二 山口亮 藤田昭彦
長田驍 飯富雅介 山口亮 藤田昭彦
能 上 西村欽也 河村総一郎 助川竜夫
間 飯富雅介 山口亮 藤田昭彦

附祝言 主催 長田驍 後援会
後援 中日新聞

〔米場歓迎〕
同会は毎年、岡崎で大会を催してきたが、今回はじめて熱田神宮能楽殿で催されるもので、能「清経」（シテ職員勝子さん、ツレ南方幹子さん）能「熊野」（シテ金井久枝さん、ツレ村井邦子さん）狂言「枕か人か」（井上松次郎、井上礼之助）ほか楽謡「恋重荷」はじめ舞臺子、連吟、仕舞など三十余番。

午前九時半始、米観劇。紙前々母ならびに前母に有料とあるは誤りにつきお詫びして訂正します。

※番組詳細は九月号掲載

観世会定式能（四回）

九月十一日（日）十二時半始

熱田神宮能楽殿

能 組

善知鳥 加藤保彦 河村延二
梅若 盛彦 高橋 契一
能 楽 久田 敬二 地謡 佐藤 秀雄
間 佐藤 友彦 後藤 孝一郎 寛 三男

能 田 高安 滋郎 吉田定男 鬼頭 八郎
間 佐藤 友彦 後藤 孝一郎 寛 三男

後見 久田 敬二 地謡 中村 和男 大田 邦久
吉井 順一 地謡 加藤 兵衛 梅田 邦久

仕舞 休演十分

九月十八日（日）午後一時始
熱田神宮能楽殿

狂言 組

林 東助

子盗人 井上松次郎 佐藤 秀雄
能 楽 井上礼之助

能 象 西村 欽也 河村総一郎 鬼頭 昭彦
間 大野 弘之 久田 敬二 藤田 昭彦

後見 殿島 修二 地謡 祖父江 修一 杉村 竹翠
山本 真義 今村 嘉男 梅若 盛彦
佐藤 太俊 梅田 邦久 文蔵

附祝言 主催 名古屋観世会

〔有料〕

能 井筒 内藤 泰二

狂言 昆布 亮 佐藤 友彦 大野 弘之

能 土蜘蛛 フレ 北川 道子
後シテ 嵐岡 勇男
前シテ 鬼頭 嘉男

能 山姥 杖ノ型

附祝言 主催 雲内藤 泰二

〔米場歓迎〕

名古屋観世九阜会 定例能

九月十七日（土）午後二時始

熱田神宮能楽殿

能 半部 野垣 慶子 高安 滋郎 寛 誠一 寛 三男
間 佐藤 友彦 後藤 孝一郎

狂言 冷し 井上松次郎 井上礼之助

能 安達原 西村 欽也 助川 竜夫
附祝言 主催 名古屋観世九阜会
事務所 名古屋市中区元町一丁目一七番

九月二十二日（木）午後五時半始

名古屋・金山・市民会館中ホール

能 杜 若キリ 前野 郁子 野垣 慶子 生駒 美代子 高木 美智子 梅田 邦久

能楽先人の訓え

「観世華雲談」より

梅若の父にうちの父、清之、この清之といふのは父の弟で、梅若の養子になってしまったが、清之は観世清之といつていました。それに清之さん(二十三世宗家)万三郎兄と六郎兄(実)と多勢おりました、この人達の子方は皆私に廻つてくるので、なかなか忙しかったものです。

稽古は七才から六郎兄(実)にしてもらってました。この頃は脇方の鏡木津屋さんがやっていたら鳥越神社の寺小屋に通つてました。ここは机に二人ずつで、男女の共学でしたが、稽古があるので遅刻することを大目に見てもらってました。何

型は観世にも「古式」といつてあったのです。先代の家元と私が相談して今はしないことにしています。まあ芝居がかってくるのを避けた訳であります。

初シテで「台浦」を勤めたのが八才の時でしたが、これに使う子供の白頭がどこにもなく仕方なしに赤頭で間に合せました。稽古が立直ったといつても、まだ充分とはいえないなかつた時代であります。

それでも月並は五番能で、シテは人様に教えていました。万三郎兄は大分年が上で、この方はもう自分の世界と違ひよな気がして、一にも六郎兄、二にも六郎兄で、十四、五になるまでこんな調子でやってくれましたが、その内だんだんお素人の稽古が忙しくなつたので、見てくれるのがすくなくなつてしまいましたから、その代りに父や時には梅若の父も教えてくれました。

梅若の姉(清之と結婚した先代実の長女鶴子)が「今おちいさんが遊んでいらつしやるから教えてもらいなさい」といつてくれたのでたのみました。いつてたか「花月」の「楊柳観音」の甲グリがどうしても出来な

「いけない、いけない」といふばかりで、どういつたらよいのかどが悪いのか、少しもいつてくれないのです。

そんなにしてる内に待つているお素人もふえてくるし、しまいは何が何やらわからなくなつてしまひ、随分意地悪だつたらみました。これは梅若の父ばかりでなくこの頃は誰でもこうした稽古でしたが、後から思えばこれがよい勉強になりました。

一々いつて教えてくれると、早く出来るかわりに又早く忘れませんが、こんなにして覚えたものは絶対に忘れなくて、結局力がつく事になるのです。こんな事は私だけではない、その頃は皆そうでした。

六郎兄が二十七才位、私が二十才位でしたか「松風」でシテが兄、私がツレでしたが兄の謡「瀬の汐波を憂き身そと人にや」がどうしても出来ないのです。おちいさんが謡つてくれるのですが、どが違ふのかわからぬのです。「もう一遍」「もう一遍」です。唯子の人もおるし、弟子共もいますのでどうして出来ないか。さすがの兄もとうとう泣き出してしまいました。それにつれて私も悲しくなつて自然に涙があふれてくるのです。

「わしの側におつても、どが悪いのか判らんのか、お前は「うき身のウキの間にウイキミとなるからいけなさい。よく聞いておけ」こんな調子で、仮名づかい一つにしてもやかましかったのですが、今思つてもありがたいことでした。

これは梅若の名物になつてました。六の稽古(本紙五十二年一月号掲載)の時のことなのです。(この項おわり)

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 〔8月〕
- 28日(日) 長田 駿 後援会能 (来場歓迎)
- 〔9月〕
- 11日(日) 観世会定式能 (有料)
 - 15日(祭) 観世会 (来場歓迎)
 - 17日(土) 観世九皇会定期能 (有料)
 - 18日(日) 和泉流狂言大会 (来場歓迎)
- ※ 9月22日(木) 大衆能(名古屋・市民会館中ホール)
- 23日(祭) 呉竹会・金森準三師道誓会 (来場歓迎)
 - 25日(日) 幸 福 会 大 会 (来場歓迎)
- 〔10月〕
- 9日(日) 青陽会定期能 (有料)
 - 10日(祭) 幽 花 会 (来場歓迎)
 - 16日(日) 狂言やるまい会 (有料)
 - 22日(土) 修 風 会 大 会 (来場歓迎)
 - 23日(日) 淡 交 会 秋 の 会 (来場歓迎)
 - 29日(土) 一 福 会 ・ 叶 石 会 大 会 (来場歓迎)
 - 30日(日) 中 部 金 剛 会 (有料)

(演能変更の節はご了解下さい。)

- 〔住所変更〕
- 喜多流・福岡周斎氏
新住所 川崎市多摩区生田一八
 - 九〇
(旧地番 川崎市多摩区生田二〇三七)
- 〔住居表示変更〕
- 観世流・熊沢恵美子氏
新住居表示 名古屋市中東区平和ケ丘3-76、日車マンション四〇四
(旧地番 名古屋市中東区猪高町猪子石高根15-68)
- 〔おことわり〕 暑中御伺いご芳名広告紙面の都合にて、七、八月号に分載しました。ご迷惑をおかけ致しましたが御理解賜りますようお願い申し上げます。

院(大島政允)狂言「入間川」(井上松次郎、大野弘之、井上礼之助)を上演。

喜多流門下の俊英をそろえた演能はきわみて御目すべきものがある。

観世流謡曲本
ちくち正文館
ちくち駅前

| | | | | | | | | | |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 花折 | 折 | 細中 良雄 | 天野友一郎 | 山本 恵吉 | 佐野元之助 | 中山 伸一 | 松井 平 | 権田 重祐 | 酒井 宏 |
| 杭か人か | 堀江 四郎 | 今枝 靖雄 | 中北宇多子 | 鷺見 政行 | 佐藤 融 | 松井 直子 | 今枝 靖雄 | 今枝 靖雄 | 今枝 靖雄 |
| 竹生嶋参 | 佐藤 融 | 今枝 靖雄 | 中北宇多子 | 鷺見 政行 | 佐藤 融 | 松井 直子 | 今枝 靖雄 | 今枝 靖雄 | 今枝 靖雄 |
| 語朝比奈 | 松井 直子 | 今枝 靖雄 | 中北宇多子 | 鷺見 政行 | 佐藤 融 | 松井 直子 | 今枝 靖雄 | 今枝 靖雄 | 今枝 靖雄 |
| 萩大名 | 徳田 文三 | 野村又三郎 | 井上礼之助 | 中山 伸一 | 徳田 文三 | 野村又三郎 | 井上礼之助 | 中山 伸一 | 徳田 文三 |
| 蝸牛 | 原田 三男 | 大原紋三郎 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 原田 三男 | 大原紋三郎 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 原田 三男 |
| 舟ふな | 荒木 和幸 | 光岡 修 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 荒木 和幸 | 光岡 修 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 荒木 和幸 |
| 小舞 鶴 | 赤塚加代子 | 井上 祐一 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 赤塚加代子 | 井上 祐一 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 赤塚加代子 |
| 口真似 | 山本浅太郎 | 野村又三郎 | 井上礼之助 | 中山 伸一 | 山本浅太郎 | 野村又三郎 | 井上礼之助 | 中山 伸一 | 山本浅太郎 |
| 二九十八 | 水谷 良夫 | 野村又三郎 | 井上礼之助 | 中山 伸一 | 水谷 良夫 | 野村又三郎 | 井上礼之助 | 中山 伸一 | 水谷 良夫 |
| しびり | 長谷川通雄 | 井上 祐一 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 長谷川通雄 | 井上 祐一 | 権田 重祐 | 野村又三郎 | 長谷川通雄 |
| 狂言組 | 岡崎久太郎 | 林 東助 | 津田庄三郎 | 野村又三郎 | 岡崎久太郎 | 林 東助 | 津田庄三郎 | 野村又三郎 | 岡崎久太郎 |
| 末広 | 岡崎久太郎 | 林 東助 | 津田庄三郎 | 野村又三郎 | 岡崎久太郎 | 林 東助 | 津田庄三郎 | 野村又三郎 | 岡崎久太郎 |

| | | | | | | | | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 附祝言 | 高橋 徹一 | 高安 滋郎 | 寛 敏一 | 鬼頭 好信 | 高橋 徹一 | 高安 滋郎 | 寛 敏一 | 鬼頭 好信 | 高橋 徹一 |
| 附祝言 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 |
| 附祝言 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 |
| 附祝言 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 |
| 附祝言 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 | 野村又三郎 | 森本 重一 | 野村又三郎 | 梅田 邦久 |

前売一、〇〇〇円、当日一、二〇〇円(全館自由席)

朝日新聞社・中部能楽師会

能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」

武智鉄二さんの新演劇、能形式の「夕鶴」を私も拝見しました。

何かと批判する人もあるようですが、あれだけよく出来ておれば結構だと思えます。シテのつうと狂言方のからむのも、能にだって「龍太鼓」や「因幡」などにありますし、又、大能とは別な、ただ、能の形式をとり入れた新しい演劇なのだとお聞きすることわかっておられるのに、とかやかくいうのもおかしい話です。

うちの若夫、栄夫、静夫が武智さんのものに出演することについて、私の考えを聞きながら人も多いうやうです。私も子供の、新しいものやらないといういらだちの気持などよくわかりますから、「いけない」とは申しませぬ。能一本でやっても出来ない私からすると、外の事に出たりするのは賛成はしな

「彼の鼓」はこれ武智さんの演出です。がよくわかりました。洋服を着ていても能の面がピッタリ合っていたのを見て、私は能楽師はやはり能を捨ててはいないのだと感じました。又、これも武智さんですが「智恵子抄」は幸禰光さん等の作曲で、地の鎖之丞がよくあの長いものを覚えたことなども、結局能に自信を持っているから出来たことだと思っております。

しかしこのように、他の演劇で能楽師が一応成功していても、私は先程申しましたように決して賛成をしてはいるわけではありませぬ。又、反対しないのは、何物かを勉強するという心と能の力をよそのものに持つて行つていけば全然の他流試合をすることです。会社へ勤めながら能楽師として立つている人も多し時代に、同じ世の界にとびこむことに反対しないという意味です。ただ、これらが能をやります上にくらかでもたしなれば幸いだと思えますが、要は本人達の心が一つでしょう。

私達の知っている昔の稽古は、ただ習って直された所を一生懸命やるだけで、分りにくい所など「どんな気持ちですか」など質問しようものなら「生意気だ、教わった通りにだまっていればよい」とと理屈っぽいことは全く考えさせませんでした。

納得のいかない所や、わからない所があるから、今に芝居の合間に

能の進出

井上八千代さんの京舞「葉上」を見ました。が、博太郎さんと静夫で装束つけを手伝ったそうです。歌舞伎や他の舞踊でもこうしたことはだんだん多くなって来ています。これが能の品が落ちる、とかいいますが、あります。これは能のやり方がよいから頼みにくるので、そんな心配はありません。映画にはもう扮装して出たりしている位ですから、今に芝居の合間に「中巻に能を一つやってみよう」と等ということもあるかも知れません。現在では協会にはからねばなりません。能も只とじてもっていることは能の発展のためにはなりません。適当の演出者を得たなら進出も差支えないと思えます。

第二十回 狂言 やるまい会公演

十月十六日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽 殿

狂言組

佐渡の百姓 越後の百姓
佐渡の百姓 木村 正雄
茂山千五郎 奏者 茂山 正義

棒 縛 太郎冠者 野村 万作
主 井上礼之助 次郎冠者 野村又三郎

休憩二十分

川 上

見物左衛門

見物左衛門 野村万之丞

六 地 蔵

和泉 和之 野村又三郎

主 井上礼之助 次郎冠者 野村又三郎

全自由席 三千元
階上学生席 千円

主 催 や る ま い 会
後 援 中 日 新 聞
東 海 テ レ ビ 放 送

〔御来観歓迎〕

十月十日(祝)午前十時始
熱田 神宮 能楽 殿

舞臺子 高 砂 近藤 幸江 河村啓次郎 池田 昭彦
松 風 泉 喜夫 藤井啓次郎 藤田 昭彦
主 催 幸 近 藤 幸 江 会
後 援 中 日 新 聞

花 月 富田まさ子 小林 綾尾
通 町 野村 満子 中 桐 満
紅 葉 狩 加藤よし子 村川喜久子 村木 玲子

鐘之段 片山慶次郎 福田 晃

雲雀山 村川喜久子 河村啓次郎 光田 洋一
山 姥 波方 晃 河村啓次郎 光田 洋一
杜 若 藤田真知子 西川未佐子 光田 洋一

隅田川 波方 晃 津田 頭雄 大江 正照

阿 部 島 柳 阿ト 青藤 昌平 紀 俊雨

小袖曾我

河村啓次郎 光田 洋一
福井啓次郎 光田 洋一
茂山あきら 小泉いく子 荒川 ミチ 浅野まさ子 和田 千代 石原 雅子 塚本かず子 上石礼一郎 村木 寛茂

藤 太 鼓 牧原みどり 塚本かず子 上石礼一郎 村木 寛茂
藤 戸 松枝寅太郎 村木 寛茂

融 村木 玲子 河村啓次郎 光田 洋一
猿 々 津田 頭雄 福井啓次郎 光田 洋一
舎 利 片山 清司 河村啓次郎 光田 洋一
高 砂 片山博太郎 河村啓次郎 光田 洋一

〔御来場歓迎〕

片山慶次郎 会
名古屋 幽 花 片山慶次郎

附 祝 言

十月十五日(土)午前十時半始
熱田 神宮 能楽 殿

吉野天人 福谷 信子 星野 信子
田 村 鷹野きよ子 池内光之助
東 北 栗本まら子 井戸 和男

野 宮 森 さだ 高梨 了齋
井 筒 佐藤 和子 梅若 善高
弱 法 師 杉江 生子 井戸 良造

松 風 龍沢恵美子 岡田 朗詠
隅 田 川 子 鈴木 幸子 梅若 修一 岡田 晃一

船 辨 慶 熊谷 り江 河村啓次郎 藤田 昭彦
芦 刈 山本 博子 河村啓次郎 藤田 昭彦
富士太鼓 金野 克子 河村啓次郎 藤田 昭彦
葛 城 日下すみ子 河村啓次郎 藤田 昭彦
融 高梨千代子 河村啓次郎 藤田 昭彦

菊 慈 童 龍沢恵美子 後藤孝一郎 助川 三男
主 催 猶 熊沢 恵美子 助川 三男
後 援 中 日 新 聞

千 鶴 沢田美代子 小川 美愛
網 之 段 杉浦 一枝 鈴木久美子 鈴木 ぶく
世 之 段 鈴木 ぶく

笠 之 段 鈴木 ぶく

舞 臺 子 河村啓次郎 藤田 昭彦
船 辨 慶 熊谷 り江 河村啓次郎 藤田 昭彦
芦 刈 山本 博子 河村啓次郎 藤田 昭彦
富士太鼓 金野 克子 河村啓次郎 藤田 昭彦
葛 城 日下すみ子 河村啓次郎 藤田 昭彦
融 高梨千代子 河村啓次郎 藤田 昭彦

菊 慈 童 龍沢恵美子 後藤孝一郎 助川 三男
主 催 猶 熊沢 恵美子 助川 三男
後 援 中 日 新 聞

千 鶴 沢田美代子 小川 美愛
網 之 段 杉浦 一枝 鈴木久美子 鈴木 ぶく
世 之 段 鈴木 ぶく

笠 之 段 鈴木 ぶく

舞 臺 子 河村啓次郎 藤田 昭彦
船 辨 慶 熊谷 り江 河村啓次郎 藤田 昭彦
芦 刈 山本 博子 河村啓次郎 藤田 昭彦
富士太鼓 金野 克子 河村啓次郎 藤田 昭彦
葛 城 日下すみ子 河村啓次郎 藤田 昭彦
融 高梨千代子 河村啓次郎 藤田 昭彦

〔御来聴歓迎〕

片山慶次郎 会
名古屋 幽 花 片山慶次郎

木曾松明能を観て T生



去る七月二十六日、木曾上松町至林院で「第一回木曾松明能」が木曾宝生会・上松町観光協会主催で開催された。

境内には高さ二尺位(約六〇センチ)間口四間(約七メートル二七センチ)奥行五間(約九メートル)の舞台と、橋掛り三間(約五メートル四七センチ)の特設舞台が設けられ、背面と地裏は高さ二メートル位の茶色器が張り廻らされていた。見所は前面には蓮敷の座席、その後方は椅子席が用意され約五百人位が見物出来るよう用意されていた。

午後二時頃には一時山岳地方特有の夕立がさつと降って三十分程であがったが、五時十分頃から大粒な夕立がパラ／＼と降り始めたため急遽本堂に準備され、五時三十分順序の一部を変更し辻舞から始められた。

続いて上松町長の挨拶が行われその挨拶の終る頃から遠くホラ貝の音と、大太鼓の響きが聞こえて来た。いよいよ火入れ式の始まりらしい。

その内にその音がだんだんと近づいて来た。前座の音は、大太鼓の音と、小規模ながらまとまったふんばりの音だけで、熱田神宮の方がはるかに上と想ったことだ。

たゞひとつ歯がゆいことがある。今年に限ったことではないが、見所の大部分に演者の足がよく見えぬのだ。「能の生命と美は足にある。」と某大家のいっていたことを、なるほどと思ひ知らされた。この能の足は皮肉ではなく、実感を正直に告白しただけである。ウチワ片手に気軽で庶民的な野外能、風雅な夏の風物詩、その上にこうした思ひの強さを加えてきたのだ。

名古屋薪能を見て

今年の名古屋薪能は去る八月六、七両日、恒例の熱田神宮神楽殿前の特設舞台で行われた。既に十二回を数え、すっかり市民におなじみとなった。夏の風物詩だけに、多数ファンを要望にこたえ、今年から二日制にしたのだが、幸い天候に恵まれ、折柄の猛暑にうだる市民にとっては絶好の納涼能ともいって可い。二夜とも大盛況のうちに終了したことはおめでたい。この成功に自信をもって主催者側では来年以降も二日制をつけてほしいものだ。

名古屋は薪能の先進地だけに研究が行き届き、能組も、舞台進行も照明、音響効果まで、まずは文句のつけようのないところまで進歩した。専門家から見れば云うことも多からうが、感服的な野外能である。能舞台の演技と比較してややく云うのは野暮だろう。能の出来も決して悪くなく、地元の楽師だけでこれだけ出来れば上出来だし、何よりも本式の能能の以上以上に懸命の気遣いが感じられて好感がもてる。見所の行儀も大変よかつたが、これに二日間で自然と観客が押し寄せた。

秋の「洛西」を訪ねる

本紙では、毎年謡曲名所めぐりのバス旅行を実施し、同好者さまの多数のご参加を得て好評をいただいておりますが、本年はコースを京都にもとめ、「紅葉の洛西を訪ねる」会を十一月二十三日、(勤労感謝の日)に催します。

秋の「洛西」を訪ねる
謡曲名所めぐり
11月23日(祭)実施要項

◆日時 十一月二十三日(祭日) 勤労感謝の日

◆集合名古屋・栄・愛知文化講堂前(NHK南側)午前8時

◆出発 午前8時10分 名古屋(午後7時(予定))

◆コース 名古屋一宮IC一宮神ハイウェイ京都南IC一宮向日市一花の寺(勝持寺)一原野神社一小塚一十輪寺一京都南IC

◆主催 能楽の友社 電話(731)7984

◆十月中に座席指定の会員証をお送り致します。

◆バス代、排観料、昼食代一切をふくみます。

◆謡曲本 謡曲名所と季節にちなみ、次の謡曲本または百番集をご持参下さい。

◆「西行集」「小塚」「杜若」「井筒」「阿漕」「江口」

◆お申し込み、会費を添えて現金書留、または振替にて左記へお申し込み下さい。

名古屋千種区吹上本町2-20 能楽の友社 (〒464) (731)7984

舞、宝生会理事の佐藤芳彦氏の解説講演が行われ、狂言「棒しばり」が始まる頃には観客は次々と増え、どこもこれも超満員となった。

狂言の半ば頃、雨がやみ、なんとか屋外でやれそうとの報せもたらされた。雨間ほどの位あるだろうとの間に、五十分は大丈夫でしょうとのこと。それならば狂言が終わったら直ぐアナウンスしてゆつくり屋外へ移動して頂き、二十分後に「巴」を半能にて屋外舞台で開演すると決定、その準備に取りかかりました。まずその辺は順序よく運び、観光協会にご尽力して頂いた舞台も使用出来て面目が立ちました、と役員の方たちも大喜びしておられました。

そして七時三十分第一回本曾松明能も繰り出された。松明能も繰り出された舞台で、狂言の目的を達成されたことは誠に意義あることであつた。

◆ガイド 謡曲名所の説明に加え、謡曲を謡っていただきます。

◆定員 四十五人(満員になり次第締切ります。)

◆原則として補助席は使用しません。が、やむを得ぬときは、補助イスを使用します。

◆お座席はお申込み順に前列より指定いたしますが、ご年配の方は優先席とすることがありますのでこの点ご理解いただきますと思います。

◆会費 七千円 (バス代、排観料、昼食代一切をふくみます。)

◆NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

(9月)

11日(日) 宝生流「熊坂」野村蘭作ほか

18日(日) 観世流「楊貴妃」観世静夫ほか

25日(日) 観世流「半藤」浦田保利ほか

(10月)

2日・9日・16日 学校音楽コンクール放送

23日(日) 観世流「葛城」大西信久ほか

30日(日) 観世流「放下僧」武田太加志ほか

◆NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)

(9月)

11日(日) 観世流「放下僧」武田太加志ほか

18日(日) 観世流「融」大坪十喜雄ほか

25日(日) 観世流「夕顔」上田照也・福玉輝之

(10月)

2日(日) 喜多流「龍太鼓」栗谷菊生ほか

9日(日) 観世流「楊貴妃」観世静夫ほか

16日(日) 観世流「富士太鼓」梅若泰之ほか

23日(日) 観世流「半藤」浦田保利ほか

30日(日) 観世流「鉄輪」今井泰男ほか

◆NHK教育テレビ

9月15日(祝)午前9時 観世流能「頼政」大槻秀夫・森茂好

9月23日(祝)午前9時 宝生流能「紅葉狩」大坪十喜雄・森茂好

(放送予定につき変更になることがありますが) ありますのでご理解下さい

楽の友社
千種区吹上本町2-20
1番号 464)
731) 7984
名古屋 36393

1年 500円
1年 800円
50円

第18回大衆能
9月22日 市民会館で

名古屋見世

柴田初太郎
名古屋千種区本山町一三二
電話(七五二)六六七六番

久保田千三郎
東京都渋谷区代々木四一三八二
電話(〇三三)3701 4609

外科・せいけい外科・皮膚、泌尿器科

東山整形外科

TEL 781-7835
東山公園駅下車 オークランドビル2F

宝生流全曲旅の友

宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。

合本(全一冊) 定価¥27,000 (送料別)

天・地・人(三冊) 定価¥30,000 (送料別)

天の巻(翁・あ〜こ) 地の巻(さ〜と) 人の巻(な〜ろ・蘭曲)

わんや書店 東京都中央区銀座5-7-1

民芸食事処

まんだら

名古屋市西区浅間町3番地
TEL 524-0168

西みやか

TEL 531-5507・6666

かたてすんら
かすが山
扇かふん
十松屋
かろうよ
十松屋
かろうよ

若い御二人の門出に
ふさわしい結婚式場
名古屋 若宮八幡社
各種会合や宴会にも御利用下さい
(駐車場完備)
名古屋市中区栄3丁目35-30 電話(241)0810

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友
名古屋市中区栄3丁目35-30
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 500円
郵送の場合 1年 800円
部 50円

題字は熱田神宮 窪田富司筆

れたことは、
の意義からして
当然とはいえず、
同君のため、名古屋狂言界のため
慶賀にたえない。終演後あいつ
に立った同君は、「未熟者である
ことは私自身一番よく知っている
と大成を期待してやまない。が
ばれ友彦君。
▽さて、舞台の出来栄だが、
第一は「蝸牛」第二は「布無縫」
と大感の出来栄であるが、
者の方が大きくものをいう。『粗
い』のようない人芝居に近いも
のでも同然)その点松次郎、又三
郎の力をあらためて評価したこ
とを附記しておきたい。(M)

金剛、観世定式能

10・11月の中部能楽界

◆ 演能カレンダー ◆
(熱田神宮能楽殿)

[10月]

10日(祭) 名古屋園花会10周年記念秋季大会
15日(土) 瑞穂会秋の大会 (来場歓迎)
16日(日) 第20回狂言やるまい会公演 (有料)
22日(土) 修撰会大会 (来場歓迎)(番組①面)
23日(日) 淡文会秋の会 (来場歓迎)(番組①面)
29日(土) 一福会・叶石会大会 (来場歓迎)(番組②面)
30日(日) 中部金剛会定式能 (有料)(番組②面)

[11月]

3日(祝) 幸友会秋の会 (来場歓迎)(番組④面)
5日(土) 瑞穂会祝賀能 (来場歓迎)(番組④面)
6日(日) 風韻会祝賀能大会 (来場歓迎)(番組④面)
12日(土) 梅若盛後援会能 (有料)(番組④面)
13日(日) 観世会定式能 (有料)(番組④面)
19日(土) 壺泉会能 (有料)
20日(日) 邦謡会秋季大会(その1) (来場歓迎)
23日(祭) 和泉狂言会 (来場歓迎)
26日(土) 邦謡会秋季大会(その2) (来場歓迎)
27日(日) 竹韻会素謡会大会 (来場歓迎)

[12月]

4日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料)
8日(木) 高校生鑑賞能 (高校生対象)
11日(日) 宝生会定期能 (有料)
18日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料)

(演能変更の節はと了解下さい。)

名古屋観世会定式能はことし最
終回、能「江口」(シテ片山博太
郎)能「野守」(シテ観世寿夫)
の二番で、動と静のなかで力演が
刮目されよう。またその前日の十
二日(土)は梅若盛後援会能で
「野宮」「土蜘蛛」の能二番は盛
義師の独演能。
各社中大会では、修撰会(十月
二十二日)が能「錦丸」淡文会
(同二十三日)は能「熊野」「三
十三年」が能「熊野」三
よる重泉会能は十一月十九日(土)
十一月十九日 壺泉会能
壺泉会主催、朝日新聞社後援に
よる重泉会能は十一月十九日(土)
能「東北」「小鍛冶」
十一月十九日 壺泉会能
大阪能楽観賞会による
特別公演として、きたる
十月二十五日(火)大阪
能楽会館で、橋岡久馬師
の「卒都婆小町」が上演される。
番組は次のとおり。
狂言「業平餅」(茂山忠三郎、
茂山千五郎、善竹忠一郎ほか)
能「卒都婆小町」(シテ橋岡久
馬、ワキ宝生閑、笛・森田光春、
小鼓・大倉長十郎、大鼓・河村総
一郎、地謡・藤井久雄ほか)午後
六時始。
大阪能楽観賞会(大阪市北区曾
根崎新地三十一〇(三島ビル))

中部金剛会能は
豊橋三千春師の
能「半蔵」日比野圭昭師の能「紅
葉狩」など能四番立て。豊橋弥左
衛門、広田泰三師らをかえ金剛
流の新鋭による意欲的な演能が期
待される。
熱田神宮能楽
殿では十月三十
日(日)中部金
剛会定式能、十
一月十三日(日)
名古屋観世会定
式能、二十三日
(日)和泉狂言
会を中心に各流
とも後援会能、
記念能を開催す
る。
十月二十三日(日)豊橋市民文化
会館ホールで狂言特別鑑賞会を開
催する。番組は次のとおり。
「擧取相撲」(野村又三郎、佐
藤友彦、井上松次郎)
「隠し理」(野村万之丞、野村
万作)
「しびり」(野村信行、野村又
三郎)
「粟焼」(井上松次郎、井上礼
之助)
「茶室」(野村万作、野村万
之丞、井上礼之助)
午後一時始、鑑賞整理券は、豊
橋市教育委員会、社団法人豊橋文
化協会、または豊橋やるまい会
(豊橋市魚町一八、山本浅太郎方)
で取扱っている(無料)。
能「東北」「小鍛冶」
十一月十九日 壺泉会能
壺泉会主催、朝日新聞社後援に
よる重泉会能は十一月十九日(土)

「狂言の夕」を観て
アドほかの助演
る。それだけに
者の方が大きくものをいう。『粗
い』のようない人芝居に近いも
のでも同然)その点松次郎、又三
郎の力をあらためて評価したこ
とを附記しておきたい。(M)



本 店 熱田区神戸町三四 電話(671)8686、8
神宮東門店 熱田区新宮城町一 電話(682)5598(代表)

名古屋修撰会大会
十月二十二日(土)午前九時始
熱田神宮能楽殿

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------|-----|------|-------|------|------|-------|------|------|------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|-------|-------|
| 橋井慶 | 頼政 | 百萬 | 千手 | 遊柳 | 野宮 | 求塚 | 松 | 弱法師 | 卷絹 | 藤戸 | 羽衣 | 和合之舞 | 五遊 | 丸 | 船弁慶 | 熊野 | 船弁慶 | 附祝言 | 御来場歓迎 |
| 菊地重郷 | 奥田勝 | 塚田澄子 | 井戸和男 | 藤原彦一 | 杉田和子 | 池内光之助 | 梅若盛義 | 高橋道子 | 澤田春子 | 河村総一郎 | 後藤孝一郎 | 藤田昭彦 | 寛三男 | 梅若修一 | 後藤孝一郎 | 寛三男 | 梅若修一 | 後藤孝一郎 | 寛三男 |
| 梅若盛義 | 奥田勝 | 梅若盛義 | 池内一之助 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 | 梅若盛義 |

| | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 能三輪 | 能熊 | 能養 | 能外 | 能三輪 | 能熊 | 能養 | 能外 |
| 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 |
| 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 | 高安 滋郎 |

宝生流
宝生流合本天封
合本天封
天の巻(翁)
わ
十月二十三日(日)午前九時始
熱田神宮能楽殿
井上礼之助



能 紀 行

幽玄 井栄逸

幽玄とは、歌論、連歌論、能楽論によく用いられる言葉で、日本文学の基本理念を表わした用語である。幽は底のない深さを意味し、玄は黒に通じる。奥深く、微妙で容易にはかり知ることのできないことを意味している。しかし、時代や対象によってその意味が微妙に異なるようでもある。

見ることがたのびず、さくすがたのかずくのおしなめてうつくしからんをもて、幽玄と知るべし。このことわりを、我と工夫して、その主になり入るを、幽玄のさかひ

に入るものと申す也。このしなじなを、工夫もせず、ましてそれにもならでただ幽玄ならんとばかり思はば、生誕幽玄はあるまじき也。

各地たより

豊春会秋の能

10月16日 金剛能楽堂
金剛流・豊春会秋の能公演は、十月十六日（日）金剛能楽堂で催される。

京都

能「枯」(シテ豊嶋三千春、ツレ宇高通成、ワキ西村欽也、笛・森田光春、小鼓・曾和博朗、大鼓・河村総一郎、太鼓・前川光隆) 能「紅葉」(小鼓・前川光隆) 能「紅葉」(小鼓・前川光隆) 能「紅葉」(小鼓・前川光隆)

「訂正」前号能紀行「待つ心」の文中三段目「いづれの花か散りて残るべき」とあるのは、「いづれの花か散りて残るべき。」の校正の誤りにつき、お詫びして訂正します。(編集部)

一謡会・叶石会秋季大会

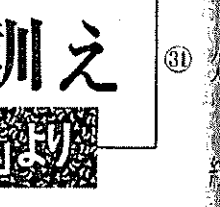
十月二十九日(土)午前九時始

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-------|-----|-----|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 美談 | 安達原 | 盛 | 富士太鼓 | 若 | 阿 | 班 | 半 | 羽 | 熊 | 葛 | 隅 | 一調 | 善 | 野 | 草 | 山 | 班 | 安 | 頼 | 天 | 一調 | 能 | 藤 | 附 |
| 熱田 | 神宮 | 能楽殿 | 宮崎とみ子 | 保坂信 | 原隆弘 | 宮崎とみ子 | 高木 | 伊藤 | 伊藤 | 長戸 | 梅田 | 石田 | 丹羽 | 後藤 | 河村 | 後藤 | 後藤 | 山本 | 後藤 | 後藤 | 河村 | 河村 | 河村 | 河村 |
| 常原修 | 菅原修 | 菅原修 | 小林久子 | 保坂信 | 原隆弘 | 宮崎とみ子 | 高木 | 伊藤 | 伊藤 | 長戸 | 梅田 | 石田 | 丹羽 | 後藤 | 河村 | 後藤 | 後藤 | 山本 | 後藤 | 後藤 | 河村 | 河村 | 河村 | 河村 |

中部金剛会定式能

十月三十日(日)午前十一時始

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 仕舞 | 高 | 弱 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 | 能 |
| 熱田 | 神宮 | 能楽殿 | 加藤 | 高安 | 河井 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 |
| 菅原修 | 菅原修 | 菅原修 | 加藤 | 高安 | 河井 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 | 後見 |



父の鏡之丞は天保十四年、町町の親世宗家の内で生れました。二十才頃まで二十二世清孝さんの教えを受...

十月三十日(日)午前十時始
岡崎商工会議所ホール
岡崎市明大寺町八 電話559661六六一
主催 岡崎商工会
山本 正人

第18回大衆能を観る

前田満穂

「大衆能も第十八回を迎えてますます盛況……」
 「といいたいところだが、むしろ曲角にさしかかって来た、といたいね」
 「何が曲角かね。会場が文化講堂から市民会館へ変わったからか」
 「いやそれは二の次だ。文化講堂の方がいいか、市民会館の方がいいか、昼間の方がいいか、夜間の方がいいか、いろいろ検討材料が反響資料が出来たことは確かにプラスだ。これに機会を自覚することだけでなく、大衆能そのものの意義、在り方について、もう一度考えてほしいと思う。これが私の曲角という意味だ」
 「なるほど。お話をよく分るがこれ以上変えようはあるまい。いろいろと試行錯誤の末現在のやり方に落ち着いたというわけじゃないかな」
 「しかし世の中は動いている。能の愛好者の質も変れば目も変わる。殊に大衆能となれば、大衆の動きや変化を先取りして、それに応じた企画をたてるべきではないだろうか」
 「それは理想論だ。主催者側だってそんな理想は百も承知だ。承知してはいたって出来ないことは、世の中にいくらもあらあな」
 「現実には押されるのは仕方がないにしても、折角の催しが人気を失うようなことがあっては残念、それ故の老練心というわけだ。いや、話が理に落ちた。舞台上に眼を転じよう」
 「ちよっと待て。君の話にこだわるわけじゃないが、大衆能と能楽堂の専門的？な演能との間に質の差はないのだろうか」
 「もちろんだ。大衆に広く能の良さを知ってもらうために催しただけなら、むしろ能楽堂の能以上に立派なものでなくてはならぬ。大衆といっても、大衆能楽や大衆演能の大衆とは意味が違ふ」

幸友会秋の会

十一月三日(祭)午前十時始

熱田 神宮 能楽殿
 早川 豊子
 石井 鏡子
 坂倉 晴子

能三輪

雅子「砥」(早川豊子)ほか独調、連調など
 高安 滋郎

創立四十周年・喜寿祝賀

佐藤アヤ子
 渡辺 節子
 高田みね子
 名譽師範披露

風韻会記念能大会

十一月六日(日)午前九時半始

神歌 殿島 修二
 高砂 日比大吉郎
 賀茂 阿部 三郎
 賀茂 志方つね子
 賀茂 磯村みつ子

田村 村キリ
 三鼓 原 伊三男
 天鼓 浮貝 鋼一
 丸 高橋香代子
 磯 伊藤志ゆん

「これはやっぱりどうにもならない。文化講堂より小さいだけにまとまっていってよかったです。いや、たゞ地謡がひどく聞きにくかったが、会場の音響効果に問題があるのだろうか。」(9月22日夜、名古屋市民会館中ホール)

梅若盛義後援会能

十一月十二日(土)午後一時始

熱田 神宮 能楽殿
 梅若 盛義
 梅若 盛義
 梅若 盛義

名古屋観世会定式能(五回)

十一月十三日(日)十二時半始
 熱田 神宮 能楽殿
 梅若 盛義
 梅若 盛義

名古屋観世九皇会定例能

九月十七日(土)午後二時始

熱田 神宮 能楽殿
 梅若 盛義
 梅若 盛義

能鶴 亀 高安 滋郎
 萩 大名 井上礼之助
 道成寺 佐藤アヤ子
 放下僧 福間 昌作
 井筒 守部 啓子
 葛城 西村 欽也
 法師 殿島 満里子
 玉之段 大槻 文蔵
 雨之段 大槻 秀夫
 松 殿島 修二

社友の楽
 地区吹上本町2-20
 番号 464)
 731) 7 9 8 4
 名古屋 3 6 3 9 3
 1年 500円
 1年 800円
 50円

多彩な記念能大会

秋の中部能楽界

エンゲージリング 山田宝石 貴金属・時計・装飾品 名古屋・本山駅 電 762-2434 代表

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 名古屋千種区吹上本町2-20 (郵便番号 464) 電話 (731) 7984 振替口座 名古屋 36393 購読料 1年 500円 郵送の場合 1年 800円 郵部 50円

安宅 野村 四郎 能高砂 武田 邦弘 仕舞 大隈 秀夫 片山 博太郎 能船弁慶 片山 伸吾 観世 元正 第二回 定式能 四月九日(日) 十二時半始 演劇 坂下天狗久田秀雄、河村三三

けいひ 義捐金 集能

能楽協会名古屋支部主催 12月4日 能4番を上演

能楽協会名古屋支部(高安流)支部長・主催、中部能楽協会後援の歳末助け合い運動協賛義捐金募集能は、本年は第九回を迎え、きたる十二月四日午前十時から熱田神宮能楽殿で催される。ことしの能組は、昨年と同じく

能「葵上」狂言「寝音曲」

歳末助け合いCBCクラブ芸能祭は、十二月四日(日)CBCホールで行なわれる。この芸能祭はCBCクラブの芸術部門の会員による奉仕出演で今年には第三回目、入場料は第一部、第二部とも千五百円、

高安流 安福春雄氏の栄誉 勲四等旭日小綬章受章

十一月三日文化の日に昭和五十二年秋の叙勲が発表されたが、能楽関係では、高安流大鼓方・安福春雄氏が勲四等旭日小綬章を受章された。安福氏は、高安流大鼓方宗家預り。明治四十年一月一日生れ。高安流大鼓・清水正徳氏の教えを受け、宗家高安流三郎につかえ、多

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

- 1月) 日(土) 梅若盛義後援会能 (有料) 日(日) 観世会定式能 (有料) 日(土) 壺泉会能 (有料) (番組①面) 日(日) 邦謡会秋季大会(その1)(来場歓迎) (番組①面) 日(祭) 和泉狂言会 (有料) (番組②面) 日(土) 邦謡会秋季大会(その2)(来場歓迎) (番組②面) 日(日) 竹韻会茶話大会 (来場歓迎) (番組②面) 2月) 日(日) 歳末助け合い義捐能 (有料) (番組③面) 日(木) 高校生鑑賞能 (高校生対象) 日(日) 宝生会定式能 (有料) (番組③面) 日(日) 青少年のための芸術劇場 (有料) 3年1月) 日(火) 能楽協会名古屋支部新年額初式 (協会関係者のみ) 日(土) 学 生 能 日(日) 青陽会定期能 (有料) 日(土) 梅田邦久後援会能 (有料) 日(日) 名古屋清韻会大会 (来場歓迎) 日(日) 熱田紳士能 (来場歓迎) 日(日) 邦謡会春の大会 (来場歓迎) (演能変更の節はご了解下さい。)



壺泉会能

十一月十九日(日)午後一時始 熱田神宮能楽殿

能東 狂言 悪太郎 野村又三郎 井上松次郎 能小 鍛冶 高安 滋郎 河村総一郎 鬼頭喜太郎 別智黒頭 佐藤 友彦

秋の邦謡会(一)

十一月二十日(日)九時半始 熱田神宮能楽殿

能花 高砂 宮川 千尋 柳原富司忠 鬼頭 昭彦 舞 花 盛ヶセ 岩田 竜蔵 船 三輪 舞 土 車 今枝 行夫 船 三輪

第十七回狂言和泉会

十一月廿三日午後一時三十分始 熱田神宮能楽殿

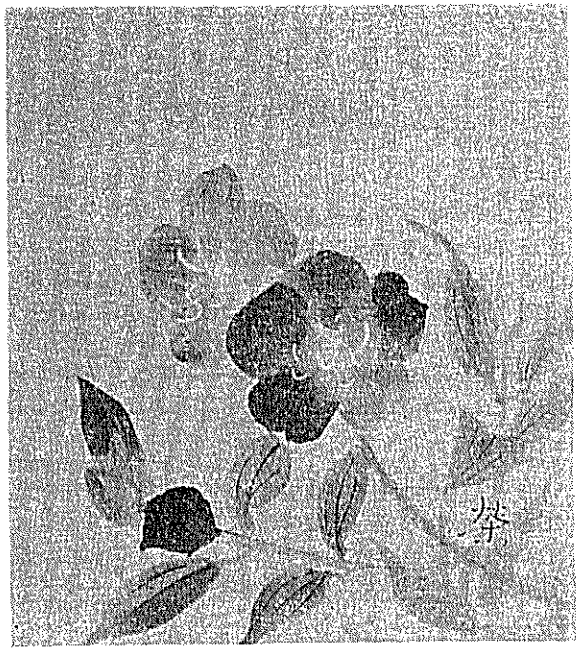
雁 磁石 井上松次郎 大野 弘之 鐘の音 三宅 藤九郎 三宅 右近 宗論 佐藤 友彦 井上 礼之助 舞 早 野村又三郎 井上 礼一

蔵元直営 酒 白龍本店 料理 風んかつ 名古屋市千種区

会費 指定席 二、〇〇〇円 普通席 一、五〇〇円 事務所 名古屋和泉会 井上 礼一

行 紀 能

宴のささ 逸 栄 井 二 文 と 絵



のぼたんの紫は、目の覚めるような美しい色をしています。いつも郵便受箱の下で稽古の掃りを待っていてくれるこの花を、私は、生けて見たいな、と思いつきながら、どうしても切る気になれないのです。

花屋が運んでくる花は、非情なまでにチョキンチョキンと切るくせに、我が家に育った数少ない花はどうしても切る気になれません。私は、よく家にある盃洗に花をいけることがあります。盃洗は、花材や、場所によって、茶花風にも、感覚的にも生けわけて、なか

な面白いです。今朝、花屋が運んできた花材の中に、季節としては少しおくれたもののぼたんが花首をのぞかせていましたので、一枚失敗して、道ばたで取ってきたねこじやらしにあしらって、盃洗に生けて見ると、たしかに深みのある秋がそこにありました。

秋が深まるにつれて酒もたんだんおいしくなってきました。洋酒も飲みますが、やはり、日本酒が一番です。時々、季節の花を盃洗に置いて、一人で酒を飲みながら、私は私なりのノルヘンの世界を楽しんで、喜び現れるじきで、真角といふ面（観世では三月月又は淡男）と、黒頭（くろ



え

寿夫の子供の時分は口でいって、舞は立って舞わして教えました。今は忙しくなりましたので、

て困ります。作物のことも、後見が物を渡すのも覚えていません。これは人の稽古だと身を入れていない証です。

職分にならうと思つての者は、人に言われなくてもよく気をつけていなければなりません。大休近頃は早くからお弟子をとって、先生と習ってくださるものですか

また他の人の稽古を見ただけでなく、能や他流の能など、まるで見ない師範がおりますが、これはいけません。しきたりは違つても勉強になる所はいくらでもあるのですから、他流と一緒にやれませんが、自分の師匠の家のものばかりでなく、同じ流儀の他の家の者とも交つてやるように

世界の動き 身近な話題

東京新聞

東京中日スポーツ

中日新聞

中日新聞本社 名古屋市中区三の丸1丁目6番1号 TEL 大代表201-8311

中日新聞東京本社 東京都港区港南2丁目3番地13号 TEL 大代表471-2211

中日新聞北陸本社 金沢市若林坊2丁目7番15号 TEL 大代表61-3111

がしら）が多少陰鬱な気分を漂わせますが、曲中流水の盃とか、嵐山の古とか、酒に縁のある故事を示し、遊樂の男舞や、草葉にすたく山の音等、めぐりゆく風趣が爽やかさと、さびしさを交ぜ合わせた秋風のように舞台をふきぬけます。

此の曲作意にとらわれる所なく、前は友情の温かさや酒興の清快さを秋風の飄々たる趣に後は興の動くところ心の往くまゝに発刺と謡い放つべし

家元ではこのように松虫の謡い方をいましています。

虫の音はすっかり消えてしまいました。一夜、風が吹くと、枯れかけた木の葉はサラ／＼と音を立てて散ってゆきます。それは、あたかも時雨が過ぎてゆくような音にも似て一人安らぎや、静けさを感じるのです。

晩秋の夜半、私は、私の誰にも邪魔されぬ深くとほりの降りた夜を大切にしながら、一人でささのうたげを聞き、各新聞社や社会事業団から依頼されている歳末たすけ合い運動のための絵をかきつづけるのです。

秋の邦謡会(二)

十一月二十六日(土)午前九時半始
熱田 神宮 能楽殿

| | | | | | | | | | | | |
|------------|------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-----------|
| 附祝言 | 玄 | 安 | 求 | 砧 | 隅 | 采 | 善 | 三 | 松 | 弱 | 通 |
| 御来場歓迎・粗品進呈 | 象 | 宅 | 塚 | 仕 | 川 | 女 | 鳥 | 寺 | 風 | 師 | 町 |
| 主催 邦謡会 | 番外仕舞 | 小田 昭夫 | 河合雄一郎 | 水野 光子 | 野々山幾子 | 今井 本明 | 中野田正子 | 小島 芳子 | 三輪てい子 | 中村外幾代 | 今沢 美和 |
| 終了六時頃 | 村キリ | 浅野 桂 | 須部 南 | 水野 雅子 | 今井 本明 | 都築 正三郎 | 小島 芳子 | 都築 健三 | 三輪てい子 | 中村百合子 | 梅田 邦久 |
| | 坂 | 岩崎 光雄 | 妹尾 久 | 羽田 雅子 | 都築 正三郎 | 西村 進 | 佐藤 千代 | 原 正義 | 中村百合子 | 安藤 勝明 | 熱田 神宮 能楽殿 |

竹韻会素謡大会

十一月二十七日(日)九時半始
熱田 神宮 能楽殿

| | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 御来場歓迎 | 山 | 花 | 景 | 遊 | 砧 | 盛 | 隅 | 藤 | 弱 | 卷 | 羽 |
| 主催 竹韻会 | 姥 | 籠 | 清 | 柳 | ツレ | 久 | 川 | 戸 | 師 | 絹 | 衣 |
| 終了六時頃 | 加野昭二郎 | 小川 貞三 | 飯坂 信子 | 大西智津子 | 戸松 利作 | 大西智津子 | 飯田 悦子 | 戸松 睦夫 | 梅村 平義 | 加藤 照子 | 小坂 礼美 |
| | 八神 孝光 | 加藤 万由子 | 飯坂 信子 | 飯田 悦子 | 戸松 睦夫 | 飯田 悦子 | 飯田 悦子 | 野口 清 | 梅村 平義 | 三宅 志つ | 佐藤 淑子 |
| | 奥村 泰弘 | 加藤 万由子 | 飯坂 信子 | 飯田 悦子 | 野口 清 | 飯田 悦子 | 飯田 悦子 | 野口 清 | 富部 保良 | 松本 顯一 | 佐藤 淑子 |

義捐金募集能(第九回)

十二月四日(日)午前十時始
熱田 神宮 能楽殿

名古屋宝生会定式能

十二月十一日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿



能楽先人の訓え

「観世華雪芸談」切

寿夫の子供の時分は口でいって、舞は立って舞わして教えました。今は忙しくなりましたので、二・六の稽古も、四時時分は火曜日位しか出来なくなりまして、学校がある間は、どうしてでも稽古の方を主にやらさねばなりませんから。

静夫には「寿夫のやっていたことを必ず見ておけ、兄さんの稽古だと思わず、自分の稽古だと思え」と常に申しておりましたので、これには特に手をとって教えるということもせず、すぐ舞わしていきなさいと直すという風にしています。

人がしていることをよく見ておくのが大切であることは、よくわかっているのですが、門弟たちなど一つ事を何度もやっている

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

観世元四郎、片山博太郎、片山慶次郎、山本真義といった若い人達が来ていますが、せめて私共の時代の心構えだけでも残して

世界の動き 身近な話題

東京

中日新聞本社 名古屋市中区東区本通
中日新聞東京本社 東京都千代田区西區本町
中日新聞北陸本社 金沢市本町

義捐金募集能 (第九回)

十二月四日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿

附祝言
御来場歓迎・粗品進呈
終了六時頃

(宝) 経政 戸山和 高安 滋郎 河村総一郎 鬼頭 季信
後見 玉井 博祐 地謡 加藤 喜一 内藤 泰二
竹内 澄子 地謡 小沢 利一 衣笠 正幸
福井 良治 吉田 辰巳

(一) 龍 雲林院 土井 榮逸 鬼頭 八郎 祖又 江修
後見 春日 龍神 加賀 敏彦 高橋 政一
俊成 忠度 水藤 元三 今村 秀雄
善鐘 之段 須部 市 地謡 久田 秀雄

(仕) 半 熊沢恵美子 西村 欽也 福井 良久 藤田 昭彦
間 佐藤 友彦 須部 市 福生 芳雄
水藤 元三 地謡 清沢 一政 武田 邦久
後見 河村 証二 地謡 中村 邦久 梅田 邦久
杭か人か 井上松次郎 井上礼之助 加藤 兵衛

(龍) 龍 吉川 周子 吉田 定男 池田 三男
間 高安 滋郎 友彦 後藤 孝一郎 算 三男

(狂言) 和 花 笹 田中 武弘 後藤 製雲
後見 片野 隆子 地謡 東田 康文 水谷 泰典
河井 隆子 地謡 日比野 圭昭 豊重 昌三
竹市 幸司 菊川 憲三

(仕) 安達原 杉村 竹翠 高安 勝久 鬼頭 喜太郎
間 飯富 雅介 御原 富司 森本 重一
後見 殿島 修二 地謡 田中 武 佐藤 泰二
梅田 邦久 地謡 加賀 敏彦 久田 秀雄

附祝言
主権 能楽協会名古屋支部
後援 中部能楽師会

入場料 一、〇〇〇円(全自由席)
前売 熱田神宮能楽殿・各出演者宅
お問合せ 熱田神宮能楽殿(六七)二九二二

名古屋宝生会定式能

十二月十一日(日)午後一時始
熱田神宮能楽殿

御来場歓迎
主権 竹村 竹翠
後援 中日新聞

素能組 内藤 泰二 鈴木 義久 衣笠 正幸
船井 慶 地謡 大川 和夫 鈴木 義久
関口 清吉 鈴木 義久
中島 文男 稲川 寿一

仕 三井寺 玉井 博祐 吉田 定男 藤田 昭彦
間 高安 滋郎 福井 良久 須部 市
後見 戸田 和 地謡 伊藤 義雄 吉田 辰巳
須賀 福美 馬場 富夫

仕 富士太鼓 辰巳 孝
黒塚 鬼頭 嘉男
狂言 佐藤 秀雄 井上礼之助
後見 佐藤 友彦

唐 山内 崇生 野々山 裕
日本子 植村 真 大坪 十喜雄
後見 西村 欽也 吉田 定男 鬼頭 喜太郎
間 井上松次郎 大野 弘之 藤田 六郎兵衛

附祝言
主権 名古屋宝生会
後援 中日新聞

入場料 一、〇〇〇円(全自由席)
前売 熱田神宮能楽殿・各出演者宅
お問合せ 熱田神宮能楽殿(六七)二九二二

二井栄逸能画新作展

12月4日-10日まで
名古屋 松坂屋本店

この共感をよんでいるが、今回は新作二十余点が松坂屋本店八階美術画廊に出展される。

二井栄逸能画新作展が、十二月四日から名古屋・松坂屋本店で開催される。(十日まで)

二井栄逸氏は喜多流シテ方として活躍、本紙には、「装束談義」「能紀行」を連載執筆、流麗な筆致と風流は能の思想の表現に読者と同時に、ク「鶴亀」一番の稽古に六カ月を要します。横隔膜の運動を自覚するのには早くも三カ月、普通半年かかります。健康のため鶴亀を半年辛棒する人に限り可能な業です。これは謡の稽古でなく、筋の体操を自覚する稽古の故であります。……など随所に柴田翁の健康論と謡曲哲学がにじみ出ており、語録を通して生命の吹込み、芸に対する愛情がにじみだ内容と編集である。

三百部限定出版で余部に乏しいのが残念だが、掬水会有志の師をおもいう至情の結実として快書である。(加野記)

掬水会が限定出版

和十二年「道成寺」を披く。観世流職分格として名古屋観世会最長老である。

「帰童」とは柴田翁の雅号。内容は健康につながる謡の発声法②謡の発声について③地拍子について④謡曲の符号について⑤随想断片で昭和十二年二月、林恩蔵師の指導分披露で、柴田氏が「道成寺」を披いた番組掲載、名古屋観世会の設立のいきさつなど名古屋能楽史の一環として貴重である。

観世流シテ方・柴田初太郎師の米寿を慶ぶる掬水会祝賀協会が昨年三月盛大に催されたが、これを記念して、同会幹事伊藤幸三氏らが中心となり、柴田翁の謡の教え、発声法、随想断片などをまとめた「帰童閑談」がこのほど刊行された。(A5版金八〇頁)

柴田師は明治二十二年三月一日生れ。十八歳より青木萬治先生に就き修業、大正三年武田宗治郎、橋岡久太郎師にそれぞれ師事、昭

能「紅葉狩」「土蜘蛛」

12月18日青少年芸術劇場

名古屋市教育委員会、能楽協会、名古屋支部主催、「名古屋市青少年のための芸術劇場 能・狂言」が十二月十八日、熱田神宮能楽殿で第一部十年前時、第二部午後二時からそれぞれ上演される。

この公演は働く青少年、高校生を対象に能・狂言鑑賞の機会として毎年行われているものである。

第一部 狂言「昆布売」(井上松次郎、井上礼之助) 能「紅葉狩」(シテ梅田邦久)

第二部 狂言「鶴亀」(野村又三郎、井上松次郎、井上礼之助) 能「土蜘蛛」(シテ久田敬二)

「紅葉狩」は、能楽協会の主催で、毎年行われているものである。

「土蜘蛛」は、能楽協会の主催で、毎年行われているものである。

「紅葉狩」は、能楽協会の主催で、毎年行われているものである。

「土蜘蛛」は、能楽協会の主催で、毎年行われているものである。

久馬の「砧」を観る

竹尾邦太郎

季節に相応しい段替草履模様のくすんだ紫系統の唐織着流のシテが、着を離れるや立ちどころに久馬の世界が現われます。

サシ踊は沈痛で、その気分は舞台に入る運びにも感じられます。重い気持を後に残すのを断ち切るといった風情に、ほとんど爪先を上げず、前に出る上半身に随いて足を送るような運びです。

憔悴しきった態のシテは、大小前であらりと、踏踏とした感じがやや過剰表現にも思われますが、地面でのツレとの掛合は勁く、このために肉体的表現と言葉の表現との対立が際立って、鮮烈な印象を与えます。

岡田朝詠・梅田邦久以下の地謡はよく統率のとれた名調子で、シテの心象風景を下歌から上歌へとしつとり盛り上げます。物着は手間取ったような気がしましたが、あしらいの確しは少しも冗長な気分とはならず、却って雰囲気を高めてゆくのです(大鼓・寛鉢一、小鼓・後藤孝一郎)。

筋の段は、シテが地謡との絶妙の呼吸で詞章を受け渡しながら型どころを纏綿と舞い進みますが、

是非はともかく見所はシテに感情移入してしまう程です。ツレと砧を拍つ所作にも、空しくなって中入る際にも哀れき一入のムードなのです。

アイは井上松次郎。いつもながら長上下を実に背く捌いて出ます。抑制の利いた訥訥とした趣の立ちしやべりは、砧の世界を淡々とした心持で写し、ほっと息をつかせます。

後は待謡にしみじみとしたワキ高安澄郎の寂びた声調がよく合います。後シテの面は泥眼に非ず瘦女です。この辺、久馬の主張するところなのでしょう。若付も大口を穿かず、白綾道折を避け、白水衣を、しかもソロに着用しています。鏡の間奥深くから充分に間隔を取り、ゆつくりと橋掛を運ぶ瘦長身のシテ。そのシテを包む白一色の装束の、幽明境を異にした女の醸す妖しいムードは、一種凄絶な感じさえ与えます。

久馬は杖の扱いに神経の行き届いたシテだと思いますが、一の松で一声を詠い、舞台に入る頃から、その杖は妄執が凝ったかのようにもろろに揺り、地のへ阿黄の声

のみ恐ろしや、では、阿黄を振り切らんばかりに後方に投げ捨てられます。激しく大きな音を立てて杖が落ちると、シテは間髪を入れず崩れ折れ、まるでその音を遮るかのよう両手で耳を掩います。杖の音が阿黄の声を重なるように耳を聳らしたのでしょうか。鋭い感覚的な描写です。

その激した感情は、へ思い知らずや怨めしやと、ワキに迫るまで持続し、白装束の女が自らを業火で燃焼され尽す趣さえあって凄まじい迫力です。しかしそれに続くキリでは、あつという間に成仏しなさか唐突な気もしないではありませんが、怨の魂が身体から抜けてゆく気分がすうと立ったのが印象的です。

留拍子の後の橋掛を、久馬は業火のほとりを覚ますが如く、或は諦念の果の平静に立ち戻るが如く深重に容れ入ります。久馬の、能一曲を支える気魄にうたれて見所は声も無く、ただ茫然と見送るばかりです。常ならば留拍子の途端に鳴る拍手も、遂に容れ入るまで待ちこされ、それは久馬の芸の吸引力という他はないでしょう。

久馬が異才と謂われるのも、能のデッサンが確立している上での一種のデフォルメマシオンが評価されているからではないのでしょうか。奔放不羈でありながら、飽くまでも能を逸脱しないところに久馬の真骨頂があるように思われます。

未熟大いに結構、現在の若さ、キヤリアで未熟でなかったらそれこそおかし。要は一にも修業、二にも修業、ただ修業の方法を誤らないよう、教養豊かな同君の将来に期待してやまない。がんばれば友彦君。

と大成を期待してやまない。がんばれば友彦君。

▽さて、舞台の出来栄だが、

「狂言の夕」を観て

友彦君がんばれ

能楽の友社
市千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
座名 名古屋 36393
料金 1年 5000円
1年 8000円
1年 50円
場合 1年 50円
場部

11月・12月放送予定

● NHKラジオ第一放送 (毎週日曜日午前10時15分)

| | | |
|--------|----------|---------|
| 13日(日) | 宝生流「融」 | 大坪十喜雄ほか |
| 20日(日) | 観世流「船井度」 | 観世元昭ほか |
| 27日(日) | 観世流「通小町」 | 井上嘉久ほか |

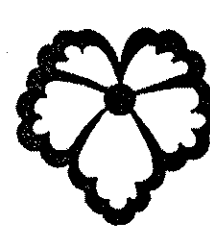
● NHK・FM (毎週日曜日午前7時15分)

| | | |
|--------|---------|--------|
| 13日(日) | 観世流「井筒」 | 観世寿夫ほか |
| 20日(日) | 宝生流「興盛」 | 高橋進ほか |
| 27日(日) | 観世流「葛城」 | 大西信久ほか |

各地だより

能「狸々乱」を上演
11月19日明石市古典芸能の会
明石市古典芸能の会は、十一月十九日(土)明石市民会館ホールで能「狸々乱」狂言「蝸牛」を中心として上演される。

同会は明石市、明石市教育委員



御料理 あつぱ 蓬菜軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(07)868618
熱田区新宮坂町一 電話(07)5598(代表)

名古屋修業大会
十月二十二日(土)午前九時始
熱田神宮能楽殿

医療衛生用品・育児用品・日用家庭用品

八神商事株式会社

YAGAMI SHOJI CO., LTD.

本社 名古屋市中区丸の内3丁目11番4号
〒460 電話<052>(971)代表8671番

観世流・金剛流
宗家本発行元

檜書店

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1 電話(291)2488-9
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入 振替東京3-3552
電話(231)1990 振替京都113

宝生流全曲旅の友

宝生流謡曲180番を五十音順に、翁、蘭曲を合せ収めてあります。

合本(全一冊) 定価¥27,000(送料別)
天・地・人(三冊) 定価¥30,000(送料別)

天の巻(翁・あ〜こ) 地の巻(さ〜と) 人の巻(な〜ろ・蘭曲)

わんや書店 東京都中央区銀座5-7-5 電話(571)8514

中華料理 桃源亭

御宴会・御集會・御商談等には是非御座敷を御利用下さい

中区栄三丁目29(松坂屋南) 電話 241-2938・6081
支店 名鉄百貨店9階 のれん茶屋

城

割烹・小料理

● 熱田神宮能楽殿喫茶部
● 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
● 喫茶・グリル(安永軒地下ビル) 電話 731-1128

十月二十三日(日)午前十時始
熱田神宮能楽殿
井上松次郎 井上礼之助
吉田定男 鬼頭好信
後藤孝一郎 藤田好信

能 紀 行

夜の追憶

絵と文 二井 栄 逸



京都の大丸で、数年前に開催を開いたことがあった。黄色い草の一面に咲きつゞく十月の頃である。個展開催中から毎日通うことは、時間的にも無理があったので、京都に滞在することにした。期間中、大阪で能があったりして

結構忙しかつたが、久々にゆくり京都を見ることが出来た。或る一夜、宿であるホリデイ・イン京都の糸井さんが、「先生なら御満足して頂けるでしょう。い

いにしてくれたので、飲みかけのウイスキーをそのままに宿を出た。その音色からすると、大倉流のように思えた。今でもふっとその音色を思い出したりする。其の内鼓の音はやみ、又、小路を右に曲ると、人力車を門の前にとめた古い格子戸の家の前にきた。

「ここです。昔屋という店です」と、糸井さんは言う。玄関に入り、青畳の部屋を通過して奥に入ると、廻りコタツ式のカウンターがあり、驚いたことに、外人ばかりでにぎやかに談笑しているのだった。後で聞いた話であるが、この屋の主人は、アメリカ人で、十五年前に留学して京都にきた時、その美しさに魅せられ、汽車から降りて直ぐ此処が自分

の第二の故郷であり、永住の地であると決心したのだという。門の前に置いて人力車もこの主の好みだという。料理は、近江肉のステーキで、酒は世界の名酒を用意してあった。庭は竹林をすくえ、燈籠の灯はほんのりあかして、ゆらゆらと有り明しのようにゆらゆらしていた。主人がアメリカ人であるが、来朝の高官等のおとづれも驚く、キッチンチャイ等もステーキを食べにきていたようである。

いい気分を外に出て、玉砂利を踏みながら、闇の奥に鼓の音がきこえないかと耳をかたむけたが、もう、あの澄んだ鼓の音色はきこえず、ひっそりと静まりかえっていた。夜のときは、すべての境界をかき消してしまふ。どこまであるのか、竹林の向うは何が幻的な奥深さが、酒を飲む宵等に時々思い出されてくる。

老の歩みも足弱く、薄氷を踏む如くにて、心も危きこの鼓、打てば不思議やその声の心耳を澄ます声出づる。

各地だより

広田後援会 53年度春・秋の演能

広田後援会の昭和五十三年度演能は、春季公演が四月十六日、秋の公演は十月八日、金剛能楽堂で催されるが、能組は次のとおりである。

◎四月十六日(日)午後一時半始

能「是れ我意」小書・白頭(シテ)

能「花籠」小書・大返(シテ)

能「花籠」小書・大返(シテ)

能「花籠」小書・大返(シテ)

能「花籠」小書・大返(シテ)

山本定期能 53年度上期演能日程

山本定期能楽会の昭和五十三年上期の演能予定は次のとおりである。

◎一月八日(日)

能 東 室 山本 真哉

能 北 八木 康夫

◎六月三日(土)

能 兼 平 波多野 晋

能 兼 平 波多野 晋

能 兼 平 波多野 晋

訓え

当流で見台を使出したのはいつ頃かわかりませんが、お素人方がお稽古をせられるようになってから

「何だ、織姫(華音前名)だったのか、隣で聞いていた六郎だとはかと思った」と申しました。これでははめられたのか

名古屋清韻会大会

昭和五十三年一月十五日(日・祭日) 午前十時始

| | | | | | | | | |
|------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 神歌 | 大西鐘八郎 | 孝充 | 地謡 | 八神道雄 | 本多道雄 | 松村逸郎 | 杉本一司 | 福屋道雄 |
| 高砂 | 藤沢富美子 | 三谷 俊幸 | 安藤 信之 | 八神道雄 | 本多道雄 | 松村逸郎 | 杉本一司 | 福屋道雄 |
| 番外仕舞 | 山 玉 | 藤 平 | 近藤 幸江 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 |
| 連吟 | 鉢 木 | 高橋 宗司 | 加野 昭三郎 | 高橋 宗司 | 加野 昭三郎 | 高橋 宗司 | 加野 昭三郎 | 高橋 宗司 |
| 仕舞 | 東 屋 | 北 島 | 御牧 紀代 | 御牧 紀代 | 御牧 紀代 | 御牧 紀代 | 御牧 紀代 | 御牧 紀代 |
| 独吟 | 雨 砦 | 月 丸 | 坂崎 久枝 | 坂崎 久枝 | 坂崎 久枝 | 坂崎 久枝 | 坂崎 久枝 | 坂崎 久枝 |
| 舞獅子 | 蟬 丸 | 佐藤 英二 | 後藤 孝一郎 | 後藤 孝一郎 | 後藤 孝一郎 | 後藤 孝一郎 | 後藤 孝一郎 | 後藤 孝一郎 |
| 櫻 川 | 池田美知子 | 吉田 忠三 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 |
| 富士太鼓 | 守部 啓子 | 吉田 定男 | 三嶋 香代子 | 三嶋 香代子 | 三嶋 香代子 | 三嶋 香代子 | 三嶋 香代子 | 三嶋 香代子 |
| 雲 林 | 吉井 佐季 | 近藤 幸江 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 |
| 仕舞 | 天 鼓 | 富士道周明 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 | 水藤 元三 |
| 実 盛 | 長谷川 実 | 吉田 定男 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 | 藤田 昭彦 |

12月・53年1月放送予定

※ NHKラジオ第一放送 (毎週日曜午前10時15分)

(12月)

18日(日) 下掛宝生流「張良」松本謙三ほか

25日(日) 観 世 流「和布刈」大槻秀夫ほか

(53年1月)

8日(日) 観 世 流「女自然居士」観世喜之ほか

15日(日) 観 世 流「東流」今井幾三ほか

22日(日) 観 世 流「玉流」渡辺三郎ほか

29日(日) NHK・FM (毎週日曜午前7時15分)

(12月)

18日(日) 金 春 流「砦通」桜間道雄ほか

25日(日) 観 世 流「通小町」井上嘉久ほか

(53年1月)

8日(日) 下懸宝生流「張良」松本謙三ほか

15日(日) 観 世 流「和布刈」大槻秀夫ほか

22日(日) 観 世 流「海流」大原康次ほか

29日(日) 観 世 流「海流」大原康次ほか

昭和53年度定期能番組

名古屋親世九草会(親世喜之師主筆)の五十三年度定期番組が、このほど発表された。

●初会番組 二月二十五日(土)午後二時始

会場は熱田神宮能楽殿。

能 楽 の 友 社
種区吹上本町2-20
番号 464
(731) 7 9 8 4
名古屋 3 6 3 9 3
1年 500円
1年 800円
50円

53年度名古屋観世会定式日程

名古屋観世会の昭和五十三年度定式能の予定番組、ならびに日程は次のとおり五回の演能である。

●第一回 定式能
二月十二日(日) 十二時半始
舞臺子
安宅 野村 四郎
砂 武田 邦弘
高砂 観世 元昭
仕舞 関根 祥六
大榎 秀夫
片山 伸吾
能 船弁慶 観世 元正
前後之替 片山 伸吾

●第二回 定式能
四月九日(日) 十二時半始
素置
能 船弁慶 観世 元正
前後之替 片山 伸吾

●第三回 定式能
六月十一日(日) 十二時半始
素置
能 西行桜 梅若万三郎
仕舞 梅若万三郎
梅若 盛義

●第四回 定式能
九月十日(日) 十二時半始
素置
能 女郎花 久山 敬二
仕舞 藤井 久雄
梅若 三郎
藤井 三郎
久山 敬二
能 女郎花 久山 敬二
仕舞 藤井 久雄
梅若 三郎
藤井 三郎
久山 敬二

●第五回 定式能
十一月十二日(日) 十二時半始
舞臺子
能 花 梅田 邦久
観世 海夫
善知鳥 観世 海夫
片山 伸吾
片山 伸吾
能 花 梅田 邦久
観世 海夫
善知鳥 観世 海夫
片山 伸吾
片山 伸吾

●第六回 定式能
七月三十日(日) 十二時半始
夏の楽園会
能 通小町 塚本秀雄 殿島修二
小島一英
仕舞 塚本秀雄 殿島修二
小島一英
能 通小町 塚本秀雄 殿島修二
小島一英
仕舞 塚本秀雄 殿島修二
小島一英

「見所に学生風の男女が多く若やいで見えた。いつもの能会風景とちよと違って新鮮な感じがした」

「演者の緑の衣装もあらうが、かつて「牧神の午後」などの舞台化で実験的な試みを敢行した泉嘉夫の関心もあるのじやないか」

「そういえばプログラムの一文(能の新鮮さ)なども彼らしい教養をうかがわせる」

「演目の紹介も紋切り型ながら要を得ている。が、その紹介通り舞台に具象化されているかどうか問題だ」

「問題どころか『小鍛冶』の迫力。近來での名演。素晴らしい。近來での名演。素晴らしい。近來での名演。素晴らしい。」

「迫力あふるる『小鍛冶』」

壺泉会能を観る

前田 満穂

「『小鍛冶』と比較するのは気の毒だが、プログラムの紹介の主旨を生かした切れたとはいえない。とだけ」

「『小鍛冶』と比較するのは気の毒だが、プログラムの紹介の主旨を生かした切れたとはいえない。とだけ」

「『小鍛冶』と比較するのは気の毒だが、プログラムの紹介の主旨を生かした切れたとはいえない。とだけ」

義捐金募集

能楽協会名古屋支部主催
12月4日 能4番を上演



京都・西山を訪ねる

謡曲名所めぐり

光明寺・十輪寺 勝持寺など

能楽の友社では、さき十一月二十三日、京都の西山を訪ねる謡曲名所めぐり旅行会を催しました。

当日は晩秋の好日和に恵まれ、勢五十人が参加、午前八時十分、知文化講堂前を出発、名神高速道路を一路西へ、車中では「教養」

「小嵐」など旅行コースにちなむ謡曲を同吟。京都南一Cから長岡京市に入り、長岡天満宮に参拝ののち、紅葉の名所として知られた「光明寺」に到着。

〔光明寺〕建久九年(一九八)源平の戦いで有名な熊谷直生法師(熊谷次郎直実)によって創立され、法然上人を開山第一世と仰ぐ。直生法師は菩提の道を求め、建久四年三月、吉水の庵室に法然上人を訪ね、その教えを受けて弟子となり、法力房直生と名づけ、粟生広谷の里に寺を建て、上人を開山第一世と仰いで、自らは第二世と名づけた。

壺泉会能

十一月十九日(日)午後一時始
熱田 神宮 能楽殿

龍白藏酒

白龍本店 名古屋市北区深田町
電話 911-7572

書店

流元 剛行 金流 流本 流宗 親家

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
電話 (291) 2488-9
3-35520
〒604 京都市中京区二条通数寄町東入
電話 (231) 19990
113

料理 風

名古屋市千種区大久手町4-11 TEL731-3680

割烹 鳩

名古屋市中区栄3丁目13
電話 (241) 2713

仕舞 巻 綱 占 小林富美子
舞臺子 善知鳥 坂野 嘉子
水波之伝 老 妹 尼 久
後藤孝一郎 助川 昭彦